OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

別紙様式第２号

学　位　論　文

題　目　　ほどほどに生きる高校生
―県内高校生を対象とした意識調査から―

Contemporary High School Students
Who Like to Live Casually
～A Survey of High School Students' Attitude
in Kagawa Prefecture～

氏　名　　中西　公子

平成 19 年度入学

香川大学大学院教育学研究科修士課程　　学校教育専攻　　学校教育専修

指導教員　　加野　芳正

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

目　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第１章　今の高校生を取り巻く状況
第１節　教育界における状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第２節　社会的状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

第２章　高校生調査
第１節　手順と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第２節　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第３節　結果
１．平日の生活について
（１）平日の家での生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（２）平日の放課後の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
①　部・同好会の入部率
②　放課後おもに何をしているのか
２．高校生活全般について
（１）学校生活に対しての意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
（２）登校の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（３）授業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（４）教師について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
（５）校則について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
（６）高校選択について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
（７）高校卒業後の進路について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
（８）高校生と将来の展望（将来の生活に重要なもの・はやく大人になりたいか)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
①　将来の生活に重要なもの
②　はやく大人（おとな）になりたいか
（９）塾・習い事等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
(10) 学校をやめたいと思っている生徒について・・・・・・・・・・31

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

３．部活動とアルバイト
（１）学校生活と部活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
（２）高校生とアルバイト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
① アルバイト経験
② 頻度と収入額
③ 生活への影響
④ アルバイトと将来の展望
⑤ アルバイトと自信
⑥ 部活動と自信
⑦ 小遣い
４．高校生と携帯電話
（１）所持率と持ち始めの時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
（２）小学校から携帯電話を持っている生徒について・・・・・・・・48
５．自分自身について（性格・規範意識・マナー・友人関係）
（１）性格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
（２）規範意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
（３）マナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
（４）友人関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
６．考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

第３章　今後の高校教育への展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

基礎集計表　ならびに　アンケート用紙

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

はじめに

香川県高等学校の教員として採用され28年が過ぎようとしている。特別支援学校、普通科・専門学科の併設高校（進路多様校）、進学校、専門高校といろいろな種別の学校に赴任し、いろいろな生徒と出会ってきた。夢を実現するために自ら選んで高校に入学し希望の大学に進学していった生徒、希望の職場に就職をした生徒、親に勧められて高校に入学してきたが「こんなはずではなかった」と退学をした生徒、また、定時制へ進路変更をした生徒もいる。

香川県の高等学校への進学率は97.2%（H19.3)、全国での値は97.7%であり、高等学校は、今日、ほとんどの青年にとって彼らの青年期を過ごす中心的な場となっている。入学してくる生徒の意識も多様である。休み時間、友達との会話を楽しみ、携帯電話でつながり、放課後はというと、部活動に一生懸命取り組む生徒もいる半面、クモの子を散らすようにあっという間に下校を急ぐ生徒もいる。最近の彼らの毎日の学校生活を見ていると、彼らは何をするために、何を望んで学校に来ているのだろうかと疑問に思うときがある。おおよそ「勉強をするために」という答えが返ってくるとは思えないからである。97.2%の者が「行く」ところなのだから、何の抵抗もなく当たり前に「行く」ところ、すなわち、高等学校を中学校の延長としてとらえ入学してきている生徒が多いように思われる。「勉強するために、自ら選んできたところ、自分の将来を見据えてそのために選んできたところ」としてとらえている生徒の割合よりも「みんなが行くから、自分もきたところ」としてとらえている生徒のほうが多いように思われる。

国・公立大学への進学を目指す高校生は塾に通っている割合が高い。塾で受験対策をどんどん進めており、学校の授業に対しても彼らの意識は受験教科に重点が置かれている。成績を気にしてピリピリした感じがある。習熟度別のクラス分けについては敏感で、今まで籍を置いていた習熟度上位クラスに、３年生になって入れなかったことによって不登校になったり、それとは逆に、３年生になって新しくそのクラスに入ったことで居心地が悪く感じ不登校になったりする場合がある。教師に対しては、教え方がいい・悪い、わかり易い・わかりにくいなどといった評価が主なものであり、学校の教師の役割と塾の講師の役割は同じものであるととらえているように思われる。

アルバイトが彼らの生活に入ってきたことにより、彼らの生活は変化してきている。熱がある生徒が、「アルバイトを休むことができないので、その時間まで学校の保健室で休養させてほしい」と授業時間中に申し出るのには驚かされた。アルバイトが彼らの生活に入ってきた背景には携帯電話との関係もあるようだ。「高校生になったの

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

だから携帯電話の利用料金ぐらいは自分で稼ぐ」といったことがきっかけでアルバイトを始めるケースが多いように思われる。保護者のほうも、「家でぶらぶらしたり、友だちと外でウロウロしたりするくらいならアルバイトをしてくれたほうがずっと安心だし助かる」、というのである。週に２、３回４時間ずつアルバイトをすると、月に３万円から５万円くらいは稼ぐことができる。それに伴って、携帯電話の使用料金も増えているように思われる。「お金は手軽に簡単に稼げる」という気持ちをもたせてしまう。この感覚は危険ではないだろうか。確かに、手軽にお金を稼げるかもしれないが、それと引き換えに様々な危険性を引き受けていることを忘れがちであるからだ。アルバイト先でいろいろな年齢層の人たちと知り合い、彼らの生活が変化することは見逃せない。生徒達のネットワークは、我々教師には把握しきれなくなってきている。学校という場は、彼らが複数所属する集団の一つになっているのであろう。「彼らにとって唯一ひとつのものでなくなってきている」私はそのように今の学校をとらえている。

携帯電話は彼らの生活には欠かせないものになっている。高等学校への持込については「禁止」から「許可制」への移行期にある。ただ、携帯電話をめぐってのトラブルは後をたたない。最近特に多いのは、各個人が立ち上げたブログへの、人権に関わるような書き込みである。最近の生徒たちは、友だち関係において繊細である。自分が他人にどのように見られているのかをたいそう気にするように見受けられる。何かあると、携帯の一斉送信メールでもってクラス中に悪口が一瞬にして回されるからであろうか。また、学習に身が入らない生徒たちにとって、携帯電話のメールは格好の遊び道具である。授業中、メールをしている生徒はかなり多いように思われる。ある生徒がこのように私に言った。「メールして１５分以内に返信が返ってこないと友達関係は壊れた、と考える」と。では、彼らは授業中しょっちゅうメールをチェックしているのであろうか？それでなくても学習に身が入らないのにと心配して、我々教師は、携帯電話持込を禁止していたのだが、保護者のほうから持ち込ませてほしいと要請される。「どこでいるのか、すぐ連絡が取れるから」というのである。しかし、ここには落とし穴があることを見逃してはならない。子どもと確かに声ではつながるかもしれないが、つながるのは彼らにとって都合の良いときのみで、どこで何をしているのかは見えてないのである。親と連絡をとりたくない時には、彼らは携帯電話の電源を切っているのである。つながったとき、見えていない親に都合のよい言い訳をする。携帯電話でもって、親の安心を容易に手にいれることができるようになったと言えるのではないのだろうか。

私は保健体育の教員である。１年生の保健の授業で「一生＝85 年」をイメージさせて「今」を考えさせる機会をもつ。そんな中で、女子生徒はよく言う。「先生、はやく彼と結婚して子どもが欲しい。」、「結婚して、子どもを持つまではイメージできる

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

けど、それから先はない」。23 歳ぐらいまでしか、イメージできないというのである。彼女らは、自分の一生を、結婚という、「枠」の中で考えている。そうかと思えば、「結婚なんかせん。」と公言する者もいる。その生徒たちも、「仕事を持って・・・・」とまでは言うが、30 代、40 代の自分など、イメージできないようである。「人生 85 年」となってきた今、彼らは将来についてどのような生活をイメージしているのであろうか。

10 年くらい前までは、専門学科に通う生徒たちは、「高等学校卒業後は就職する」というのが当たり前であった。現に 11 年前、善通寺西高校でも３年生になると就職を意識しだして、服装、マナー、言葉使いなどにおいてスムーズに指導が進んでいた。彼らも社会に出て働くイメージ作りを始めていたのである。しかし、バブル崩壊後就職難になっていった。それとはうって変わって、少子化の影響から、短期大学、各種学校、私立大学への進学が容易になってきだした。「就職を希望するより進学を希望したほうが、はやく進路が決定する」、そういった時代になった。最近になってここ２・３年は大量退職時代をうけて就職口が増え就職しやすくなったといわれるがそれでも、高等教育各種学校への進学を希望する生徒が多い。背景には複数の要因があるように思われる。一つは、正規雇用をめざすのであれば、少しでもよい学歴を持っていたいと願う気持ちであろう。二つ目は、モラトリアムから。今の生徒を見て感じることは、大人になりたくないと考えている生徒が多いのではないだろうかということである。できるだけ社会に出る時期を遅らせたいと考えている生徒が多いように思われる。保護者のほうも、数少ないわが子に、当然自分たちにできることをすべてしてやりたいと考える。彼らは、将来の生活をどのようにイメージしているのであろうか。

時として、潔いほど、彼らはあっけなく学校を去ることがある。保護者の方が学校に対する思い入れが深い。「せめて高校だけは卒業して欲しい。」そのように訴える保護者を尻目に彼らはこう答える。「高校を卒業していなくても、ちゃんと生きていける。」そのように行って学校を去った彼らであるが、アルバイト先を変える度ごとにその報告にというのであろうか、学校を訪れては校内の友達と楽しそうに話す。退学した生徒たちが度々訪れる高等学校。それならば、なぜ辞めたのかと尋ねたくなってしまう。彼らは高校を、また、校内の友人をどうとらえているのであろうか。かといって、校内の友人たちとの距離が近いというわけでもなさそうである。「広く浅く」が彼らのモットーであるらしい。「あまり、深くは踏み込めない。お互い、しんどくなるし・・・。」友人についてこのように彼らはいう。腹をわって話ができる“親友”というものを今の高校生は持っているのだろうか、また、持ちたいと思っているのだろうか。

進学校に通う生徒たちは、学校と塾とをうまく利用しながら、自分の夢の実現のために彼らなりに学校へ通うことの意味を見出しながら、毎日を主体的に過ごしている

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ように思われる。私にとって特に関心があるのは、進路多様校、専門高校へ通う生徒たちの意識である。私は、専門高校に勤務して今年度で 11 年になる。彼らにとって高校は「居場所」としての要素が強いように思われる。彼らは、高校に何のために通い、何を求めているのか、また、彼らの放課後の生活はどう展開されているのか、自分たちの将来についてどのような展望をもっているのか。これらについて、アンケート調査を通して探ってみたい。そうすることで、今まで 11 年間手探りでつかんできた生徒の実態を実際の数字で明らかにしたいと考える。その際、進学校に通う生徒との比較も試みたい。そして、我々教師が彼らの意識を理解し、受け止め、アドバイスをする際の手立てとしたいと考える。また、各学校がそれぞれの生徒たちの意識を認識したうえで運営される際に少しでも役にたてばと願う次第である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

第１章　今の高校生を取り巻く状況

第１節 教育界における状況

1975 年という年は、日本の戦後教育の大きな転換点であった。それまでの高度成長期時代では、一生懸命勉強してよい大学に進学すれば、自分の未来も開かれると信じられていた。高校への進学率が５割を超えたのが 1954 年である。その後、1975 年まで進学率は上がり続け、1975 年には、高校への進学率は 95%程度にまでなった。ただ、その後横ばいが続いている。同様に、大学への進学率も 1975 年まで上昇を続け、その後横ばいとなった。1970 年代半ばには、大量生産・大量消費も行き詰まりを迎えることとなった。国が豊かになり社会が成熟してくると、多様な価値観を持ちそれぞれが自分なりのゴールを探すようになる。これまでのように、「上位校へ行くことが幸せ」「一流大学から、一流企業へ」という画一的な発想から外れる人たちが出てきたのだ。そして、その波が中学校にまで及んだところで不思議はない。従来の価値観とは全く違う観点で、勉強に取り組み、高校を選択するというのも当然の話なのだ。(寺脇　2008)

「新学力観」、「ゆとり・生きる力」などのカリキュラム改革は、教育理念の点からみても、また、改革を推進した行政機構の点からみても、1984～87 年の臨時教育審議会の産物であると、岩木は、著書「ゆとり教育から個性浪費社会へ」の中で述べている。米欧から貿易黒字削減を厳しく迫られていた日本では、臨教審以降に進められた「ゆとり改革」は、結果的に、消費社会の深化という役割をになうバブル教育であったとも加えられている。ゆとり教育の根本ともいうべき４つのキーワードは、「少子高齢化」、「国際化」、「科学技術の進歩」、「情報化」であった。

その後、1990 年代にゆとり教育は本格化していった。1992 年に学習指導要領と学校週５日制の段階的導入が始まった。内容量が削減され、また小学１、２年生で生活科が導入された。1993 年には中学校で、1994 年には高等学校で家庭科の男女必修が始まった。1995 年に学校週５日制の月２度の導入がなされた。1998 年に、2002 年以降の学習指導要領の内容が決まり、(小・中学校告示)、「総合的な学習の時間」が設けられた。1999 年に、2002 年以降の高等学校の学習指導要領の内容が告示された。「総合的な学習の時間」とは、「生きる力の育成を目指し、各学校が創意工夫を生かして、これまでの教科の枠を超えた学習などができる時間」(文科省のホームページの記載) であり、1970 年代から続いてきた詰め込み教育からの脱却を決定づけるものでもあった。「生きる力」とは、人生 80 年を見据え、生きていく力のことである。しかし、人生 80 年時代には、仕事の能力に加えて、最後まで人生を楽しむ感受性を育まなければならない。寺脇は、著書「学力崩壊の「戦犯」とよばれてさらばゆとり教育」の中で、以上のように述べている。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

「生きる力」

これからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を[生きる力]と称することとし、これらをバランスよく育んでいくことが課題であると考えた。(1996 年 7 月中教審答申　第一次答申第一部（三))

ところが、その頃から学力低下論争が盛んとなりだした。ゆとり教育の真の目的や意義について語る余地などなく、学力低下を食い止めることが緊急課題と考えられるようになった。

このような流れの変化の中でも、今の高校生は勉強をしなくなったと言われて久しい。この背景には、労働体系の変化とともに、少子化に伴う大学全入時代の到来も少なからず影響していると考えられる。耳塚によると、脱受験競争時代における生徒の学習からの離脱をもっとも鮮やかに映し出しているのが、セカンド・ランク（地域で２ないし４番手の進学実績の高校）の高校生である、ということだ。1990 年時点では彼らの学習時間は 112.1 分とトップランクの高校生（114.9 分）と肩を並べていた。ところが、セカンド・ランクの高校生の学習時間は減少の一途をたどり、2006 年には 60.3 分にまで落ち込んだ。90 年の半分強である。少子化を背景に易しくなった大学入試の恩恵を最も被ったのは、この層の高校生であるといってよい。(耳塚　2007)

学習基本調査は 2006 年で第４回を数える。第１回調査（1990 年）が実施されてから今回の第４回調査（2006 年）までの十数年は、それまで不易と考えられてきた日本の教育システムが音をたてて動いた、変動の時期であった。

2001 年の第３回調査を終えて見えてきたものは、１．高校生の家庭での学習時間は全体として減少を続け、平均 70 分あまりとなり、学習離れはどこまでも進むようにみえた。２．達成意欲の減退が目立った。高学歴志向にかげりがみられ、成績アスピレーション（どのくらいの成績がとりたいのか）が低下し、「ほどほどの大学」志向が強まった。３．高校生の意識の中での“受験プレッシャー”が明らかに低下した。この原因は、１．少子化による受験競争の客観的緩和、２．学歴志向や学習の相対化する言説の浸透、３．ゆとり教育とある。(耳塚　2007)

「ゆとり」と「個性尊重」、「生きる力」の育成をめざす教育改革は、受験との関係が薄く、学級担任制をとる小学校段階において、より取り組みが進んでいる。実際に、ある調査によれば、小学校段階ほど、体験学習、調べ学習などの実践が広まっている（ベネッセ教育研究所編集　1999)。だが、そのことが、その後の学習の理解度やそれに応じた興味・関心の

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

育成の基本となる基礎学力の定着を弱めている可能性はないのか。「楽しい学習」を提供したつもりでも、そこから何を学ぶのかは学習者によって違う可能性がある。とりわけ、基礎学力が十分身についていなければ、一見楽しく学んでいるように見えても、そこから得るものが少ない児童・生徒もいるだろう。しかも、そうした学習の差異が、家庭の文化的な背景によって影響を受けている可能性もある。そうだとすれば、基礎学力の未定着が、学年の進行につれ、学力や学習意欲の階層差を拡大している原因となっている可能性も否定できない。

「ゆとり」の協調と、形ばかりの子どもの主体性の尊重は、その意図をはずれ、子どもたちの学習に「ゆるみ」を与えている可能性が高い。その結果、生まれ育つ家庭の違いによって、高い学習意欲や望ましい学習態度を維持する家庭と、ゆるみが学習離れにつながる家庭との分化が生じる。高校段階での学習時間や学習意欲の階層差の拡大には、高校以前の段階での「ゆるみ」への対処の違いが背景にあると考えられるのである。

佐々木は学校の機能について以下の８点をあげている。

① 基礎・基本の読み・書き・算盤
② 常識と一般教養
③ 生活や生産に役立つ技能
④ 職場に必要な規律
⑤ 社会に必要な市民意識や人格
⑥ 就職必要な学歴資格
⑦ 成績や態度を評価し、社会に人材配分すること
⑧ 同年齢の友だちが集まる居場所

さて、これまで教育の機能として、①～⑧を見てきたが、都市化や消費化や個人化などの社会変化によって、①～⑥までの機能が著しく減退したことを認めざるを得ない。それでも教育の営みが延々と続けられてきたのは、人材配分と居場所機能があるからだと言える。

上記の現象を学校機能の分散と見ることもできる。つまり学校以外の機能が、従来の学校で行ってきた機能の肩代わりをすることができるようになったのだ。①基礎・基本はテレビ（インターネット）で、②教養は週刊誌や雑誌（インターネット）で、③技能は機械メーカーの研修で、④規律は現場の初任者研修で、⑤人格はメディア世界で、⑥資格については学歴資格を職業資格が肩代わりし始めた。

居場所とはどういった場所をさすのであろうか。居場所とは、当事者に深く内面化された社会規範を解きほぐす自由な語りが可能な場、創傷した自己の語り直しが可能な場を意味する。（荻野　2006）また、刈谷は、居場所について以下のように述べている。「学校には友達がいるし､子どもや若者たちの居場所としての機能がある。1970 年代に、教育のほかの多様な機能の価値が下がっても、学校の居場所機能だけは衰えなかったし、むしろこの頃

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

から重視され始めたのではないか。」（苅谷　2001）

第２節 社会的状況

中等教育機関としての高等学校に期待される役割としては､「未来の日本の社会で有用な社会人の形成」があった。そういう意味で、学校から仕事への移行機関としての高等学校の果たす役割が明確であった。ところが、1991 年にバブルが崩壊し、1973 年より続いてきた安定成長期も終わりを告げ、平成不況に突入するに至った時、高等学校が果たす役割は変化しだした。（石田　2005）

コスト削減、また機械技術の進歩によって高い技術を有する中高年よりも、安価な契約社員やフリーターを選択するようになってきた。正社員であっても将来が約束されているわけではなく、リストラは、いつ誰においても降りかかってくる問題となった。このような状況を目の当たりにして、若年層に不安が広がったのも無理はない。一生懸命勉強しても、将来に不安がある。その時、高校生たちにも、「今が楽しければそれで満足」という風潮が広まった。苅谷は、「将来のことを考えるよりも今の生活を楽しみたい」と思い、「あくせく勉強してよい学校や会社に入っても､将来の生活に大した変わりはない」と感じる、とりわけ、社会階層・下位グループの生徒にとっては、学校での成功をあきらめ、現在の生活を楽しもうと意識の転換をはかることで、自己の有能感が高まるのである、と言っている。（苅谷　2001）

学校を通しての就職の斡旋にのってこない生徒の比率が増え、学校を卒業して、進学も正規の就職もしない「無業層」の割合が徐々に拡大していった（粒来　1997、日本労働研究機構 2003）。学校から職業生活への移行に困難をかかえる若年層の出現である（本田　2004、労働政策研究・研修機構　2004）。高校卒業後の進路をみると、就職率は 1999 年に 20％を切り、無業者は 10％ほどに増加した。

新卒後３年以内に会社を辞めた若年者の割合を見ると､大卒では87年３月卒では28.4％であったものが、2002 年３月卒では 34.7％、また高卒では同じく 46.2％から 48.6％に高まっている。このような新卒者の早期離職率の高まりの背景として、景気低迷時に卒業したため思うような就職ができなかった若年者が、希望どおりの仕事に就くため離職するという景気循環に基づく要因も考えられる。上の考え方に立てば、新卒時の景気が厳しいほどその世代の転職率や転職希望率が高まると考えられる。このことは、90 年代以降景気の低迷が長期間続く中で、若年者の転職希望が高まったことと整合的である。大学の新規学卒者の就業後３年目の離職率に、何が影響を与えているかを分析したところ、新卒時の求人倍率が低いほど卒業後３年目の離職率が高まることがわかった。また、離職率が傾向的に高まっていることも確認された。さらに、同じ分析を卒業後１年目および２年目の離職者について行っても同様の結果が得られた。このことから、景気が低迷し、希望どおりに

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

就職できなかった大学卒業者が増加した結果、離職率が高まっていることが示唆される。なお、近年は景気回復にともない、離職率は低下している。（学校の卒業年に景気が悪かった世代については、希望どおりの就職ができない可能性が高まるため、その後転職する可能性が高まる。逆に景気が良かった世代については転職する可能性が低くなる。こうした傾向は「世代効果」と呼ばれている。）また、卒業後 3 年目離職率の前年からの変化を要因分解したところ、94～98 年、2001～2002 年において、卒業時の求人倍率の影響が離職率を高めていることが分かる。以上を総括すれば、90 年代後半以降の離職率の高まりは、景気悪化による不本意就職が増加したことが背景の一つであると考えられる。何らかの夢をかなえるため、あるいは好きなことに時間を使うため、時間的な拘束が比較的緩いパート・アルバイトを選択する若年者もいる。しかしこの中には、将来的には正社員として働き始めたいと考えている者もいれば、パート・アルバイトとして働き続けたいと思っていたが､結婚を考えたりするなどの理由で､正社員としての職を探す者もいると考えられる。このように、新卒時に自ら希望してパート・アルバイトとなる若年者は、新卒時の景気が良くなったとしても一定の割合で存在すると考えられる。

パート・アルバイトとして働いている 20 代に、「10 年後に希望する就業形態は何か」と尋ねたところ、10 年後は正社員となりたいとの回答は男性で 85.0%であり、男性パート・アルバイトの８割以上が将来的には正社員として働きたいと考えている。（平成１８年度　国民生活白書）

財団法人日本青少年研究所が行った「高校生の消費に関する調査－日本・アメリカ・中国・韓国の比較－」の調査結果を参考にしたい。これは、2007 年 10 月～11 月にかけて、日本・アメリカ・中国・韓国の高校生に実施した調査である。

【目的】

（ア） 21 世紀にはいり、情報化、消費化が進んでいる日本では、高校生たちはどのような消費意識を持ち、そしてどのような消費行動をとっているかを把握する。

（イ） グローバル時代の今、日本・アメリカ・中国・韓国の高校生の消費意識と消費行動にどのような異同があるかを把握する。

【調査方法】

調査の時期、サンプルの数、調査方法などは下表のとおりである。

	日本	アメリカ	中国	韓国
実施時期	2007 年 10 月～11 月	2007 年 10 月～11 月	2007 年 10 月～11 月	2007 年 10 月～11 月
調査学校の数	12 校	12 校	30 校	22 校
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
サンプル数	1388 票	1005 票	1537 票	1465 票

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

【調査概要】

① 所持品

	日本	アメリカ	中国	韓国
「親から定期的に小遣いをもらっている」	56.1%	21.4%	34.8%	44.3%
「家事の手伝いで小遣いをもらったことがある」	53.2%	51.9%	26.3%	36.9%
一か月に自由に使えるお金の額	10,250 円	178 ドル (19,936 円)	229 元 (3,435 円)	69,928 ウォン (8,391 円)
希望する一ヶ月の小遣いの金額	14,910 円	152 ドル (17,024 円)	300 元 (4,500 円)	100,571 ウォン (12,069 円)
一ヶ月で使う小遣いの金額	7,210 円	138 ドル (15,456 円)	185 元 (2,775 円)	58,184 ウォン (6,982 円)
今年もらったお年玉の金額	35,020 円	143 ドル (16,016 円)	1062 元 (15,930 円)	123,113 ウォン (14,774 円)
現在の貯金額	148,850 円	1168 ドル (130,816 円)	2217 元 (33,255 円)	517,673 ウォン (62,121 円)
「携帯電話を持っている」	96.5%	79.6%	63.4%	86.1%
「パソコンをもっている」	21.0%	60.7%	43.3%	41.2%

2007 年 11 月 15 日の為替レート：1 ドル＝112 円、1 元＝15 円、100 ウォン＝12 円

② ブランドや流行についての意識

	日本	アメリカ	中国	韓国
「私はテレビ、雑誌、新聞の広告に影響されるほうだ」	56.5%	33.5%	32.6%	45.9%
「最新流行のファッションを一度はしてみたいほうだ」	58.8%	44.9%	41.3%	42.2%
「気にいるものであれば、値段が高くても買う方だ」	51.1%	46.3%	34.7%	42.0%
「自分はクールな（かっこいい）ほうだと思う」	12.9%	67.9%	40.3%	35.2%

③ 小遣いの使途

日本　　：「外食代」「洋服やアクセサリー」「小説や雑誌、マンガなど」「おやつ代」
アメリカ：「洋服やアクセサリー」「外食代」「おやつ代」「音楽や映画」
中国　　：「おやつ代」「外食代」「勉強書籍や用具」「趣味用品」
韓国　　：「おやつ代」「洋服やアクセサリー」「カラオケ、ゲームセンター、ネットカフェなど」

この結果からうかがえる日本の高校生の消費行動について以下のようにまとめてみた。「親から定期的に小遣いをもらっている」割合が他の三国に比べ大きい。「今年もらったお年玉の金額」が平均で35,020 円と極端に多い。日本では、高校生へ、高額の小遣いを周りの大人が与えていると言えよう。現在の貯金額が平均148,850 円とこれも多い。「携帯電話を持っている」割合は平均96.5%と高いが、「パソコンをもっている」割合は21.0%と他の

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

３国に比べ極端に低い。携帯電話とパソコンに対する意識の違いが現れているようである。パソコンは画面が大きいので、何をしているのか親も把握しやすいが、携帯電話では全くわからない。

ブランドや流行についての意識は、「テレビ、雑誌、新聞の広告に影響されるほうだ」「最新流行のファッションを一度はしてみたいほうだ」「気にいるものであれば、値段が高くても買うほうだ」に「はい」と答える割合が高く、高校生が消費社会の一員として組み込まれていることを物語っている。

小遣いの使途は、日本は「おやつ代」というよりは「外食代」や「洋服やアクセサリー」と答えていることから、小遣いの額の多さを物語っている。アメリカでも同じような傾向にある。

先行研究によると、高校生の規範意識は、学校や教師が期待するものとは必ずしも合致するものではない。高校生たちは、学校以外の青年文化や親近感をもつ階層文化やマスコミの影響などの中で選択的に独自な価値規範を形成していくとある。（米川ら　2002）

家族に対する価値意識と学校に対する価値意識とが、まずその個人の価値意識の中核を形作り、それに連動するかたちで社会的なモラルが形成されているという構造である。家族に対する価値意識と社会的なモラル意識との関係が最も高く、家族に対する価値意識と学校に対する価値意識との相関は、家族に対する価値意識―社会的なモラル、学校に対する価値意識―社会的なモラルに較べて相関が低いということである。そこから、家族に対する価値意識と学校に対する価値意識とは比較的独立したものとして形成され、その二つの意識の上に社会的モラルが形成されるのではないかということである。

また、米川は学校に対する価値意識の尺度として、学校への帰属意識・規範意識・愛校心・期待など学校生活に関わる価値規範の 11 項目からなるもので構成している。それと、性別、成績、学校環境との関連を探った。結果として、男子に比べ女子のほうが、学校に対する価値意識が高いことが明らかになった。また、成績が上位のものほど、学校環境としては、クラブ活動が盛んな学校ほど、学校行事が盛んな学校ほど学校に対する価値意識が上位に位置する傾向がみられた、とある。

「今回の改正法は、これまでの教育基本法が掲げてきた普遍的な理念を継承しつつ、公共の精神等、日本人が持っていた『規範意識』を大切に、それらを醸成してきた伝統と文化の尊重など、教育の目標として今回特に重要と考えられる事柄を新たに定めています。」（平成 18 年 12 月 15 日、教育基本法改正法成立を受けての文部科学大臣談話の一部）。ここには、現代社会が内にはらんでいる規範意識の低下への危機感がある。日本が経済の高度成長期に入り、国民の生活が物質的に豊かになるにつれ、それに呼応して欲望も肥大化し、制御がきかなくなる。欲望の充足にとって邪魔になる社会のルールや規範を軽視し無視してはばからない、いわゆるアミノー（社会学の用語・語源はギリシアのアノミア（無法状態）であり、習慣、決まり、掟、法律、規範を意味するノモスという単語にそれを否定する接頭辞アが付くア

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ノモスに由来している。）の風潮が社会に蔓延すれば、これが子どもたちの教育によい影響を与えるはずがない。

物質的に豊かで自由な社会に生まれ育った子どもたちの中に、特に勉強や努力をしなくても、なんとなく豊かで自由な生活が送れるものと錯覚する子どもが出てきても不思議はない。そうなれば、何のなすところもなく、ただいたずらに空しい一生を送るいわゆる「酔生無死」のやからが増えるばかりである。そして、この風潮が子どもたちの間にいわゆる六無主義症候群を蔓延させているのである。六無主義症候群とは、１．意欲的に充実した生活を求めない無気力、２．自分さえよければ、他人はどうでもよい無関心、３．自分が属する共同体に対して責任を果たさない無責任、４．美しいものや気高いものに心が動かない無感動、５．日常の基本的生活習慣すら身に付いていない無作法、６．これら五無主義の根底には、自分の人間としての在り方生き方についての無自覚がある。（尾田　2007　）

高等学校の段階では、人間としての在り方、生き方についての自覚を深めることが求められる。人間としての在り方とは、人間としてのかつて在った在り方や現に在る在り方もさることながら、人間本来の在るべき在り方（倫理）である。これを追求しながら、「この自分の生き方」（道徳）の自覚を深めることが求められているのである。この段階での規範意識は、たんにそれがしきたりだから、ルールだから守るというのではなく、しきたりやルールの必要性は、文化と伝統、政治や経済、教育、芸術、宗教といった各分野にわたる幅広い教養に支えられて、体認されなければならないのである。（（尾田　2007　）

改正教育基本法においても、教育の目的は人格の完成である。人格の完成とは、一人一人の個性がそれぞれ自己を実現することである。中核は、成熟した豊かな心である。豊かな心とは①自分自身を真剣に見つめる心　②他の人を優しく思いやる心　③美しいものや気高いものに素直に感動する心　④世のため人のため、公共のために進んで尽くそうとする開かれた広い心、である。こうしたひたむきで、優しく、素直で、開かれた広い心、すなわち豊かな心を育てることが、規範意識の低下の元凶である無気力・無関心・無責任・無感動・無作法・無自覚といういわゆる六無主義症候群を克服する唯一の途である。（尾田　2007　）

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

第２章　高校生調査

第１節　手順と方法

香川県の高校生たちは、生活の中で何に多くの時間を費やし、何に関心を持っているのか。学業に対してどのような構えを持ち、人生と社会に対してどのような意識と展望を育んでいるのか。また、自分について友人についてどう思っているのかなど高校生の日常生活について「高校生の意識と行動に関する調査」を実施することにした。これは４件法注１を中心に一部記述を取り入れた質問紙によるものである。

・方法　　アンケート調査
・時期　　２００８年６月～７月
・対象　　香川県下の公立・私立高等学校　１６校抽出
　　１～３年生対象
　　全日制（普通科・専門学科・総合学科のバランスを考慮）　　約 2,000 名
・回収方法　教室での集合自記式質問紙法

依頼文とアンケートを持って各学校へ依頼に回った。どの学校も快く調査に協力していただけることになった。各学校へはアンケート依頼時、アンケート用紙配布時、回収時と計３回訪ねたが、その際、各高校また生徒の様子についても記録をとるようにした。注２

第２節　調査の概要

香川県下の高校１６校、基本的には各校各学年１クラスもしくは２クラスずつ、計 2,254 名を対象に行った。その際、平成１９年度香川県高等学校生徒数を参考にし、各地域別人数・学科別人数において香川県の縮図になるように心掛けた。ただ、普通科生徒人数の割合に比べ専門学科生徒人数の割合がかなり高くなった。これは、今回の調査では専門学科生徒について特に力を入れて分析してみたいと考え、普通科生徒については比較として行なおうと計画したためである。また、私立高等学校については、１校のみの実施であった

注１；４件法とは、４つの選択肢の中から一つ選ぶものである。

注２；今回の調査では、ありのままの回答がひろえることに注意を払った。当初、各高校の各クラス担任にアンケートの実施を任せるのではなく、自ら出向いてこのアンケートの持つ意味を語り協力してもらえるよう生徒たちに直接訴え実施したいと考えた。しかし時間的にも難しく、「アンケート実施に際してのお願い」を作ることで、学校側へもまた実施者にも協力を求めた。そしてアンケート回答後は、各自でこちらが用意した封筒に入れ、各自で封をした後提出してもらうことにより、各個人の回答が学校に知られることがないことを強調するとともに、各学校にも事前にそのことについて了解をとっておいた。なぜなら、質問の中にはアルバイトについて等、生徒の側からすると回答を見られたくない質問もあるし、学校側もそのことを知ることによりやっかいな問題を引き起こす項目等が含まれているからである。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ため、この結果については参考程度にとどめ、今回の全集計からは除くことにした。今回の分析は公立高等学校１５校にしぼり、記入もれ等の調査用紙を除いたので、1,926 名を対象としている。

【地域別】　（人）

	普通科		専門学科	
東讃	（A）	102	（K）	79
高松	（B）	117	（D）	196
	（C）	109		
	（D）	89		
	（E）	157	（L）	78
中讃	（F）	113	（M）	195
	（G）	107	（N）	177
	（H）	118	（O）	69
西讃	（I）	113		
	（J）	78	（J）	29
	計	1,103		823
			計	1,926

【学年別割合】　（人）

１年	676	35.1%
２年	609	31.6%
３年	641	33.3%
計	1,926	100.0%

【男女別割合】　（人）

男子	860	44.7%
女子	1064	55.3%
計	1,924	100.0%

【学校分類別割合】注３（人）

普通科Ⅰ（４校）	489	25.4%
普通科Ⅱ（６校）	614	31.9%
専門学科（７校）	823	42.7%
計	1,926	100.0%

【専門学科別割合】　（人）

農業	（L）78	（D）109		187	22.7%
商業	（M）195	（J）29		224	27.2%
工業	（N）177	（O）26		203	24.7%
家政	（K）79	（D）87	（O）43	209	25.4%
			計	823	100.0%

（上記表中の（A）～（O）は協力校名をそれぞれアルファベットに置き換えたものである。）

各質問結果を「全体」、「男女」、「学校分類別」注３毎にパーセンテージで示し、必要があればもっと細かく分けたり、分散分析や相関等を利用することにした。

第３節　結果

１．平日の生活について

（１）平日の家での生活

まず、公立高校 1,926 名が生活の中で何に多くの時間を費やしているのか探るため、平日の生活の様子をたずねた。表１は対象生徒全体の割合をパーセントで表したものである。

注３；「学校分類」とは「国公立大学合格率（ここでは、平成１９年度の合格人数をその年の３年生在籍数で割ったものとした）」を利用し、普通科を二つに分け、国公立大学合格率が 29.5%から 41.5%の普通科４校（489 名）を普通科Ⅰ、10%以下の普通科６校（614 名）を普通科Ⅱとし、専門学科７校（823 名）を加えた３群のことである。）

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表１　平日の生活時間

	しない	10 分	30 分	1 時間	2 時間	3 以上	平均
１．テレビを見たり、ラジオを聞いたりする	5.9%	1.6%	6.8%	25.7%	35.9%	24.0%	104.0
２．マンガや雑誌を読む	25.4%	11.6%	25.4%	25.2%	8.5%	3.9%	41.0
３．小説や教養書などの本を読む	59.1%	11.8%	13.8%	10.3%	3.1%	2.0%	18.8
４．友だちと携帯や電話で話したり、メールしたりする	13.1%	14.2%	17.9%	18.3%	16.1%	20.5%	74.0
５．パソコンや携帯でインターネットをする	24.0%	8.9%	19.9%	20.7%	14.8%	11.7%	58.2
６．勉強をする	48.0%	7.3%	13.1%	16.5%	11.0%	4.1%	35.2
７．新聞を読む	60.9%	31.1%	6.6%	0.9%	0.3%	0.2%	6.3

ほとんどしない=しない　10 分くらい=10 分　30 分くらい=30 分　1 時間くらい= 1 時間　2 時間くらい=2 時間
3 時間以上=3 以上 と表記した。

また、回答を以下のように換算し、平均値を出した。

「ほとんどしない」=0　「10 分くらい」=10　「30 分くらい」=30
「1 時間くらい」=60　「2 時間くらい」=120　「3 時間以上」=180

男女別、学校分類別に平均値を表したのが表２である。

表２　平日の生活時間（平均値）　　平均　分

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．テレビを見たり、ラジオを聞いたりする	104.0	99.1	107.8	93.8	105.6	108.8
２．マンガや雑誌を読む	41.0	43.1	39.4	32.0	40.4	47.0
３．小説や教養書などの本を読む	18.8	17.2	20.2	15.2	19.7	20.4
４．友だちと携帯や電話で話したり、メールしたりする	74.0	59.4	85.6	59.9	76.0	80.9
５．パソコンや携帯でインターネットをする	58.2	51.3	63.6	47.1	58.1	64.8
６．勉強をする	35.2	30.6	38.9	63.9	39.9	14.4
７．新聞を読む	6.3	8.5	4.6	6.5	6.2	6.3

全体の平均をみると、テレビ、ラジオ、漫画、雑誌といった娯楽的活動に費やしている時間は 2 時間 25 分となっている。携帯電話やインターネットを使って友達と連絡を取り合ったり、調べ物をしたり、音楽を聞いたりする時間も２時間以上ある。それに対して、勉強時間は 35 分であった。これは全体の平均であるから、実際には、もっと勉強をする者もいれば、家でほとんど勉強しない者も多数いることになる。また、平日、新聞を読む時間が平均わずか 6.3 分である。決して多い数字ではない。

表３は、上の項目について、比較的長い時間を費やしている者の割合を示したものである。

表３　平日の生活時間の分布　　%

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．テレビ・ラジオ「２時間くらい」以上見る者	59.4	55.2	62.8	51.9	61.7	62.2
２．マンガ・雑誌「１時間くらい」以上読む者	37.6	40.1	35.3	26.4	37.5	44.3
３．本「１時間くらい」以上読む者	15.4	13.9	16.6	12.4	16.6	16.3
４．話し・メール「２時間くらい」以上携帯や電話でする	36.4	26.3	44.5	26.6	38.3	40.8
５．インターネット「２時間くらい」以上パソコンや携帯でする	26.4	21.7	30.1	17.4	25.9	32.1
６．勉強「２時間くらい」以上する	15.0	11.5	17.9	30.3	18.9	3.0
７．新聞「３０分くらい」以上読む	7.9	11.6	4.9	9.0	7.2	7.8

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

平日､テレビ･ラジオを２時間くらい以上見る者が全体で 60%に達するということから、娯楽の中心はやはりテレビ・ラジオであるといえよう。同時にインターネットや携帯電話を利用して様々な情報を取り入れたり、友人とメールや電話をしたりする時間が彼らの生活に組み込まれていることは間違いない。それに比べ、勉強に費やす時間が減ってきている。また、学校分類間で平日の家庭での過ごし方に大きな差があるということがわかる。普通科Ｉの生徒は、娯楽的活動に費やす時間および携帯電話やインターネットを使う時間が、普通科Ⅱと専門学科の生徒に比べ少ない。また、小説や教養書などの本を読む時間も少ないことがわかる。また、男子と女子を比較してみると、友だちと携帯や電話で話したり、メールしたりする時間は、圧倒的に女子のほうが長いということが言える。新聞を読む時間は、数値の上では男子の方が長いということも言えよう。

テレビの視聴時間については、別の質問で独立させてたずねている。それをまとめたのが表４である。

表４　平日のテレビ視聴時間

	全体	男	女	普通科Ｉ	普通科Ⅱ	専門学科
平均時間（分） 注４	**110.9**	**105.8**	**115.0**	**96.9**	**111.8**	**118.5**
１．３０分以内	12.1%	13.9%	10.7%	11.9%	10.0%	13.8%
２．１時間ぐらい	21.0%	23.5%	18.9%	28.4%	20.1%	17.2%
３．１時間３０分ぐらい	11.9%	11.6%	12.1%	14.6%	13.9%	8.7%
４．２時間ぐらい	25.5%	24.9%	26.0%	26.7%	27.5%	23.2%
５．２時間３０分ぐらい	7.9%	7.0%	8.6%	8.8%	7.7%	7.5%
６．３時間ぐらい	13.3%	12.1%	14.2%	7.2%	13.3%	16.9%
７．それ以上	8.4%	7.1%	9.4%	2.3%	7.5%	12.7%

全体では、平日２時間ぐらいテレビを見ていると答えた生徒が 25.5%で最も多かった。３時間以上と答えた者が 21.7%おり、この数字も見逃せない。前述 17 頁、表２の、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりする」という質問では平均時間が 104 分であった。ここでの平均値が 110.9 分であるので､「テレビを見たりラジオを聞いたりする」という中身はほとんどテレビであることがわかる。また、表３「テレビ・ラジオ『２時間くらい』以上見る者」の割合は 59.4%であった。表４からこの割合を求めてみると、55.1%になり、回答に妥当性があることがわかる。

勉強時間についても同様に、別の質問で独立させてたずねている。より正確に値を把握したいからである。この質問では、授業以外の勉強時間（平日・テスト発表期間中やテスト期間中は除く。また、塾や予備校、また放課後学校に残って勉強する時間などすべて含む）をたずねた。それをまとめたのが表５である。

注４；「30 分以内」=30　「1 時間ぐらい」=60　「1 時間 30 分ぐらい」=90　「2 時間ぐらい」=120
「2 時間 30 分ぐらい」=150　「3 時間ぐらい」=180　「それ以上」=210 として平均時間を算出した。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表５　平日の授業以外の勉強時間　　テスト発表期間中やテスト期間中は除く。また、塾や予備校、放課後学校に残って勉強する時間などすべて含む。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
平均時間（分） 注５	**53.5**	**49.3**	**56.9**	**85.4**	**61.6**	**28.5**
１．０時間	32.7%	35.1%	30.8%	9.0%	28.3%	50.1%
２．３０分以内	20.8%	21.5%	20.2%	16.0%	19.9%	24.5%
３．３０分から～１時間	14.2%	13.5%	14.8%	18.0%	14.7%	11.7%
４．１～1.5 時間	10.4%	12.3%	8.9%	17.0%	9.3%	7.3%
５．1.5～２時間	9.4%	7.4%	11.0%	16.0%	12.5%	3.2%
６．２～３時間	7.8%	6.2%	9.1%	15.7%	9.4%	1.8%
７．３～４時間	2.8%	1.7%	3.7%	6.3%	3.1%	0.5%
８．４～５時間	0.9%	1.2%	0.8%	1.2%	1.8%	0.1%
９．５～６時間	0.4%	0.3%	0.5%	0.6%	0.5%	0.2%
10．６時間以上	0.5%	0.7%	0.3%	0.2%	0.5%	0.6%

前述 17 頁、表２の値は平日の家庭でのものである。家庭での勉強時間の平均は 35 分であった。表５からわかるように、平日の勉強時間は全体では平均 53.5 分となっている。これは塾での勉強時間等が加わったためである。テスト発表期間中やテスト期間中を除いた平日、塾や予備校、また放課後学校に残って勉強する時間などすべて含んだ勉強時間が、「０時間もしくは 30 分以内」と答えた生徒の割合が全体では 53.5%であった。この数字は学校分類間で大きな差があった。普通科Ⅰでは 25.0%、普通科Ⅱでは 48.2%、専門学科では 74.6%であった。

特に、授業以外の勉強時間０時間と答えた割合に注目したい。学校分類別で大きな差がある。平日、授業以外では全く学習の時間をとらない生徒が、普通科Ⅰで 9.0%、普通科Ⅱで 28.3%、専門学科で 50.1%、全体では 32.7%と３分の１の割合で存在するということになる。この数字をどう考えればよいのであろうか。もう少し詳しく見るため、この項目について学校分類ごと、学年ごとに集計したのが表６と図１である。

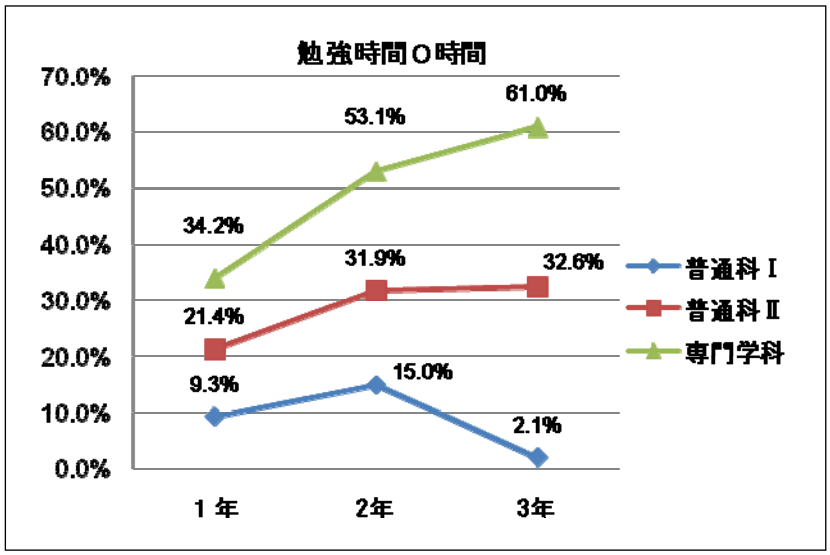
表６　平日、授業以外の勉強時間０時間

	普通科Ⅰ			普通科Ⅱ			専門学科		
	１年	２年	３年	１年	２年	３年	１年	２年	３年
０時間	9.3%	15.0%	2.1%	21.4%	31.9%	32.6%	34.2%	53.1%	61.0%

注５；「0 時間」=0　「30 分以内」=30　「30 分から～１時間」=45　「１～1.5 時間」=75　「1.5～２時間」=105　「２～３時間」=150　「３～４時間」=210　「４～５時間」=270　「５～６時間」=330　「６時間以上」=360 として平均時間を算出した。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

図１



普通科Ⅰの生徒で平日授業以外全く勉強しない者が、１年生では 9.3%、２年生では 15.0%と増えているが、３年生になると 2.1%と減る。普通科Ⅱの様子をみると、１年生では 21.4%、２年生では 31.9%、３年生では 32.6%と、２年生から３年生では横ばいとなる。専門学科では、１年生では 34.2%、２年生では 53.1%、３年生では 61.0%と、平日、授業以外では全く勉強しない生徒の割合が、学年が上がるに従い増えていっている。

（２）平日の放課後の生活

①　部・同好会の入部率

高校生の放課後の活動の代表的なものが部活動である。部・同好会の所属率を集計したのが表７である。

表７　部・同好会の所属率

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
入部率	72.8%	76.9%	69.6%	79.1%	77.0%	66.0%

部・同好会への入部率は全体で 72.8%となっている。女子に比べ男子の方が入部率が高い。また、専門学科の生徒は他の二群また、平均と比べても入部率が低い。専門学科では放課後、作業や作品製作、当番、各種検定などが求められることがあり、そのことの影響が考えられる。

部活動については、高校生の生活に大きな影響を与えると考えられるので、改めて 36 頁、「３．部活動とアルバイト」で述べたいと思う。

②　放課後おもに何をしているのか

彼らは放課後、具体的に何をしているのであろうか。これについて集計したのが表８である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表８　放課後の主な行動 注６

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．まっすぐ家へ帰る	26.1%	25.3%	26.8%	24.8%	25.0%	27.8%
２．友だちと話をする	17.7%	15.3%	19.7%	16.2%	18.1%	18.4%
３．友だちと遊びに行く	11.8%	11.8%	11.8%	8.5%	10.8%	14.7%
４．一人で街をぶらぶらする	2.1%	3.0%	1.4%	1.7%	1.8%	2.6%
５．何となく学校に残っている	2.9%	2.7%	3.1%	2.4%	3.6%	2.7%
６．部活動に参加する	30.8%	34.2%	28.1%	35.0%	31.8%	27.3%
７．委員会活動に参加する	0.7%	1.1%	0.4%	0.7%	0.8%	0.6%
８．アルバイトをする	2.2%	1.3%	2.9%	0.0%	1.9%	3.8%
９．塾や予備校に行く	4.0%	4.1%	4.0%	9.1%	4.7%	0.3%
10．その他	1.7%	1.3%	1.9%	1.6%	1.6%	1.8%

この結果から、彼らの放課後の様子がうかがえる。全体でみると、1 位が「部活動に参加する」、続いて「まっすぐ家へ帰る」、３位に「友だちと話をする」である。男女の違いとしては、「友だちと話をする」割合が、男子に比べ女子のほうが高い。専門学科の生徒は、「友だちと遊びに行く」と答えた割合が、普通科Ⅰ、普通科Ⅱの生徒よりも高く、積極的に放課後を「遊び」に使っている割合が高いことがうかがえる。

２．高校生活全般について

（１）学校生活に対しての意識

放課後と家庭での過ごし方については大枠でとらえることができた。次にみておきたいのは、彼らが学校生活をどう思っているかについてである。これについて集計したのが表９である。

表９　学校生活全般に対する評価 注７　　そう思う

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．学校生活は楽しい	80.6%	81.0%	80.2%	85.5%	82.2%	76.4%
２．クラスに親しみを感じる	77.8%	79.7%	76.4%	81.8%	76.7%	76.3%
３．学校の休み時間は楽しい	84.6%	83.3%	85.7%	86.0%	83.2%	84.9%
４．気軽に話し合える先生が多い	51.5%	51.7%	51.3%	51.7%	48.0%	53.8%
５．就職や進学について友人と話すことが多い	49.6%	42.6%	55.2%	55.7%	51.3%	44.6%
６．クラスに気の合う人が多い	73.4%	75.9%	71.3%	79.1%	70.2%	72.3%
７．校則は厳しい	60.4%	54.9%	64.9%	50.3%	54.5%	70.8%
８．先生の言うことに納得がいかないことがある	67.0%	65.7%	67.9%	67.2%	64.8%	68.5%
９．学校をやめたいと思うことがある	33.9%	29.8%	37.1%	26.6%	31.3%	40.1%
10．進路に役立つ授業が多い	51.3%	51.2%	51.3%	57.4%	41.1%	55.2%
11．自分の興味、関心にあった授業が多い	38.2%	39.6%	37.1%	38.3%	29.5%	44.6%

注６；多い順に３つ回答しているので、１位には３点、２位には２点、３位には１点を与え集計した。表中の 1 から 10 のそれぞれの項目が、負荷をつけて集計しなおした合計得点全体に占める割合をパーセンテージで表わした。

注７；15 頁でも述べたように、今回のアンケートは４件法が中心である。この質問でも「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」から一つ選んでいる。それを集計する際、「とてもそう思う」、「ややそう思う」をまとめて、「そう思う」割合としてパーセンテージで表わした。以下同様である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

全体の 80.6%が「学校生活は楽しい」と答えており、また、77.8%がクラスに親しみを感じている。また、84.6%が「学校の休み時間は楽しい」と答えている。ただ、「気軽に話し合える先生が多い」には、51.5%の生徒が「そう思う」と答えているにとどまっており、また、67.0%の生徒が「先生の言うことに納得がいかないことがある」と答えている。生徒と教師との隔たりを感じる。「学校をやめたいと思うことがある」に 33.9%の生徒が「そう思う」と答えており、３人に１人が、「学校をやめたいと思うことがある」と答えたことになるが、この数値は見逃せない。この項目には、男子に比べ女子の方が「そう思う」と答えている割合が高い。また、学校分類間で数字上の差が認められる。これについては後の節、31 頁、「(10)　学校をやめたいと思っている生徒について」で詳しく述べたい。

また、「進路に役立つ授業が多い」に 51.3%、「自分の興味、関心にあった授業が多い」に 38.2%がそう思うと答えており、自分の興味・関心には合わないが、進路に役立つので・・・という意識がうかがえる。また、「就職や進学について友人と話すことが多い」に 49.6%が「そう思う」と答えているにとどまっており、友達との会話に、就職や進学についての話題はあまり出てこないことがわかる。

「自分の興味、関心にあった授業が多い」には、専門学科の 44.6%が「そう思う」と答えており、専門学科ならではの特徴を反映している。

（２）登校の目的

学校生活に対していろいろな思いを持ちながら登校していることがわかった。ダイレクトに登校の目的をたずねた項目がある。それをまとめたのが表 10 である。

表 10　登校の目的　　**あてはまる**

	全体	男	女	普通科 I	普通科 II	専門学科
１．学校へは勉強をするために来ている	73.5%	71.5%	75.0%	80.4%	75.6%	67.7%
２．学校へは友達と話をするために（会うために）来ている	82.1%	76.7%	86.5%	85.9%	80.5%	81.1%
３．学校へは部活をするために来ている	52.6%	60.0%	46.7%	61.1%	50.7%	48.9%
４．学校へは他に行くところがないのでとりあえず来ている	23.9%	26.5%	21.8%	18.2%	23.6%	27.7%

全体の 73.5%が「学校へは勉強をするために来ている」と答えている。ただ、この数字は学校分類間で差がある。全体の 82.1%が「学校へは友達と話をするために（会うために）来ている」と答えており、学校生活における友達の存在の大きさを物語っている。また、全体の半数以上の生徒が、「学校へは部活をするために来ている」と答えており、部活動の比重が大きいことがわかる。全体の約４人に１人、23.9%が「学校へは他に行くところがないのでとりあえず来ている」と答えているが、この数値の大きさも見逃せない。

（３）授業について

授業は学校生活の中で最も重要な部分である。授業に対してどう感じているのかをまと

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

めたのが表 11 である。

表 11　授業に対する評価　　**あてはまる**

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．授業はわかりやすい	66.8%	67.1%	66.6%	77.3%	65.3%	61.6%
2．予習をする	20.2%	16.5%	23.1%	39.7%	19.4%	9.1%
3．授業にまじめに参加する	80.7%	78.3%	82.7%	85.3%	82.7%	76.5%
4．ノートをきちんととる	91.0%	88.1%	93.3%	93.0%	90.9%	89.8%
5．授業には満足できる	55.2%	56.8%	53.9%	64.2%	51.9%	52.2%

全体の 66.8%が「授業はわかりやすい」と答えている。「予習をする」生徒は、20.2%、５人に１人であるが、「授業にまじめに参加する」に、80.7%、５人に４人が「あてはまる」と答えており、「ノートをきちんととる」に 91.0%、９割が「あてはまる」と答えている。高校生にとって、真面目に授業に参加するとは、予習をするレベルではなく、ノートをきちんととるレベルであることがわかる。「授業には満足できる」に「あてはまる」と答えた生徒は 55.2%にとどまっている。

授業の理解度、また、成績の気になり度、成績についての行動をまとめたのが表 12、表 13、表 14 である。

表 12　授業の理解度

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．ほとんど全部わかる	4.6%	6.6%	2.9%	5.9%	4.2%	4.0%
2．７割くらいわかる	33.3%	32.8%	33.7%	44.9%	33.6%	26.2%
3．半分くらいわかる	44.3%	42.0%	46.2%	37.7%	46.6%	46.5%
4．３割くらいわかる	12.8%	14.0%	11.8%	8.8%	12.2%	15.6%
5．ほとんどわからない	5.0%	4.7%	5.4%	2.7%	3.4%	7.7%

表 13　成績の気になり度（意識）

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．たいへん気になる	29.7%	30.3%	29.1%	37.6%	30.8%	24.2%
2．かなり気になる	21.5%	22.1%	21.1%	25.2%	22.8%	18.5%
3．少し気になる	36.9%	33.5%	39.7%	26.6%	35.8%	43.7%
4．気にならない	11.9%	14.1%	10.1%	10.6%	10.6%	13.6%

表 14　成績について（行動）

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．少しでも成績を上げるようにしたい	53.1%	51.0%	54.9%	68.0%	59.5%	39.6%
2．仲間についていけるぐらいにしたい	14.2%	14.3%	14.0%	12.5%	13.7%	15.5%
3．せめて欠点だけはとらないようにしたい	32.0%	33.6%	30.7%	19.1%	26.6%	43.7%
4．成績のことはどうでもよく、留年するようなことになってもかまわない	0.7%	1.0%	0.4%	0.4%	0.2%	1.2%

成績が「たいへん気になる」、「かなり気になる」と答えたのはあわせて 51.2%である。「少しでも成績を上げるようにしたい」と思っているのは、53.1%で、「仲間についていけるぐ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

らいにしたい」と思っているのが 14.2%、「せめて欠点だけはとらないようにしたい」と思っているのが 32.0%である。成績をあげることに関しては、あまり積極的ではないことがわかる。この成績に関する意識と行動は、学校分類間で様子が異なる。専門学科では、成績について「少しでも成績を上げるようにしたい」と思っている生徒と「せめて欠点だけはとらないようにしたい」と思っている生徒の二極化の様子がみられる。

（４）教師について

前述 22 頁で「生徒と教師との隔たりを感じる」と述べた。生徒たちは我々教師についてどう思っているのだろうか。それをまとめたのが表 15 である。

表 15　人気のある先生について　　そう思う

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．知識の豊富な先生	67.2%	67.3%	67.1%	75.3%	62.9%	65.7%
２．ユーモアのある先生	93.0%	92.5%	93.4%	97.5%	93.8%	89.8%
３．きびしい先生	23.7%	23.4%	23.9%	22.8%	20.8%	26.5%
４．えこひいきしない先生	72.0%	68.9%	74.5%	75.6%	76.1%	66.8%
５．親身になって考えてくれる先生	87.6%	83.9%	90.6%	92.4%	88.1%	84.4%
６．授業に熱心な先生	64.2%	60.5%	67.1%	73.2%	63.8%	59.0%
７．よく話を聞いてくれる先生	89.5%	85.2%	92.9%	93.7%	89.9%	86.6%

知識が豊富で、きびしく、授業熱心な先生よりは、ユーモアがあり、ひいきせず、親身になって考えてくれ、また、よく話を聞いてくれる先生の方が人気があることがわかる。彼らが学校の教師に期待しているのは、授業に熱心で、知識を与え、きびしいという面よりも、ユーモアがあり、親身になって自分の話をよく聞いてくれるということらしい。

男女間で差のある項目がある。女子は、教師に対し「よく話を聞いてくれること」「親身になってくれること」「えこひいきしないこと」を男子より強く望んでいる。

ひとつ注目したいのは、専門学科の生徒の「きびしい先生」に対する評価である。ものづくりをめざす専門学科の生徒にとって教師は、徒弟制で言うならば「親方」のような存在であり、場面によっては教師の言うことは絶対的なところがあろう。それに対し反発もするがやはり、厳しいところはあって然るべきと受け入れていると解釈できる。

（５）校則について

学校の校則についてどう思っているのであろうか。これをまとめたのが表 16 である。

表 16　校則について　　そう思う

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．校則を守るのは高校生として当然である	75.7%	79.9%	72.4%	78.7%	76.4%	73.5%
２．校則を守るのは先生から悪く見られないためだ	56.6%	56.7%	56.4%	58.1%	56.8%	55.4%
３．校則を守れば、就職や進学に有利になる	74.9%	72.4%	76.9%	62.8%	73.9%	82.7%
４．校則をよく守る人はそうでない人よりも尊敬できる	53.9%	55.2%	52.9%	53.3%	51.8%	55.8%
５．校則は生徒自身の意見を尊重して作られるべきだ	77.8%	75.4%	79.7%	80.3%	74.4%	78.8%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

全体の 75.7%が「校則を守るのは高校生として当然である」と答えている。また、74.9%が「校則を守れば、就職や進学に有利になる」と答えており、ある意味、校則を守るのは就職や進学のためという意識がうかがえる。この項目については学校分類間で大きな差がある。就職者の割合が高い普通科Ⅱ、専門学科の生徒の、それぞれ 73.9%、82.7%がそう思うと答えており、校則に対する意識がわかる。これについては、学校側の指導方針の表れと読み取れる。「校則は生徒自身の意見を尊重して作られるべきだ」に普通科Ⅰの 80.3%、普通科Ⅱの 74.4%、専門学科の 78.8%がそう思うと答えており、高校生が自分たちで校則をつくるという意識が強いように思われる。

では、校則について、実際どの程度知っており、守っているのだろうか。これについてまとめたのが表 17、表 18 である。

表 17　校則認知度

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．とてもよく知っている	2.6%	3.1%	2.2%	2.7%	2.1%	2.9%
2．まあまあ知っている	58.4%	53.6%	62.4%	54.8%	56.4%	62.0%
3．あまりよく知らない	36.4%	39.5%	33.9%	39.8%	38.3%	32.9%
4．全く知らない	2.7%	3.8%	1.6%	2.7%	3.3%	2.2%

表 18　校則遵守度

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．とてもよく守っている	12.1%	14.3%	10.3%	10.4%	13.4%	12.2%
2．まあまあ守っている	73.5%	72.4%	74.4%	74.8%	74.9%	71.7%
3．あまり守っていない	12.8%	11.7%	13.7%	13.3%	10.7%	14.1%
4．全く守っていない	1.6%	1.5%	1.5%	1.4%	1.0%	2.1%

校則に対しては、内容については一応理解しており、ある程度守っているという姿勢が見受けられる。少し離れるが、各学校で月一回行われている服装検査の意味について私なりの解釈を述べたいと思う。これは生徒と教師が月に一度、服装の“目合わせ”をする機会であると考えている。確かに、服装検査が終わるとスカートを短くしたり、シャツを出したりして、さっきの服装検査は何だったのだろうかと思うことがある。しかし、服装検査の時に正規の服装を自らさせることで、日常は違反していることを彼ら自身に自覚させるという意味合いがある。そういうふうに服装検査をとらえている。

（6）高校選択について

彼らは今の高校を選ぶにあたってどのような思いがあったのだろうか。そして、最終的に現在の学校を選んだ理由は何だったのだろうか。それをまとめたのが表 19、表 20 である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 19　高校選択について

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．はじめから現在の学校・学科を希望していた	45.4%	44.1%	46.5%	54.3%	37.8%	45.8%
2．現在の学校の別の学科を希望していた	7.8%	8.5%	7.3%	6.4%	5.5%	10.4%
3．別の学校の現在と同じ学科を希望していた	18.1%	19.0%	17.4%	22.5%	30.3%	6.3%
4．別の学校の別の学科を希望していた	16.5%	14.4%	18.3%	10.0%	14.8%	21.7%
5．特に行きたい学校はなく、どの学校でもよかった	10.7%	12.5%	9.0%	6.8%	10.6%	13.0%
6．本当は高校に行きたくなかった	1.5%	1.5%	1.5%	0.0%	1.0%	2.8%

「はじめから現在の学校・学科を希望していた」と答えた生徒は、全体では 45.4%にとどまる。半数以上の生徒は、必ずしも第一志望ではなかった。偏差値体制の現状では仕方のないことで、高校間格差の現状を反映している。普通科Ⅱの 30.3%が、違う学校の普通科を希望していたと答えている。また、専門学科の 45.8%が、「はじめから現在の学校・学科を希望していた」と答えている。彼らは、「自分の学業成績、才能、適性を考えて」「就職に有利だから」「親や先生などまわりの人がすすめたから」と納得して現在の学校・学科を選択した。「特に行きたい学校はなく、どの学校でもよかった」の項目については、普通科Ⅰの 6.8%、普通科Ⅱの 10.6%、専門学科の 13.0%が「そう思う」と答えており、「本当は高校に行きたくなかった」と答えた生徒とともに、この生徒たちをどのように指導していくかが大きな課題であることが理解できる。

表 20　高校選択決定理由注８

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．家に近いから	14.1%	14.2%	14.0%	15.8%	16.3%	11.4%
2．親や先生などまわりの人がすすめたから	9.6%	9.2%	9.9%	7.3%	9.6%	11.0%
3．学費の経費が安いか	2.7%	3.3%	2.2%	2.1%	2.6%	3.0%
4．自分の学業成績を考えて	33.7%	30.7%	36.1%	36.9%	38.6%	28.0%
5．自分の才能、適性を考えて	12.0%	11.8%	12.2%	9.3%	10.6%	14.7%
6．就職に有利だから	7.0%	9.4%	5.1%	1.3%	1.3%	14.7%
7．大学進学に有利だから	4.9%	4.7%	5.0%	12.1%	3.7%	1.5%
8．他の学校に合格できなかったから	2.4%	2.9%	2.0%	1.3%	2.1%	3.3%
9．学校の伝統や評判がよいから	3.2%	3.1%	3.2%	5.6%	2.7%	2.1%
10．友だちが行くから	2.3%	3.1%	1.6%	2.2%	3.0%	1.9%
11．その他	8.2%	7.6%	8.6%	6.2%	9.5%	8.4%

高等学校の選択の理由として、全体の 33.7%が「自分の学業成績を考えて」と答えている。学校選択の理由は学校分類によって様相が異なる。特徴的なものは上で述べた。ここで注目したいのは「家に近いから」をあげている生徒の割合の大きさである。小学校、中学校と近くの学校へ通うのが当たり前だった生徒たちにとって、高校選択に際しても「家に近い」ということが理由のひとつになっているということであろうか。また、普通科Ⅱの生徒は、その他の理由として部活動をあげる者が多かった。

注８；あてはまるものを強い順に２つ回答しているので、１位には２点、２位には１点を与え集計した。表中の１から 11 のそれぞれの項目が、負荷をつけて集計しなおした合計得点全体に占める割合をパーセンテージで表わした。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

（７）高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路意識が、彼らの今の生活に影響していると考えられる。そこで卒業後の進路希望についても明らかにしなくてはならない。それをまとめたのが表 21 である。

表 21　卒業後の進路希望

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．４年制の国・公立大学	32.8%	37.4%	29.1%	68.0%	37.5%	8.3%
２．４年制の私立大学	15.0%	16.2%	14.0%	18.7%	21.2%	8.1%
３．短期大学	6.9%	1.8%	11.0%	2.3%	7.3%	9.3%
４．専修学校・各種学校	20.0%	13.7%	25.2%	8.0%	22.0%	25.7%
５．就職	22.6%	27.8%	18.5%	2.3%	9.1%	45.0%
６．その他	2.7%	3.3%	2.2%	0.8%	2.9%	3.6%

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
０時間	32.7%	35.1%	30.8%	9.0 %	28.3%	50.1%

注目したいのは、普通科Ⅱである。90%の生徒が進学を希望しているにもかかわらず、平日、授業以外に勉強する時間が０時間と答えた生徒の割合が 28.3%である。入試の形態が多様化し、進学の準備をしなくても大学に入れる現状をこのデーターは物語っている。

（８）高校生と将来の展望（将来の生活に重要なもの・はやく大人になりたいか）

高校生が将来についてどのような展望を持っているのかについて知ることも重要である。

①　将来の生活に重要なもの

表 22 は「将来の生活に重要なもの」についてまとめたものである。

表 22　将来の生活にとって重要なもの　　**重要**

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．高い収入が得られること	92.6%	94.1%	91.4%	90.4%	94.3%	92.7%
２．会社の中で高い地位につけること	53.6%	64.6%	44.7%	52.7%	56.2%	52.3%
３．収入が安定していること	97.9%	97.2%	98.5%	98.8%	97.7%	97.6%
４．社会や人のためになること	82.3%	80.0%	84.3%	86.0%	82.9%	79.7%
５．清く正しくくらすこと	79.5%	77.9%	80.9%	84.8%	79.0%	76.7%
６．自分の家族や家庭生活を大切にすること	96.2%	95.6%	96.6%	97.7%	96.1%	95.3%
７．自分の思い通りに自由にできること	74.1%	77.6%	71.1%	79.1%	73.0%	71.9%
８．自分の能力が発揮できること	93.0%	92.1%	93.7%	94.9%	93.2%	91.7%
９．休日・休暇が多いこと	72.1%	76.6%	68.6%	71.5%	69.2%	74.7%
10．自分の趣味にあったくらしができること	94.6%	94.1%	95.0%	96.1%	93.0%	94.9%
11．他人との人間関係を大切にすること	95.1%	93.5%	96.3%	96.5%	94.5%	94.7%

全体の約 95%は「収入が安定していること」、「自分の家族や家庭生活を大切にすること」、「他人との人間関係を大切にすること」、「自分の趣味にあったくらしができること」が自分の将来の生活にとって重要であると思っている。「会社の中で高い地位につけること」「清く正しくくらすこと」「自分の思い通りに自由にできること」「休日・休暇が多いこと」この４項目については、「重要である」と答えた生徒の割合が低かった。彼

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

らは、これらの項目をあまり重要でないと考えているのではなく、これらの項目に関しては、始めから望んでも手に入れることは難しいと理解しているからではないだろうか。当然のことながら、高校生たちは、今の社会を反映した意見を持っている。

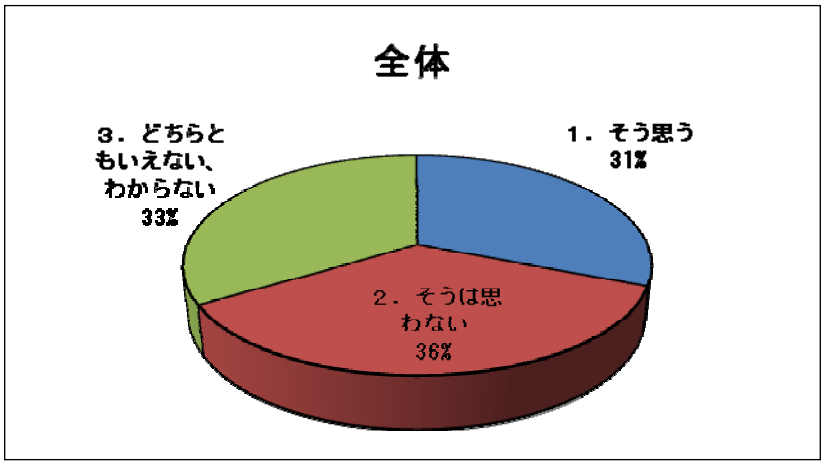
② はやく大人(おとな)になりたいか

彼らははやく大人(おとな)になりたいと思っているのだろうか。これについてまとめたのが表 23 と図 2 である。

表 23 はやく大人(おとな)になりたいか

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．そう思う	30.9%	29.1%	32.4%	28.7%	30.8%	32.2%
2．そうは思わない	35.6%	37.9%	33.7%	37.8%	35.1%	34.7%
3．どちらともいえない、わからない	33.5%	33.1%	33.9%	33.5%	34.1%	33.2%

図 2



全体を「そう思う」「そうは思わない」「どちらともいえない、わからない」の三つの意見がほぼ均等に三分している。男女別にみると少し差があり、女子のほうがはやく「大人」になりたいと思っている。また、学校分類別でも差があるようである。進学希望者が多い普通科Ⅰは、「早く大人になりたいとは思っていない」生徒の割合が高い。また、専門学科では、普通科Ⅰ、普通科Ⅱに比べ大人になりたいと思っている生徒の割合が少し高い。就職と関連しているのだろうか。

それぞれの理由をまとめたのが表 24、表 25 と図 3、図 4 である。

表 24 早く大人になりたい理由

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．勉強しなくてよいから	13.9%	12.7%	14.8%	11.7%	12.8%	15.8%
2．好きな遊びが何でもやれるから	11.4%	13.5%	9.8%	9.4%	11.7%	12.1%
3．やりたい仕事に早くつきたいから	27.1%	27.4%	26.8%	30.5%	27.9%	24.7%
4．早く一人前に扱ってほしいから	7.0%	7.2%	6.9%	7.8%	9.5%	4.9%
5．父や母に楽をさせたいから	14.6%	16.5%	13.2%	14.8%	11.7%	16.6%
6．欲しいものが自由に買えるから	11.2%	10.5%	11.7%	12.5%	8.4%	12.6%
7．その他	14.8%	12.2%	16.7%	13.3%	17.9%	13.4%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 25　早く大人になりたくない理由

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．大人になると、働かなくてはいけないから	8.3%	9.8%	7.0%	8.3%	7.7%	8.8%
2．子どもでいるほうが楽だから	31.2%	31.7%	30.5%	33.9%	32.2%	28.7%
3．大人になっても、特にやりたいこともないし、夢もないから	7.4%	9.5%	5.5%	5.6%	8.2%	8.1%
4．大人になって、仕事や家のことをちゃんとやっていける自信がないから	14.2%	10.8%	17.4%	12.8%	15.9%	14.0%
5．まわりの大人をみていると、ずるい人や自分勝手な人が多いから	11.8%	13.0%	10.8%	11.1%	8.2%	15.1%
6．大人になることが何となく不安だから	18.9%	16.2%	21.5%	18.9%	20.7%	17.6%
7．その他	8.0%	8.9%	7.3%	9.4%	7.2%	7.7%

表 24、表 25 のそれぞれをグラフで表したものが図３、図４である。

図３

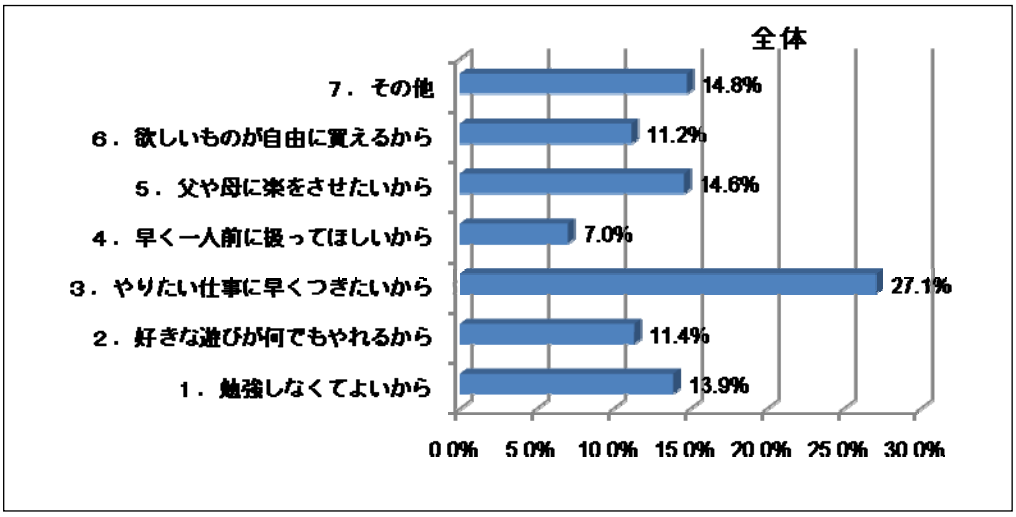
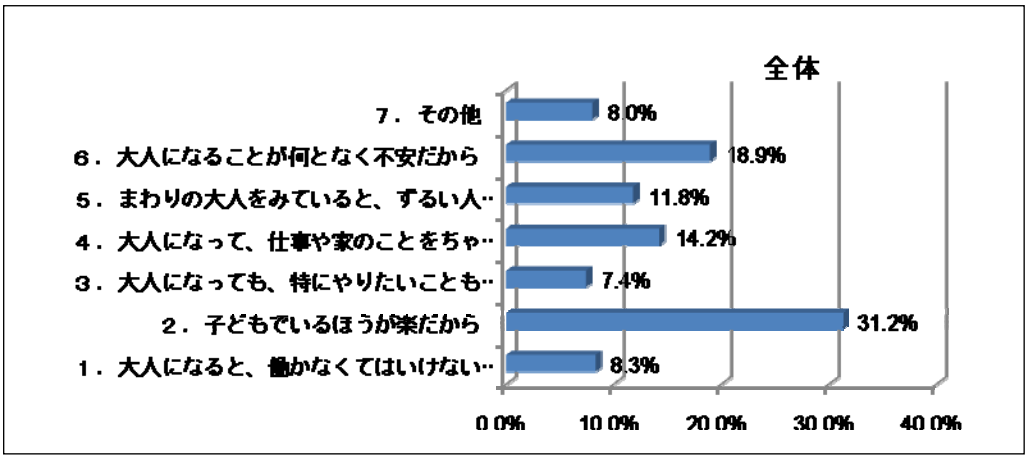


図４



「早く大人になりたいと思う理由」としてあげている理由として一番多いのが「やりたい仕事に早くつきたいから」27.1%、続いて「父や母に楽をさせたいから」14.6%、三番目は「勉強しなくてよいから」13.9%である。他方、「早く大人になりたいと思わない理由」としては、一番多いのが「子どもでいるほうが楽だから」31.2%、続いて「大人になることが何となく不安だから」18.9%、三番目は「大人になって、仕事や家のことをちゃんとやっていける自信がないから」14.2%であった。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

（９）塾・習い事等について

塾・習い事は、高校生の生活の中で、どのぐらいのウエイトを占めているのであろうか。この結果をまとめたのが表 26 である。

表 26　塾・習い事等について　　はい

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．学習塾・予備校に通っている	20.1%	20.9%	19.5%	41.1%	25.9%	3.4%
２．通信教育をしている	6.1%	4.8%	7.2%	14.3%	5.5%	1.7%
３．家庭教師に習っている	3.0%	3.0%	2.9%	3.9%	3.4%	2.1%
４．習い事をしている	10.7%	5.7%	14.8%	16.2%	11.4%	6.9%
計	**39.9%**	**34.4%**	**44.4%**	**75.5%**	**46.3%**	**14.1%**

塾・習い事等をしている生徒は、全体で約 40%である。男女を比べてみると、女子は習い事をしている割合が高い。アンケートでは、どのような習い事をしているのか記述してもらった。代表的なものは、ピアノ、書道・硬筆、英会話である。その他にも、ダンス、テニス、太極拳、茶道など幅広い。塾・習い事等については、学校分類間で差がある。普通科Ⅰの 75.5%は、何らかの塾・習い事をしている。普通科Ⅱでは 46.3%、専門学科では 14.1%となっている。

全体の 20%が、学習塾・予備校に通っている。この項目についても学校分類間で差がある。普通科Ⅰの 41.1%、普通科Ⅱの 25.9%、専門学科の 3.4%が学習塾・予備校に通っている。この、「学習塾・予備校に通っている」と答えた 388 名に、学習塾・予備校についてたずねた。それについてまとめたのが表 27 である。

表 27　塾や予備校の評価　　そう思う

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．塾・予備校の授業はよくわかる	93.9%	95.1%	93.0%	94.6%	93.8%	90.6%
２．塾・予備校の授業はおもしろい	74.9%	75.3%	74.5%	78.1%	69.8%	81.3%
３．塾・予備校のほうが学校よりも勉強にうちこめる	81.5%	85.7%	77.8%	81.1%	80.9%	87.5%
４．塾・予備校のほうが学校よりも質問しやすい	87.8%	90.6%	85.4%	86.1%	88.9%	93.3%
５．塾・予備校の先生と気楽に話せる	87.6%	89.6%	85.8%	87.1%	87.0%	93.8%
６．塾・予備校の先生は尊敬できる	74.9%	76.2%	73.6%	73.5%	73.5%	90.6%
７．塾・予備校では友だちと深くつきあえる	56.6%	67.4%	47.6%	57.7%	54.0%	62.5%

「塾・予備校のほうが学校よりも勉強にうちこめる」に全体の 81.5%が「そう思う」と答えている。また、「塾・予備校のほうが学校よりも質問しやすい」についても 87.8%が「そう思う」と答えている。これらについては、同じ目的で集まった者を少人数に分けた環境なので、「そう思う」と答えて当然かもしれない。しかし、「塾・予備校の授業はよくわかる」「塾・予備校の授業はおもしろい」は授業の質に関するものである。それらについて、それぞれ 93.9%、74.9%が「そう思う」と答えている。もちろんこれらにも環境面が大きく関与していることも事実であろう。しかし、この値の大きさは見逃せない。高校教師

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

として私も考えさせられた。

また、「塾・予備校の先生と気楽に話せる」に全体では 87.6%、普通科Ⅰの 87.1%、普通科Ⅱの 87.0%、専門学科の 93.8%が「そう思う」と答えている。前述 21 頁、表 9「気軽に話し合える先生が多い」について、全体では 51.5%の生徒が「そう思う」と答えたにとどまったことから、学校の教師と、塾・予備校の教師とでは生徒からの距離が質的に違うようである。学校では、なかなか先生と気軽に話せない何かしらの雰囲気があるようだ。この原因はどこにあるのだろうか。

（10）学校をやめたいと思っている生徒について

前述 21 頁、表 9 の「学校をやめたいと思うことがある」の項目に 33.9%が「そう思う」と答えている。ここではその理由について考察していきたい。表 9 からわかるように、男女間での差が大きいことが一つの特徴である。また、学校分類間でも差があるように思われる。そこで、「学校をやめたい」を従属変数、「学校分類」と「学年」を独立変数とする分散分析を行った。この結果をまとめたのが、表 28 および図 5 である。

表 28　学校をやめたい得点（学校分類別・学年別平均）注 9

		普通科Ⅰ			普通科Ⅱ			専門学科		
		1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年
やめたい得点	平均	3.24	2.91	2.99	2.93	2.83	3.03	2.88	2.64	2.70
	(標準偏差)	.869	.952	.979	.948	1.015	.991	.991	1.005	1.037
学校分類別平均		3.06			2.93			2.74		
	(標準偏差)	.938			.986			1.016		

F 値		
学校分類	学年	学校分類*学年
15.528 ***	7.929 ***	1.917

注 10

*p<.05　**p<.01　***p<.001

注 9 ；この質問には、1.とてもそう思う、2.ややそう思う、3.あまりそう思わない、4. 全くそう思わない、から一つ選んで回答している。この得点の平均値で比較した。

注 10 ;「学校分類*学年」は交互作用を表している。有意差がある時は、「学校分類」条件と「学年」条件を組み合わせた条件には、それぞれの条件の効果を単純に加算しただけでは説明できないその組み合わせ独自の効果があると考える。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

図５

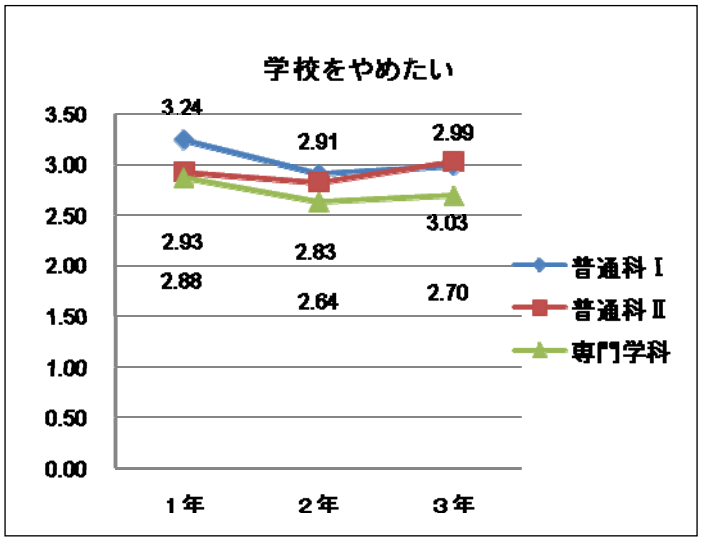


表 28 からわかるように、学校分類間と学年間で有意な差がみられた。専門学科が一番高く、続いて普通科Ⅱ、三番目が普通科Ⅰとなっている。また学年でいうと、１年生の時には学校をやめたいと思うことがある割合が低いが、２年生で高くなり、３年生になるとまた低くなる傾向がある。

次に、学校をやめたいと思うことがある生徒の意識を探ってみたい。学校をやめたいと思うことがある以上、学校生活との関係があるのは当然である。そこで、あらためて前述 21 頁、表９の「学校をやめたいと思うことがある」と、学校生活に関する項目（校則、授業、成績など）との関係をみてみた。それらをまとめたのが表 29 から表 33 である。

なおここでは、「学校をやめたい度得点」注 11 を使い、この得点と各質問項目の得点との相関を見た。

表 29　「学校生活全般に対する評価」との相関

	相関係数
１．学校生活は楽しい	-.436 **
２．クラスに親しみを感じる	-.297 **
３．学校の休み時間は楽しい	-.245 **
４．気軽に話し合える先生が多い	-.212 **
５．就職や進学について友人と話すことが多い	-.111 **
６．クラスに気の合う人が多い	-.252 **
７．校則は厳しい	.247 **
８．先生の言うことに納得がいかないことがある	.355 **
10．進路に役立つ授業が多い	-.172 **
11．自分の興味、関心にあった授業が多い	-.248 **

*p<.05　**p<.01　***p<.001

「学校をやめたい」とこれら学校生活に関するものとの間には、相関があった。特に相

注 11；この質問には、1.とてもそう思う、2.ややそう思う、3.あまりそう思わない、4. 全くそう思わない、から一つ選んで回答しているが、選んだ番号を「やめたい度得点」とした。この得点の全体平均値と、以下同様にして算出した他の項目の得点平均値との相関係数で関係をみることにした。相関係数が 0.4 以上のものは特に相関が強いといえる。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

関係数の大きいものは「学校生活は楽しい」、「先生の言うことに納得がいかないことがある」の２項目であった。

表 30　「登校の目的」との相関

	相関係数
１．学校へは勉強をするために来ている	-.248 **
２．学校へは友達と話をするために（会うために）来ている	-.086 **
３．学校へは部活をするために来ている	-.183 **
４．学校へは他に行くところがないのでとりあえず来ている	.439 **

表 31　「校則」との相関

	相関係数
１．　校則を守るのは高校生として当然である	-.305 **
２．　校則を守るのは先生から悪く見られないためだ	.004
３．　校則を守れば、就職や進学に有利になる	-.020
４．　校則をよく守る人はそうでない人よりも尊敬できる	-.154 **
５．　校則は生徒自身の意見を尊重して作られるべきだ	.147 **

表 32　「授業に対する評価」との相関

	相関係数
１．授業はわかりやすい	-.276 **
２．予習をする	-.189 **
３．授業にまじめに参加する	-.204 **
４．ノートをきちんととる	-.178 **
５．授業には満足できる	-.310 **

表 33　「授業の理解度・成績」との相関　注 12

	相関係数
授業の理解度	-.258 **
成績	.177 **
成績の気になり度	-.161 **
成績について（行動）	-.205 **

*p<.05　**p<.01　***p<.001

「学校をやめたい」と学校へ来る目的、校則への意識、また授業、成績のほとんどの項目と相関がある。校則については「校則を守るのは当然である」、授業については、「わかりやすさ」、また、「授業の満足度」と特に強い相関がある。また、「授業の理解度」、「成績についての行動」が関連しているというのも理解できる。

「学校をやめたい」と教師に対する人気と関連があるだろうか。この関係をまとめたのが表 34 である。

注 12；表 33 の内容は、前述 23 頁、表 12～表 14 のとおりである

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 34　「人気のある先生」との相関

	相関係数		相関係数
1．知識の豊富な先生	-.169 **	5．親身になって考えてくれる先生	-.110 **
2．ユーモアのある先生	-.159 **	6．授業に熱心な先生	-.217 **
3．きびしい先生	-.083 **	7．よく話を聞いてくれる先生	-.151 **
4．えこひいきしない先生	-.032		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

「人気のある先生」は、自分にとってもプラスの志向が働き、教師に対する期待度を表していると考えられる。ここではマイナスの相関が見受けられた。すなわち、教師に対しての志向が強い場合は「学校をやめたい」とは思わない傾向がある。この結果から、「学校をやめたいと思うことがある」に教師の存在は関係していると言えよう。

注目したいのは、表 30「学校の目的」の中の「学校へは友達と話をするために（会うために）来ている」との負の相関である。「学校へは友達と話をするために（会うために）来ている」と答える生徒が多い中、学校をやめたいと思う生徒は、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」と答える傾向にある。また、表 29 でも、「クラスへの親しみ」「クラスに気の合う人が多い」に負の相関があった。校内の友人の存在は、彼らを学校につなぎとめる役割を担わないようである。友人との関係についても検証しなければならない。それについてまとめたのが表 35 である。

表 35　友人関係[注 13]との相関

	相関係数		相関係数
1．現在同じクラスの人が多い	-.100 **	7．同じくらいの成績の人が多い	.028
2．現在同じ学年の人が多い	-.078 **	8．メンバーはいつも決まっている	.030
3．現在同じ学校の人が多い	-.146 **	9．休日一緒に行動することが多い	.071 **
4．現在同じ部の人が多い	-.093 **	10．何でも悩みごとを相談しあえる	.029
5．同じ中学出身の人が多い	.060 *	11．将来ずっと続くグループだと思う	-.002
6．同性の人のみである	-.044		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

この結果から次のことが言えそうである。「学校をやめたい」と友人関係は何らかの関係がある。学校をやめたい思うことがある生徒の友人関係は、同じ学校、同じクラス、同じ部活といった学内の枠に入っていない。同じ中学校出身の友人、それも異学年の友人関係が中心であるらしい。また、そのグループとは休日一緒に行動することが多い。すなわち、「学校をやめたい」と思うことがある生徒は、中学校のときから固定された同じ仲間と付き合っており、なかなか友達の輪が広がらない傾向にある。先ほどの表 30 の結果を支持し

注 13；「もっとも仲のよいグループについて、あてはまるときは１（はい）、あてはまらないときは２（いいえ）に○をつけてください。」

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ている。また、回答は「はい」「いいえ」の２件法なので、これが４件法であったらもっとはっきりとした傾向が出てくるものと思われる。

では、本人たちは自分の交友関係についてどう思っているのかみてみた。それについてまとめたのが表 36 である。

表 36　自分の交友関係について　注 14

	思う	思わない
１．多くの友人と広くつきあう	38.0%	43.4%
２．少数の友人と深くつきあう	62.0%	56.6%

学校をやめたいと思うことがある生徒は、「多くの友人と広くつきあう」より「少数の友人と深くつきあう」傾向にある。

続いて、家庭環境との相関を見てみた。それについてまとめたのが表 37 である。

表 37　家庭環境との相関

	相関係数			相関係数	
１．親はしつけがきびしい	.017		６．親と将来のことについて話をする	-.116	**
２．親は教育熱心だ	-.041		７．父を尊敬している	-.119	**
３．くらしむきは（生活は）豊かだ	-.069	**	８．母を尊敬している	-.097	**
４．親は欲しいものはほとんど買ってくれる	-.037		９．親の期待を負担に思うときがある	.072	**
５．家には本が多い（マンガ・雑誌・学習参考書は除く）	-.062	**			

*p<.05　**p<.01　***p<.001

「学校をやめたい」と家庭環境のうち相関があったのは、「くらしむきは（生活は）豊かだ」、「家には本が多い（マンガ・雑誌・学習参考書は除く）」、「親と将来のことについて話をする」、「父を尊敬している」、「母を尊敬している」「親の期待を負担に思うときがある」の項目である。「親の期待を負担に思うときがある」以外は負の相関があった。すなわち、以上の項目に「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた生徒が学校をやめたいと思う傾向がある。ただ、この相関係数は、そう大きいものではなく、「相関がある傾向にある」といえる程度のものである。

「学校をやめたい」という気持ちは、いろいろな要素が複雑に絡み合っていることは間違いない。学校がまず「楽しい」と思うことが一番である。その楽しさは、「クラス」「友人」「先生」「授業」「成績」が鍵になっているようである。また、家庭状況、特に「親との関係」がもうひとつの軸になっているらしい。平成 19 年度の香川県公立高校の退学者数は 252 名で全体の１％強であった（定時制を含む）。「学校をやめたいと思うことがある」という気持ちと実際「学校をやめる」という行動とには、大きな隔たりがある。

注 14 ;「学校をやめたいと思うことがある」に「そう思う」と答えた者＝「思う」
「学校をやめたいと思うことがある」に「そう思わない」と答えた者＝「思わない」

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

３．部活動とアルバイト

部活動とアルバイトは生徒の放課後の生活の場として考えると別々のものではない。そこでわけて分析するのではなくて関連させて行いたい。

（１）学校生活と部活動

部活動と学校生活の関係についての先行研究は数多くある。その結果は端的に言うと「部活動に積極的に取り組んでいる生徒は、学校生活に対しても前向きである。」というものである。ここでも確かにそうなのか、生徒のアンケートから探ってみたい。その際、「全体」と「部・同好会所属」「部・同好会非所属」また、「運動部・同好会所属」「文化部・同好会所属」この５つのカテゴリー別にパーセンテージで示すことにした。

まず、学校生活全体の様子をみてみた。それについてまとめたのが表 38～表 44 である。

表 38　学校生活全般に対する評価　　**そう思う**

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
１．学校生活は楽しい	80.6%	84.5%	70.0%	85.6%	75.5%
２．クラスに親しみを感じる	77.8%	79.8%	72.8%	82.3%	73.3%
３．学校の休み時間は楽しい	84.6%	86.7%	78.9%	87.2%	82.0%
４．気軽に話し合える先生が多い	51.5%	53.3%	46.4%	52.8%	50.1%
５．就職や進学について友人と話すことが多い	49.6%	49.7%	48.8%	46.8%	52.2%
６．クラスに気の合う人が多い	73.4%	75.5%	68.1%	78.6%	68.3%
７．校則は厳しい	60.4%	57.8%	67.3%	59.5%	60.8%
８．先生の言うことに納得がいかないことがある	67.0%	64.9%	72.6%	65.3%	68.6%
９．学校をやめたいと思うことがある	33.9%	29.4%	45.5%	29.0%	38.5%
10．進路に役立つ授業が多い	51.3%	52.2%	48.4%	51.0%	51.0%
11．自分の興味、関心にあった授業が多い	38.2%	39.4%	34.8%	37.1%	39.3%

表 39　登校の目的　　**あてはまる**

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
１．学校へは勉強をするために来ている	73.5%	74.6%	70.3%	70.7%	76.4%
２．学校へは友達と話をするために（会うために）来ている	82.1%	82.5%	80.5%	82.5%	81.5%
３．学校へは部活をするために来ている	52.6%	68.2%	9.2%	76.9%	27.2%
４．学校へは他に行くところがないのでとりあえず来ている	23.9%	21.6%	30.0%	22.3%	25.3%

表 40　校則について　　**そう思う**

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
１．校則を守るのは高校生として当然である	75.7%	79.1%	66.0%	78.9%	72.3%
２．校則を守るのは先生から悪く見られないためだ	56.6%	55.1%	61.0%	54.7%	58.6%
３．校則を守れば、就職や進学に有利になる	74.9%	75.0%	74.6%	74.2%	75.4%
４．校則をよく守る人はそうでない人よりも尊敬できる	53.9%	55.7%	48.9%	54.2%	53.7%
５．校則は生徒自身の意見を尊重して作られるべきだ	77.8%	76.4%	81.3%	77.2%	78.1%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 41　校則遵守度　　**あてはまる**

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
1．とてもよく守っている	12.1%	13.3%	8.9%	13.9%	10.1%
2．まあまあ守っている	73.5%	76.3%	65.8%	75.1%	72.0%
3．あまり守っていない	12.8%	9.5%	22.1%	10.0%	15.8%
4．全く守っていない	1.6%	0.9%	3.2%	1.0%	2.1%

表 42　授業に対する評価　　**あてはまる**

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
1．授業はわかりやすい	66.8%	68.3%	62.2%	66.5%	66.8%
2．予習をする	20.2%	21.0%	18.3%	19.2%	21.5%
3．授業にまじめに参加する	80.7%	82.7%	75.5%	80.1%	81.3%
4．ノートをきちんととる	91.0%	91.7%	88.9%	90.8%	91.1%
5．授業には満足できる	55.2%	57.0%	50.4%	55.8%	54.8%

表 43　成績の気になり度

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
1．たいへん気になる	29.7%	31.4%	25.8%	31.4%	27.9%
2．かなり気になる	21.5%	22.7%	17.9%	21.4%	21.5%
3．少し気になる	36.9%	36.1%	38.5%	37.7%	36.0%
4．気にならない	11.9%	9.8%	17.9%	9.6%	14.5%

表 44　成績について（行動）

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
1．少しでも成績を上げるようにしたい	53.1%	56.1%	44.9%	55.7%	50.3%
2．仲間についていけるぐらいにしたい	14.2%	14.7%	12.9%	15.0%	13.3%
3．せめて欠点だけはとらないようにしたい	32.0%	28.8%	40.8%	29.1%	35.1%
4．成績のことはどうでもよく、留年するようなことになってもかまわない	0.7%	0.4%	1.4%	0.2%	1.2%

以上のように、部・同好会に所属している生徒は、学校生活は楽しいと感じ、クラスに親しみも感じ、学校の休み時間も楽しんでいる。また、学校をやめたいと思うことはあまりないようである。また、校則を守ろうという意識も高く、実際守っていると思う割合も高い。授業にも真面目に参加し、成績についても、より少しでも成績を上げたいと思っている。

では、平日の勉強時間はどれくらいなのであろうか。部・同好会に入部している生徒は拘束時間が長いので、入部していない生徒に比べ勉強時間は少ないと考えられる。ただ、20 頁、図 1 と表 7 からわかるように、高校生にとっての勉強時間の長さは拘束時間の長短とは違う範疇のもののようにも思われるので、差は無いかもしれない。これについてまとめたのが表 45 と図 6 である。

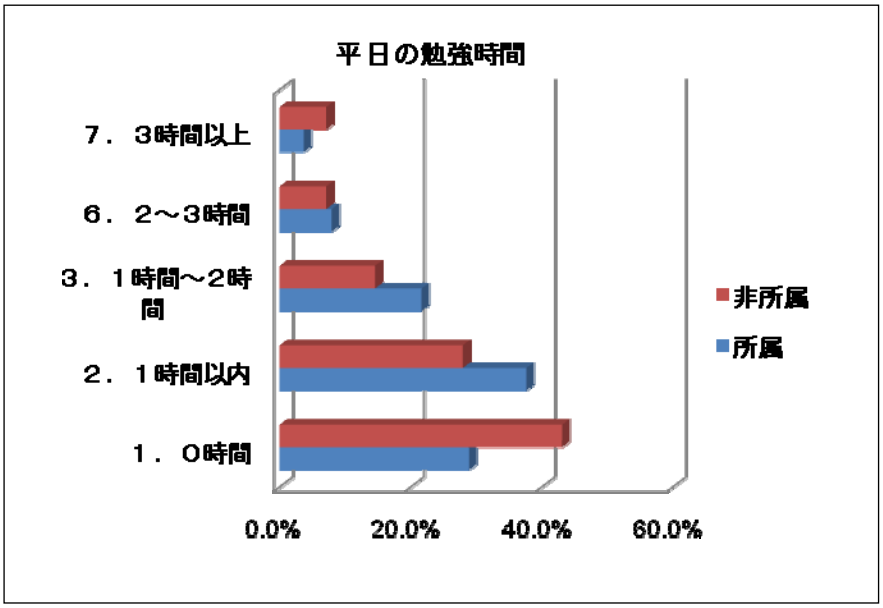
OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 45　平日の授業以外の勉強時間

	全体	所属	非所属	運動部	文化部
平均時間（分）	**53.5**	**54.0**	**52.0**	**51.7**	**55.4**
１．０時間	32.7%	29.0%	43.1%	31.0%	34.3%
２．３０分以内	20.8%	21.9%	17.7%	22.0%	19.5%
３．３０分から～１時間	14.2%	15.8%	10.3%	14.8%	13.9%
４．１～1.5 時間	10.4%	11.2%	8.0%	11.1%	9.7%
５．1.5～２時間	9.4%	10.5%	6.6%	10.5%	8.5%
６．２～３時間	7.8%	8.0%	7.2%	7.3%	8.2%
７．３～４時間	2.8%	2.4%	4.2%	1.9%	3.8%
８．４～５時間	0.9%	0.9%	1.0%	1.0%	0.9%
９．５～６時間	0.4%	0.3%	0.6%	0.2%	0.5%
10．６時間以上	0.5%	0.1%	1.4%	0.2%	0.8%

注 15

図 6



注 16

表 45 からわかるように、平均勉強時間は非所属者とあまり変わらない。むしろ非所属者よりも長いくらいである。図６をみると、所属者の方が、平日の勉強時間が０時間であると答える割合が少ないとともに、３時間以内のすべての段階において割合が高いことがわかる。

このように、部活動活性化と生徒たちの前向きな学校生活とは確かに相関がある。その点で本研究も先行研究を支持している。

注 15；「0 時間」=0　「30 分以内」=30　「30 分から～１時間」=45　「１～1.5 時間」=75
「1.5～２時間」=105　「２～３時間」=150　「３～４時間」=210　「４～５時間」=270
「５～６時間」=330　「６時間以上」=360 として平均時間を算出した。

注 16；このグラフは表 45 を利用している。「0 時間」は「0 時間」、「30 分以内」と「30 分から～１時間」をまとめて「１時間以内」、「１～1.5 時間」と「1.5～２時間」をまとめて「１～２時間」、「２～３時間」は「２～３時間」、「３～４時間」と「４～５時間」、「５～６時間」、「６時間以上」をまとめて「３時間以上」と５つの段階ごとに集計した。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

（２）高校生とアルバイト

①　アルバイト経験

消費社会の一員としての高校生を見たとき、アルバイトの問題は見逃せないものである。私は今の高校生の生活にとってアルバイトは一つのキーであると考えている。アルバイト経験率を表したのが表 46 である。

表 46　アルバイト経験率

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
アルバイト経験	25.6%	22.1%	28.3%	9.7%	22.8%	37.2%

「アルバイトをしたことがありますか」に全体の 25.6%が「経験ある」と答えている。女子は男子に比べるとアルバイト経験率が数パーセント高い。専門学科の生徒はアルバイト経験率が 37.2%と普通科Ⅰ、普通科Ⅱよりも高い。香川県の高等学校ではアルバイトは「原則禁止」であるので、現在やっていても「夏休みなど、長期の休みの時だけにする」「以前したことがあるが現在はしていない」と答えていることが十分予測される。現に、生徒からの回答を入力していく際、「小遣いなし」、「部・同好会に所属せず」、「携帯電話の使用料金が高く」「支払いは自分」という不可解な回答を寄せる生徒を何人も発見している。このことから 25.6%という数字は、アルバイトを経験している生徒の最低の数字であって、実はもっと多くの生徒が経験している可能性がある。

では、高校生はどのようなところで、どのような内容のアルバイトをしているのだろうか。それをまとめたのが表 47 と表 48 である。表 48 の仕事内容については、生徒たちが具体的に書いたものを４つのカテゴリーに分類したものである。

表 47　アルバイト先

コンビニ・ファーストフード	9.5%
スーパー・食品販売	10.1%
飲食店・居酒屋	33.1%
郵便局	8.5%
遊園地	1.0%
運送会社・ガソリンスタンド・電機屋	5.2%
本屋・美容院・病院	1.9%
農業	0.2%
ホテル・結婚式場・宴会場	1.7%
塾・家庭教師	1.2%
記入なし・秘密	27.7%

表 48　仕事内容

接客	60.8%
製造	10.8%
裏方	26.5%
指導・○付け	1.9%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

アルバイト先の半数が、コンビニ、スーパー、飲食店と「食」に関する所である。また、ここには出ていないが「運送会社」のほかにも「倉庫での荷物卸おろし」「派遣」と、アルバイト先は多方面に渡っている。

内容としては販売、レジなどの接客の割合が高い。ついで仕分け、清掃、品だしなどの裏方、そして製造と続く。また、27.7%が働き先について記入しておらず、アルバイトについては学校の規則を承知しており、記入することを躊躇したものと思われる。

質問紙の自由記述の欄に、「いまどきの高校生はアルバイトをするのは当たり前」と記述されており、学校が彼らの主要な活動場所であると考えている私たちにとってアルバイトの存在は陰に隠れて見えにくいものであるが、彼らにとって主要なものの一つになってきていることは間違いないであろう。

表 49　アルバイトの理由　注 17

	全体	男	女
1．こづかい（携帯電話代も含む）をかせぐため	53.9%	52.7%	54.6%
2．やってみたい仕事だったから	5.5%	6.3%	5.0%
3．実社会に触れたかったから	12.2%	15.4%	10.5%
4．友だちに誘われたから	5.0%	5.4%	4.8%
5．家計を助けるため	13.4%	11.7%	14.4%
6．その他（具体的に	10.1%	8.6%	10.7%

アルバイトをする理由としては、「こづかい（携帯電話代も含む）をかせぐため」を理由にあげたものが約半数で一番多く、続いて「家計を助けるため」、三番目に「実社会に触れたかったから」をあげている。

表 50 はアルバイトを開始した時期を示している。

表 50　初めてアルバイトをした時期

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．高校入学以前	14.6%	20.9%	10.9%	34.3%	13.6%	12.3%
2．高校１年生	64.1%	59.0%	67.2%	57.1%	60.2%	67.1%
3．高校２年生	18.2%	17.3%	18.8%	8.6%	23.7%	16.9%
4．高校３年生	3.0%	2.9%	3.1%	0.0%	2.5%	3.7%

全体の 64.1%が、「高校１年生」と答えている。また、14.6%が「高校入学以前」に「初めてアルバイトをした」と答えている。特に、普通科Ⅰで「初めてアルバイトをしたのは高校入学以前」と答える生徒の割合が高い。前述 39 頁、表 46 からわかるように、普通科Ⅰでアルバイト経験のある者は、普通科Ⅰ全体の約１割である。すなわち普通科Ⅰ全体 489 名の１割なので 49 名、そのうちの約 34%の生徒 17 名が「高校入学以前」に初めてアルバ

注 17；あてはまるものを強い順に２つ回答しているので、１位には２点、２位には１点を与え集計した。表中の１から６のそれぞれの項目が、負荷をつけて集計しなおした合計得点全体に占める割合をパーセンテージで表わした。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

イトを経験したと答えている。割合からだけでいうと大きいように思えるが、アルバイト経験者全体総数484名の中でいうと17名と実数が少ないのでこれについては何ともいえない。

アルバイトは生活に大きな影響を及ぼすことから、学校分類別・学年別に部・同好会入部率との関係をみてみた。それが、表51である。

表51　部・同好会入部率とアルバイト経験率

	普通科Ⅰ			普通科Ⅱ			専門学科		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
入部率	90.2	79.1	64.3	84.5	78.6	66.3	81.4	69.5	50.3
アルバイト経験率	7.3	7.3	15.6	9.6	22.5	39.1	14.3	37.1	56.5

すべての学校分類で学年が上がるにつれアルバイト経験率が高くなっている。逆に部・同好会入部率は低下している。部・同好会をやめてアルバイトに向かっていると想像できる。専門学科1年生の入部率は81.4%、アルバイト経験率は14.3%、それが3年生になると入部率とアルバイト経験率は逆転する。このように、部・同好会入部率とアルバイト経験率とは裏腹の関係である。そこで、よりわかるようにグラフに表したものが図7である。普通科Ⅱ、専門学科ではアルバイト経験率の増加の割合が入部率減少の割合より大きい。

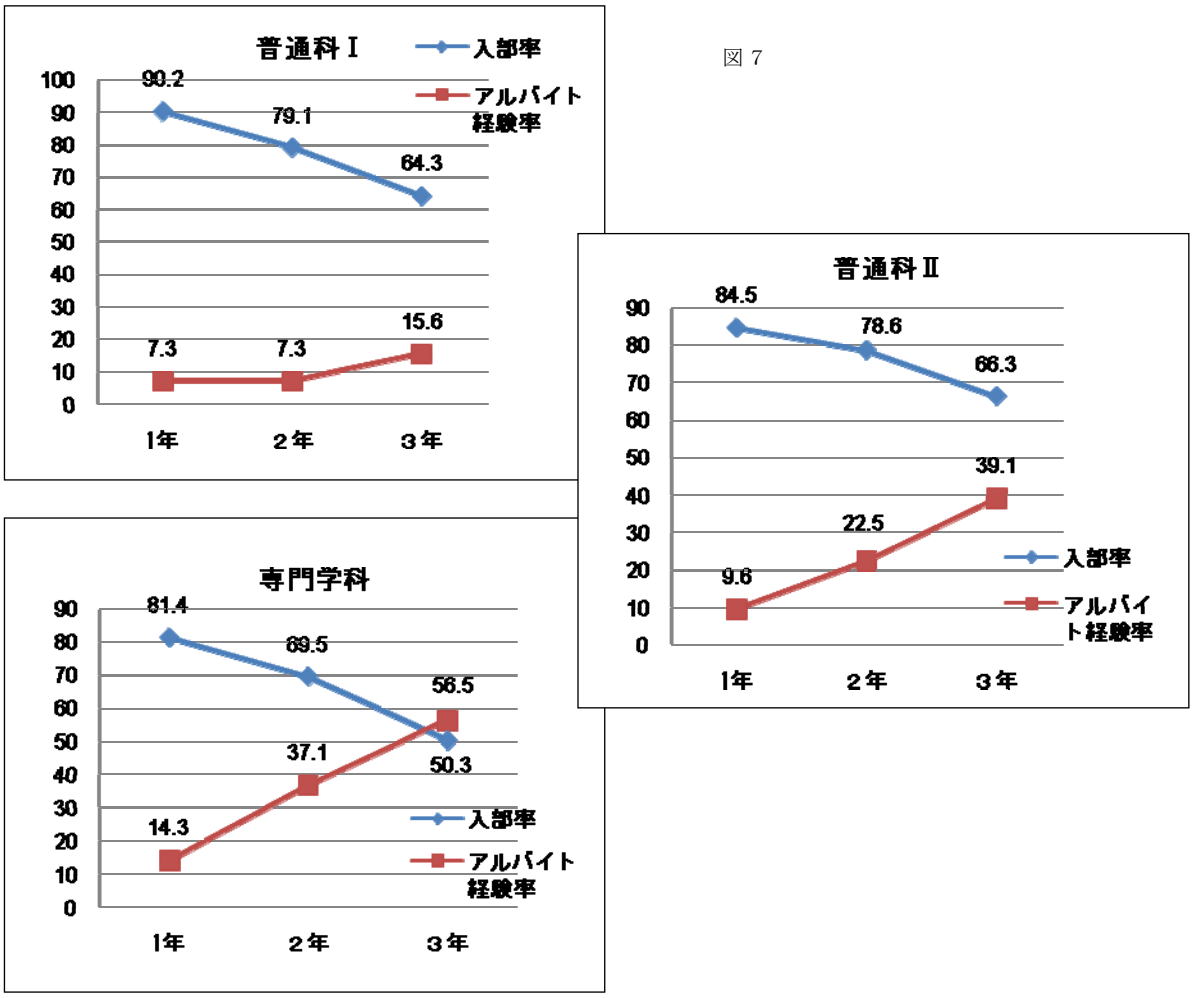


図7

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

② 頻度と収入額

週に何日くらいアルバイトをして、収入はどれくらいなのだろうか。それをまとめたのが表 52 と表 53 である。

表 52 アルバイトの頻度

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．1日	6.1%	6.1%	6.2%	15.6%	3.4%	6.2%
2．2日	23.7%	22.9%	24.3%	25.0%	27.6%	21.6%
3．3～4日	40.8%	35.9%	43.2%	37.5%	41.4%	41.0%
4．5～6日	25.3%	30.5%	22.6%	15.6%	24.1%	27.3%
5．月に1～2日	4.0%	4.6%	3.7%	6.3%	3.4%	4.0%

週に３～４日しているものが一番多く、続いて５～６日、週２日となっている。

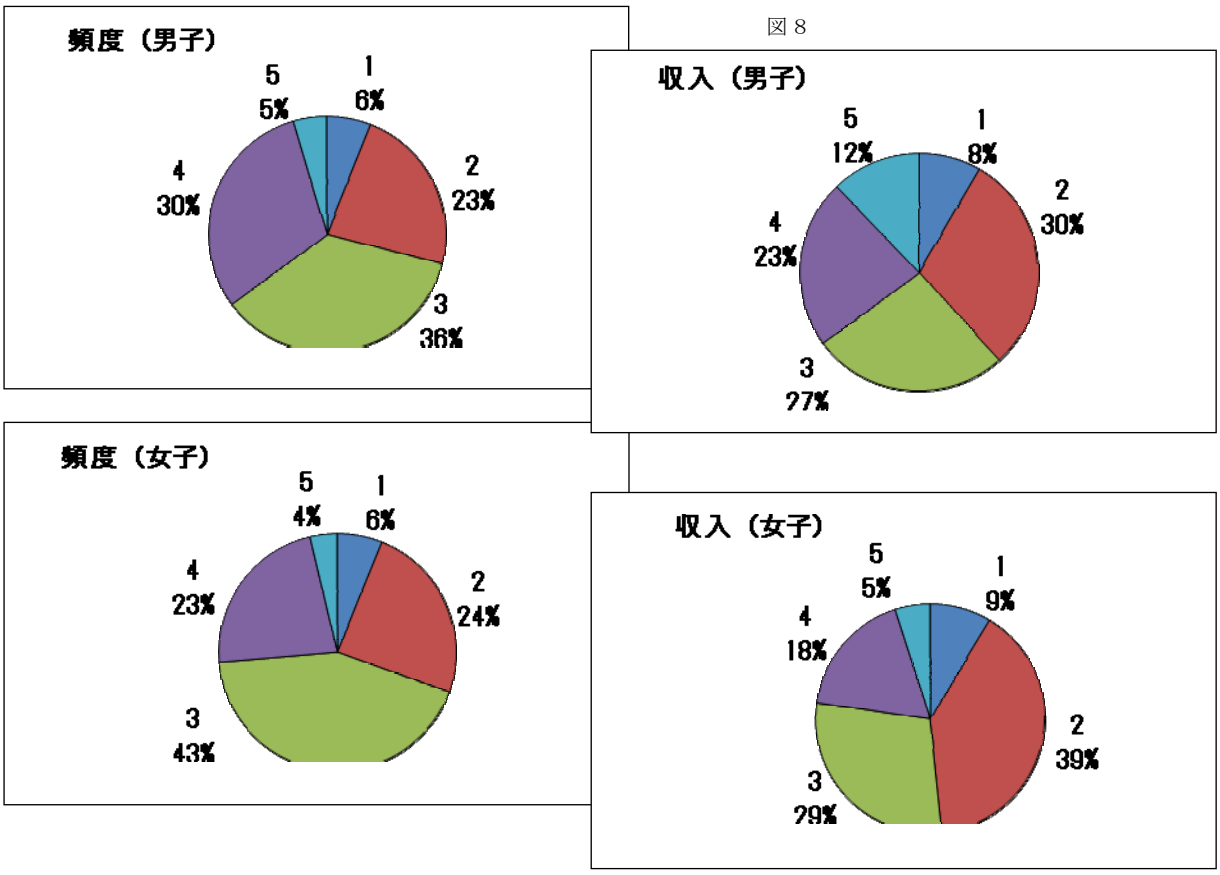
表 53 アルバイトの収入額

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．1万円未満	8.6%	8.4%	8.7%	31.3%	8.7%	5.3%
2．1万～3万円	36.1%	29.8%	39.7%	34.4%	36.5%	36.1%
3．3万～5万円	28.3%	26.7%	28.9%	21.9%	32.2%	27.3%
4．5万～8万円	19.5%	22.9%	17.8%	12.5%	18.3%	21.1%
5．8万円以上	7.5%	12.2%	5.0%	0.0%	4.3%	10.1%

収入については、１万～３万円が多く 36.1%、３万～５万円の者が 28.3%いる。８万円以上と答えた者も 7.5%いる。

頻度についてまた、収入について男女別にグラフに表したのが図８である。

図８



OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

グラフからわかるように、男子の方が女子よりも、週当たりにアルバイトをする頻度が高く、また、収入が多い。

③　生活への影響

アルバイトが生活にどのように影響しているのかについても検討しておきたい。アルバイト経験者と非経験者の生活の違いを表したのが表 54 である。

表 54　アルバイト経験者と非経験者の生活の違い

	経験者	非経験者	
小遣い無し	32.4%	18.1%	
勉強時間 0 時間	49.3%	26.5%	
携帯電話所有率	97.3%	96.6%	
使用時間　（3 時間以上）	44.8%	26.7%	
（平均時間）	(135.5 分)	(110.0 分)	(全平均 116.4 分)
使用料金　(1,5000 円以上)	6.7%	5.0%	
（平均使用料金）	(8867.2 円)	(8121.7 円)	(全平均 8305 円)
使用料金・自己負担率	15.5%	2.6%	
携帯電話を学校に持ってきている	91.1%	89.0%	
携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる	54.3%	39.9%	
メールが届いていないかよくチェックする	58.8%	53.0%	
メールにはすぐ返事をかえすようにしている	64.2%	69.3%	
一日 50 回以上メールを送信している	17.5%	11.3%	

まず言えることは、アルバイト経験者の 32.4%は小遣いをもらっていない。携帯電話の使用料金を自分で払っている割合も高い。もっとよくみると携帯電話の使用時間も長く、使用料金も高いといえる。携帯電話を学校に持ってきている割合、また、携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる割合の高さから携帯電話に対する依存度がより高い傾向にあるといえる。

当然ではあるが勉強時間が 0 時間と答える生徒の割合が高い。アルバイトをして、自由な時間が少ないうえに、残りの時間を勉強にあてず、携帯電話の使用時間にあてて勉強時間が少なくなっている。携帯電話の使用を短くすればアルバイトをしなくてもよいのではと考えるかも知れないが、彼らにとってアルバイトと携帯電話はどちらも彼らの生活に切り離せないもののように思われる。携帯電話の使用時間が長いからその使用料金を稼ぐためにアルバイトをするというのは一面で真であるが、アルバイトをすることにより自分で稼いだ感覚になり、使用時間が長くなり使用料金が高くなるといのも真である。彼らは自由な時間があるのでアルバイトをする、と考えているのである。実際アルバイトを始める動機として、「暇だから」と記述していた生徒がいた。高校生にとっての家庭での「勉強時間」は、時間との関係から述べられる問題ではなさそうである。

確かにアルバイトをすることによって、自分一人で稼げる感覚になっている。親の保護のもと、食べることも親にしてもらっている生徒にとって、「毎月 3 万円以上の小遣い」は多すぎる。他方、昼食代、教材費、学費などすべてを自分で賄っている生徒もいる。理由は様々であるが、このようにアルバイトに向かうことをどのように評価すればよいのであ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ろうか。これには二つの考え方がある。一つは、アルバイトは社会体験として価値があるという考え方である。もう一つは、アルバイトに向かうために「パート・タイム生徒」注18になってしまい、学校が彼らの生活に占める比率が小さくなることに対する懸念を表す考え方である。また、安易なアルバイト経験はフリーターに結びつくという考え方もある。アルバイトについての功罪はよく検証していかなければならない。

④　アルバイトと将来の展望

アルバイトを経験することでより消費社会にどっぷりと組み込まれている今の若者を、アルバイトから遠ざけることは難しい。自分で稼いだお金で財布を買い、バッグを買い、化粧品を買い、ケータイを替え、携帯の使用料金を自分で払い、こうして大人の楽しみを知るプチ大人が誕生するわけである。

アルバイトをすることで社会を知り、社会の厳しさも体験するはずである。そうであれば、アルバイト経験者、非経験者間で差が表れると予想される。そこで将来の生活とアルバイト経験をクロス分析してみた。その結果を表したのが表 55 である。

表 55　将来の生活にとって重要なもの　　**重要**

	全体	経験者	非経験者
1．高い収入が得られること	92.6%	93.8%	92.2%
2．会社の中で高い地位につけること	53.6%	49.7%	54.8%
3．収入が安定していること	97.9%	98.1%	97.8%
4．社会や人のためになること	82.3%	77.6%	83.6%
5．清く正しくくらすこと	79.5%	72.3%	81.7%
6．自分の家族や家庭生活を大切にすること	96.2%	94.6%	96.7%
7．自分の思い通りに自由にできること	74.1%	73.5%	74.1%
8．自分の能力が発揮できること	93.0%	92.3%	93.0%
9．休日・休暇が多いこと	72.1%	73.5%	71.7%
10．自分の趣味にあったくらしができること	94.6%	94.8%	94.5%
11．他人との人間関係を大切にすること	95.1%	94.6%	95.1%

アルバイト経験者と非経験者で差が見受けられたのは「会社の中で高い地位につけること」「社会や人のためになること」「清く正しくくらすこと」であったが、アルバイトを経験したからの差ではないようにも思われる。注目したいのは、「自分の思い通りに自由にできること」と「自分の能力が発揮できること」に差が見受けられなかったという点である。アルバイトを経験することによって、社会の厳しさなり、大変さが体験できたなら、この二つの項目に差が見受けられてしかるべきだと考えたからだ。ただ、彼らの経験するアルバイトの仕事の中身は、責任のあまりかからない、誰にでもできるような簡単な内容であろうから、アルバイトを経験したからと言って、すぐさまそういった厳しさが体験できたかどうかは疑問であることは承知せざるを得ない。

注 18；耳塚（2001）は、長時間のアルバイトをこなすなど校外生活の比重が大きい生徒のことを「パート・タイム生徒」と呼んだ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

（参考）

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．高い収入が得られること	92.6%	94.1%	91.4%	90.4%	94.3%	92.7%
2．会社の中で高い地位につけること	53.6%	64.6%	44.7%	52.7%	56.2%	52.3%
3．収入が安定していること	97.9%	97.2%	98.5%	98.8%	97.7%	97.6%
4．社会や人のためになること	82.3%	80.0%	84.3%	86.0%	82.9%	79.7%
5．清く正しくくらすこと	79.5%	77.9%	80.9%	84.8%	79.0%	76.7%
6．自分の家族や家庭生活を大切にすること	96.2%	95.6%	96.6%	97.7%	96.1%	95.3%
7．自分の思い通りに自由にできること	74.1%	77.6%	71.1%	79.1%	73.0%	71.9%
8．自分の能力が発揮できること	93.0%	92.1%	93.7%	94.9%	93.2%	91.7%
9．休日・休暇が多いこと	72.1%	76.6%	68.6%	71.5%	69.2%	74.7%
10．自分の趣味にあったくらしができること	94.6%	94.1%	95.0%	96.1%	93.0%	94.9%
11．他人との人間関係を大切にすること	95.1%	93.5%	96.3%	96.5%	94.5%	94.7%

⑤　アルバイトと自信

高等学校で進められているキャリア教育では、実際の現場や働く大人に接する中で職業観・勤労観を育成しようという体験型の学習が強調され、また、中学生の職業体験学習や高校生のインターンシップが全国的に導入されている。しかし、41 頁、表 51 からわかるように専門学科の３年生では半数以上の生徒がすでに働くことをアルバイトという形で体験している現実がある。あわせて、44 頁で述べたように、アルバイトを体験したからといって職業観にさほど差があるとはいえない。

アルバイト経験を別の角度からみることができないだろうか。キャリア教育で推進すべき諸能力のうちの「人間関係能力」からアルバイト経験をみたとき、大人やお客さんという他者とのコミュニケーションを体験するという点で意味があり、「自分にもできる」という自己肯定感・自己有用感を得る機会となりうるとは考えられないだろうか。そこで、自分自身についての「自分に自信がある」という項目に着目して実際数字を挙げてみた。その結果をまとめたのが表 56 である。

表 56　自分に自信があるか　　**そう思う**

	全体	アルバイト経験者	非経験者	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
自分に自信がある	16.5%	19.7%	15.6%	19.1%	15.2%	16.0%

数字上からいうと、アルバイト経験者と非経験者では差があるように思える。また、学校分類別間でも差があるように見受けられる。この学校分類別間での差については、後述 55 頁で述べたい。そこで、「自分に自信がある」を従属変数、「アルバイト経験」と「性別」を独立変数とする分散分析（三群以上の平均値の差の検定）を行った。その結果をまとめたのが表 57 である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 57　アルバイト経験別・男女別、自信あり得点・自分が好き得点（分散分析）

		アルバイト経験有		アルバイト経験無		F 値		
		男	女	男	女	経験有無	性	有無×性
自信あり得点	平均	2.88	3.28	2.96	3.33	2.375	88.662***	.126
	（標準偏差）	.845	.802	.767	.704			
自分が好き得点	平均	2.92	3.16	2.87	3.17	.239	32.644***	.462
	（標準偏差）	.950	.898	.887	.815			

「自分に自信がある」得点に、アルバイト経験の有無での有意差はなかった。交互作用もなかった。「自分が好きである」という項目でも､バイト経験の有無での有意差はなかった。先ほど述べた、アルバイトでは、大人やお客さんという他者とのコミュニケーションを体験するという点で意味があり､「自分にもできる」という自己肯定感・自己有用感を得る機会となりうるのではという仮説は、統計上は成り立たなかった。

⑥　部活動と自信

学校の教育活動の中で、自分に対する自信を育てる場面として考えられるのが部活動である。表 57 から、「自分に自信がある」得点に性別間で有意差があったことを考慮し、部活動をしているか否かで、差があるかどうかを見てみた。その結果をまとめたのが表 58 である。

表 58　部・同好会所属別・男女別、自信あり得点・自分が好き得点（分散分析）

		部・同好会所属		部・同好会非所属		F 値		
		男	女	男	女	所属・非所属	性	所・非×性
自信あり得点	平均	2.93	3.30	3.00	3.35	1.910	80.810***	.108
	（標準偏差）	.772	.721	.835	.758			
自分が好き得点	平均	2.86	3.12	2.97	3.30	10.273**	41.599***	.507
	（標準偏差）	.902	.849	.888	.799			

「自信あり得点」に部・同好会に所属、非所属間で有意差はなかった。部・同好会に所属し活動することで自分に自信が持てるようになるのではと思ったが、そういうことはなかった。「好き得点」に部・同好会に所属、非所属間で有意差があった。

⑦　小遣い

アルバイトの問題を語る時、彼らがどれくらいの小遣いをもらっているのか見ておきたい。これについてまとめたのが表 59 である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 59　家の人からもらっている小遣い額

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
平均額（円） 注 19	**4,047**	**4,313**	**3,839**	**4,406**	**3,900**	**3,942**
1．～1,000 円ぐらい	4.4%	4.7%	4.1%	3.9%	3.1%	5.6%
2．2,000 円ぐらい	6.7%	6.1%	7.3%	6.1%	6.5%	7.2%
3．3,000 円ぐらい	15.0%	14.7%	15.3%	16.2%	17.0%	12.8%
4．4,000 円ぐらい	5.4%	5.8%	5.0%	6.4%	4.9%	5.1%
5．5,000 円ぐらい	32.4%	34.0%	31.1%	35.5%	32.8%	30.2%
6．7～8,000 円ぐらい	5.1%	4.9%	5.2%	7.0%	4.2%	4.5%
7．10,000 円ぐらい	6.8%	7.7%	6.1%	7.2%	6.7%	6.7%
8．15,000 円ぐらい	1.1%	1.4%	0.9%	1.0%	1.1%	1.2%
9．20,000 円ぐらい	0.8%	0.9%	0.7%	0.4%	1.0%	0.9%
10．20,000 円以上	0.8%	0.9%	0.7%	1.0%	0.2%	1.1%
11．なし	21.6%	18.8%	23.7%	15.4%	22.5%	24.6%

12 頁で述べたように、日本の高校生は親から定期的に小遣いをもらっている割合が 56.1%と、アメリカ（21.4%）、中国（34.8%）、韓国（44.3%）の高校生に比べ高い。また、「一か月に自由に使えるお金の額」は、10,250 円と、アメリカの 19,936 円についで高い。中国は 3,435 円、韓国は 8,391 円となっている。この値に比べ、香川県の高校生の小遣いの額は、4,047 円とかなり少額である。しかし、この質問は、「一か月に自由に使えるお金の額」という聞き方になっており、これはアルバイトで稼いだお金も含まれているので、このような差になっているのではないだろうか。

４．高校生と携帯電話

高校生にとって携帯電話は今や必需品になっている。携帯電話が彼らの生活にどのような影響を及ぼしているのか見てみよう。

（１）所持率と持ち始めの時期

携帯電話の所持率については、香川県でも平成 19 年度に児童生徒健全育成等連絡協議会によって調査がなされた。その結果、全体では 96.7%、男子 95.3%女子 98.2%であった。この調査の同様の集計が表 60 である。

表 60　自分専用の携帯電話を持っているか

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．持っている	96.8%	95.3%	98.0%	97.5%	98.7%	95.0%

注 19；平均額（円）は「～1,000 円ぐらい」=1000　「2,000 円ぐらい」=2000　「3,000 円ぐらい」=3000　「4,000 円ぐらい」=4000　「5,000 円ぐらい」=5000　「7～8,000 円ぐらい」=7500　「10,000 円ぐらい」=10000　「15,000 円ぐらい」=15000　「20,000 円ぐらい」=20000　「20,000 円以上」=25000　「なし」=0　として算出した。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

また、いつから持っているのかについてまとめたものが表 61 である。

表 61　持ち始めの時期

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
１．小学校の頃から	9.6%	5.5%	12.8%	10.9%	9.4%	8.9%
２．中学校の頃から	40.6%	36.9%	43.6%	37.9%	41.7%	41.4%
３．高校へ入学してから	49.8%	57.5%	43.7%	51.2%	48.8%	49.7%

表 61 からわかるように、全体の 50.2%は、高校入学時にはすでに携帯電話を持っており、全体の１割の生徒にいたっては、小学生の頃からすでに持っている。女子は、男子に比べ早いうちから持つ傾向にあるといえよう。持ち始める時期と学校分類とは、あまり関係なさそうである。

小学校の時期から携帯電話を持っているということは、今年で持ち始めて少なくとも４年以上になる。このことが生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。

（２）小学校から携帯電話を持っている生徒について

生活の中で関係がありそうな項目について調べてみた。それをまとめたのが表 62 である。

表 62　小学校から持っている生徒の特徴

	全体	小学校注 20
小遣い無し	21.6%	33.5%
勉強時間０時間	32.7%	39.9%
（平均勉強時間）	(53.5 分)	(47.0 分)
使用時間（３時間以上）	31.2%	47.2%
（平均時間）	(116.4 分)	(138.7 分)
使用料金（1,5000 円以上）	5.3%	12.1%
（平均使用料金）	(8305.3 円)	(9640.8 円)
使用料金・自己負担率	5.8%	6.3%
携帯電話を学校に持ってきている	89.5%	93.7%
携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる	43.6%	56.7%
メールが届いていないかよくチェックする	54.5%	60.5%
メールにはすぐ返事をかえすようにしている	68.4%	66.9%
一日 50 回以上メールを送信している	13.0%	20.8%

表の値から見る限りにおいて、生活の中で勉強時間、携帯電話の使用時間、使用料金で全体の平均とは違う様相を呈しているように思われる。そこで、各項目を細かく見ていくことにした。

次の表は、携帯電話を持ち始める時期と勉強時間、使用時間、使用料金との関係を探ろうとしたものである。その結果を表したのが表 63～表 65 である。

注 20 ;「小学校から持っている生徒」＝「小学校」とした。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 63　平日の授業以外の勉強時間　注 21

	小学校	中学校	高校
平均（分） 注 22	**47.0**	**53.2**	**55.6**
１．０時間	39.9%	35.1%	29.5%
２．３０分以内	16.9%	21.5%	21.6%
３．３０分から～１時間	15.7%	12.8%	14.7%
４．１～1.5 時間	7.9%	9.2%	11.1%
５．1.5～２時間	9.0%	8.8%	10.1%
６．２～３時間	7.3%	7.0%	8.6%
７．３～４時間	2.2%	3.1%	2.9%
８．４～５時間	0.0%	1.2%	1.0%
９．５～６時間	0.6%	0.5%	0.3%
10．６時間以上	0.6%	0.8%	0.2%

テスト発表期間中やテスト期間中は除く。また、塾や予備校、また放課後学校に残って勉強する時間などすべて含む。

表 64　携帯電話使用時間（通話、メール、インターネットすべてを含む。）

	小学校	中学校	高校
平均（分） 注 23	**138.7**	**124.2**	**106.0**
１．３０分以内	11.8%	14.2%	21.0%
２．１時間ぐらい	13.5%	16.1%	20.8%
３．１時間３０分ぐらい	6.7%	9.7%	11.3%
４．２時間ぐらい	14.6%	18.0%	16.2%
５．２時間３０分ぐらい	6.2%	6.9%	5.6%
６．３時間ぐらい	16.3%	13.3%	11.7%
７．それ以上	30.9%	21.7%	13.4%

表 65　１ヶ月の使用料金

	小学校	中学校	高校
平均（円） 注 24	**9,641**	**8,545**	**7,842**
１．5,000 円以内	8.6%	10.8%	19.2%
２．5,000 円～10,000 円	59.8%	69.0%	69.3%
３．10,000 円～15,000 円	19.5%	14.9%	7.5%
４．15,000 円～20,000 円	5.2%	3.5%	2.7%
５．20,000 円以上	6.9%	1.8%	1.4%

表 63 を見る限りにおいて､携帯電話を早くもち始めた生徒の方が勉強時間が短いといえる。また、表 64、表 65 から、携帯電話の使用時間が長く、また使用料金も高いことがわ

注 21；小学校の頃から持っている＝小学校　中学校の頃から持っている＝中学校
高校へ入学してからもちだした＝高校

注 22；勉強時間は「0 時間」=0、「30 分以内」=30　「30 分から～１時間」=45　「１～1.5 時間」=75　「1.5～２時間」=105　「２～３時間」=150　「３～４時間」=210　「４～５時間」=270　「５～６時間」=330　「６時間以上」=360 として平均時間を算出した

注 23；使用時間は「30 分以内」=30　「1 時間くらい」=60　「１時間 30 分ぐらい」=90　「2 時間くらい」=120　「2 時間 30 分ぐらい」=150　「3 時間以上」=180　「それ以上」=210 として平均時間を算出した

注 24；使用料金、平均額（円）は「5,000 円ぐらい」=5000　「5,000 円～10,000 円」=7500　「10,000 円～15,000 円」=12500　「15,000 円～20,000 円」=17500　「20,000 円以上」=20000 として平均金額を算出した

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

かる。そこで、「勉強時間」、「使用時間」、「使用料金」を従属変数、「持ち始めの時期を」独立変数として分散分析注25してみた。その結果を表したのが表66である。

表66　持ち始め時期別、勉強時間・使用時間・使用料金（分散分析）

		小学校	中学校	高校	F値
勉強時間	平均	47.76	53.28	55.89	1.273
	（標準偏差）	61.182	67.577	61.056	
使用時間	平均	138.28	124.06	105.69	28.535***
	（標準偏差）	66.083	64.074	62.283	
使用料金	平均	9640.80	8545.33	7829.61	
	（標準偏差）	4109.274	3095.965	2783.735	29.614***

持ち始めの時期と、勉強時間とは表63を見る限りにおいては関係があるように思われたが、この分析では、勉強時間に有意な差はなかった。使用時間、また使用料金には有意な差があった。携帯電話を早くもち始めた生徒の方が、携帯電話の使用時間が長く、また使用料金も高いといえる。

次に、勉強時間について、平日の授業以外の勉強時間「０時間」に着目してみた。

	小学校から携帯電話を持っている	持っていない	合計
平日の授業以外の勉強時間「０時間」	69名 (3.8%)	522名 (28.9%)	591名 (32.7%)
30分以上	105名 (5.8%)	1112名 (61.5%)	1217名 (67.3%)
合計	174名 (9.6%)	1634 (90.4%)	1808名 (100%)

カイ２乗検定の結果、$X^2(1)=4.247$, $*p<.05$、小学校から携帯電話を持ち始めた生徒は、平日の授業以外の勉強時間が「０時間」の割合が高く有意差が認められた。

また、長い年月持つことで、必需品の感覚が増し、持っていないと取りに帰りたくなるような「依存」的な感覚にもなるのではないかと考えた。そこで、以下の４つの項目を依存度の指標として、持ち始めの時期との関係をみた。注26

携帯電話を学校に持ってきている
携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる
メールが届いていないかよくチェックする
メールにはすぐ返事をかえすようにしている

その結果を表したのが表67である。

表67　持ち始め時期別、携帯電話依存度得点（分散分析）

	小学校	中学校	高校	F値
依存度得点　平均	4.85	5.05	5.30	6.849***
（標準偏差）	1.617	1.393	1.535	

注25；この際、注22～24の数値で置き換えて、平均値を出し、分析を行った。
注26；この４項目は、１（はい）、２（いいえ）で答えており、これを各項目の得点と考えると、合計点は４点～８点のいずれかになる。４つの項目すべてに１（はい）と答えると合計４点で、得点が小さいほど依存度が大きいとした。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

以上の結果から、高校生は、携帯電話を持ち始める時期が早いほど、平日の授業以外の勉強時間が「０時間」と答えた割合が高く、携帯電話の使用時間が長く、使用料金が高く、また、携帯電話に依存しているといえる。ただ、18 頁で述べたように、友だちと携帯や電話で話したり、メールしたりする時間は、圧倒的に女子のほうが長いということから、携帯電話の使用については、性差を考慮して、男女ごとに様子を探ることにした。その結果を表したのが表 68、表 69、表 70 ならびに図９、図 10 である。

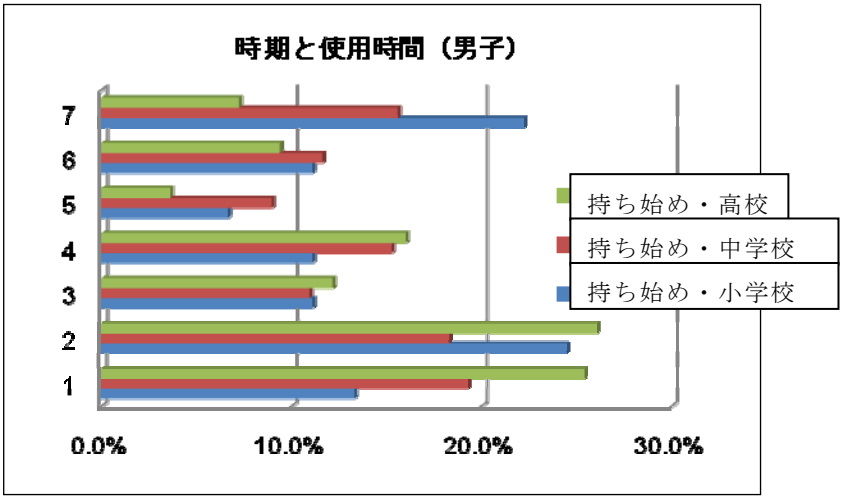
表 68　自分専用の携帯電話を持っている生徒（1850 名）

男		815	女		1035
小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
45	301	469	132	451	452

表 69　携帯電話使用時間（通話、メール、インターネットすべてを含む。）

	全体	男・小	男・中	男・高	女・小	女・中	女・高
平均時間（分）	**116.4**	**118.7**	**112.1**	**91.1**	**145.2**	**132.3**	**121.2**
１．３０分以内	17.5%	13.3%	19.3%	25.4%	11.4%	10.9%	16.4%
２．１時間ぐらい	18.2%	24.4%	18.3%	26.1%	9.8%	14.7%	15.5%
３．１時間３０分ぐらい	10.2%	11.1%	11.0%	12.2%	5.3%	8.9%	10.4%
４．２時間ぐらい	16.7%	11.1%	15.3%	16.0%	15.9%	19.8%	16.4%
５．２時間３０分ぐらい	6.2%	6.7%	9.0%	3.6%	6.1%	5.6%	7.7%
６．３時間ぐらい	12.8%	11.1%	11.6%	9.4%	17.4%	14.4%	14.2%
７．それ以上	18.4%	22.2%	15.6%	7.3%	34.1%	25.8%	19.5%

図９



OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

使用時間について、男子は持ち始めてから時間が経過するにつれて二極化の様子が見られたが、女子は、小学校の頃から持っている生徒の方が使用時間が長そうである。

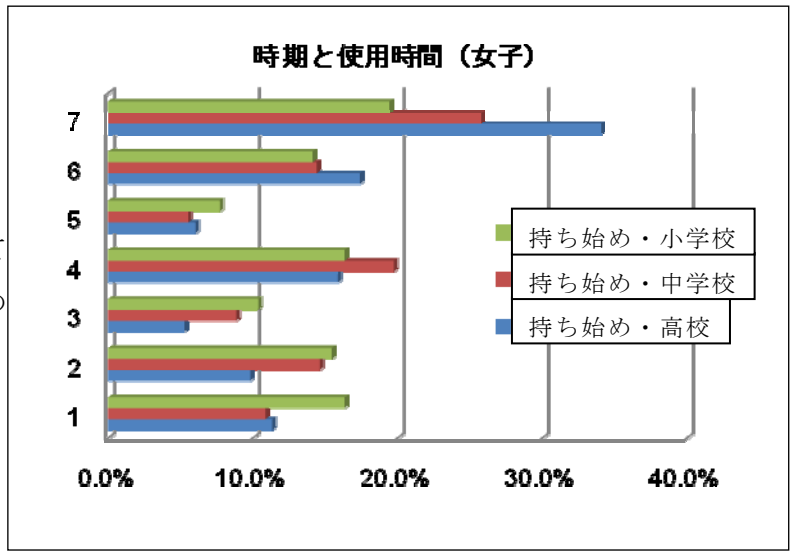
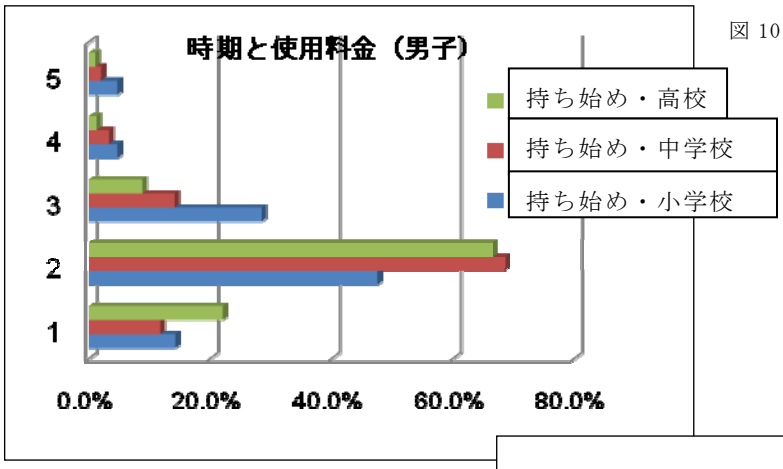
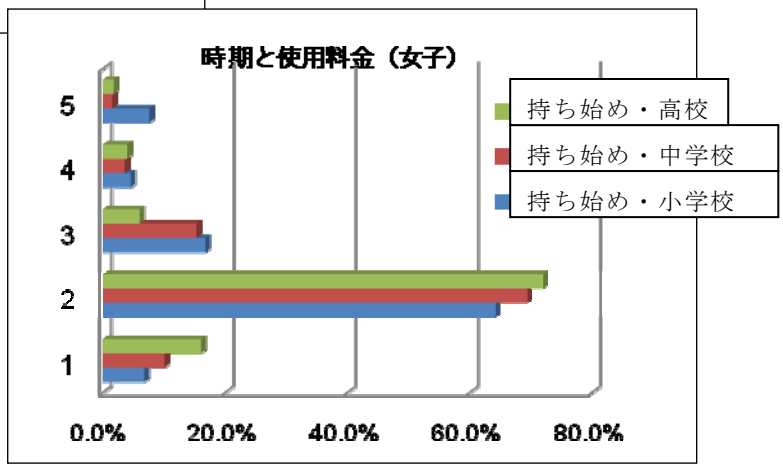


表 70　1ヶ月の使用料金

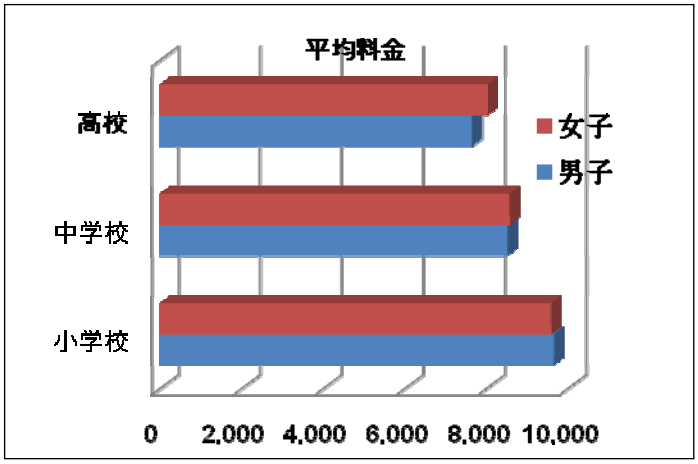
	全体	男・小	男・中	男・高	女・小	女・中	女・高
平均料金（円）	**8,305**	**9,643**	**8,505**	**7,660**	**9,580**	**8,572**	**8,027**
1．5,000 円以内	14.8%	14.3%	11.8%	22.1%	6.9%	10.2%	16.1%
2．5,000 円～10,000 円	68.2%	47.6%	68.6%	66.6%	64.1%	69.3%	72.0%
3．10,000 円～15,000 円	11.6%	28.6%	14.2%	8.8%	16.8%	15.3%	6.1%
4．15,000 円～20,000 円	3.2%	4.8%	3.4%	1.3%	4.6%	3.6%	4.0%
5．20,000 円以上	2.1%	4.8%	2.0%	1.1%	7.6%	1.6%	1.8%

図 10





OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ



使用料金については、男女とも持ち始めの時期にかかわらず、よく似た傾向にある。平均の使用料金を比べてみると持ち始めの時期がはやいほど平均使用料金は高い。

ここでも、携帯電話への依存度についてみてみた。その結果を表したのが表 71 である。

表 71　携帯電話依存度　　はい

	全体	男・小	男・中	男・高	女・小	女・中	女・高
１．携帯電話を学校に持ってきている	89.5%	91.9%	90.5%	82.9%	94.2%	91.9%	92.3%
２．携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる	43.6%	48.6%	39.5%	30.2%	58.8%	57.0%	42.6%
３．メールが届いていないかよくチェックする	54.5%	51.2%	52.9%	48.7%	63.8%	65.1%	48.7%
４．メールにはすぐ返事をかえすようにしている	68.4%	65.9%	72.2%	72.0%	67.7%	67.1%	64.4%

表 71 から明らかなように、携帯電話を持ち始める時期が早いほど、男女とも、より携帯電話を学校へ持ってきている割合が高く、携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなると答える割合も高い。

また、一日のメールの送信回数をみてみた。その結果を表したのが表 72 である。

表 72　一日のメールの送信回数

	全体	男・小	男・中	男・高	女・小	女・中	女・高
１．０～２０回ぐらい	58.6%	57.8%	52.2%	68.8%	47.0%	52.6%	61.3%
２．２０～３０回ぐらい	15.9%	4.4%	19.3%	14.1%	18.9%	14.3%	17.8%
３．３０～５０回ぐらい	12.5%	17.8%	11.6%	8.8%	12.9%	16.3%	12.4%
４．５０～１００回ぐらい	8.6%	8.9%	11.0%	5.8%	14.4%	11.4%	5.6%
５．１００回以上	4.4%	11.1%	6.0%	2.6%	6.8%	5.4%	2.9%

メールの送信についても、携帯電話を持ち始める時期が早いほど、よりたくさんのメールを送信しているといえるのではないだろうか。

５．自分自身について（性格・規範意識・マナー・友人関係）

今回の調査では高校生自身についての事もたずねた。高校生の性格や、規範意識、マナー、友人関係ついて明らかにすることは、高校生像を探る上で大切な部分である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

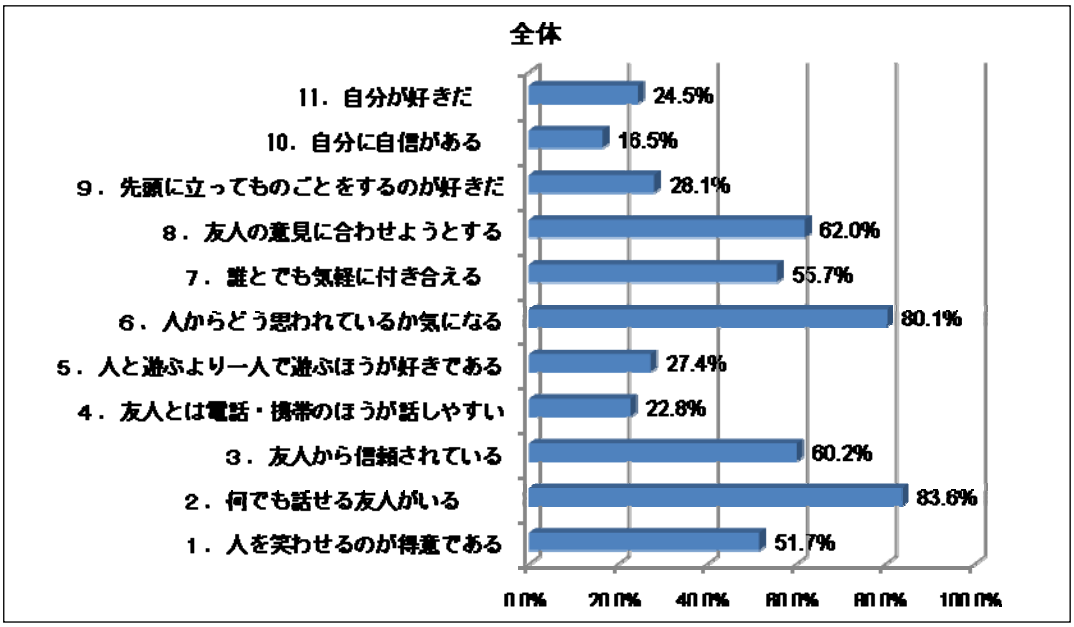
（１）性格

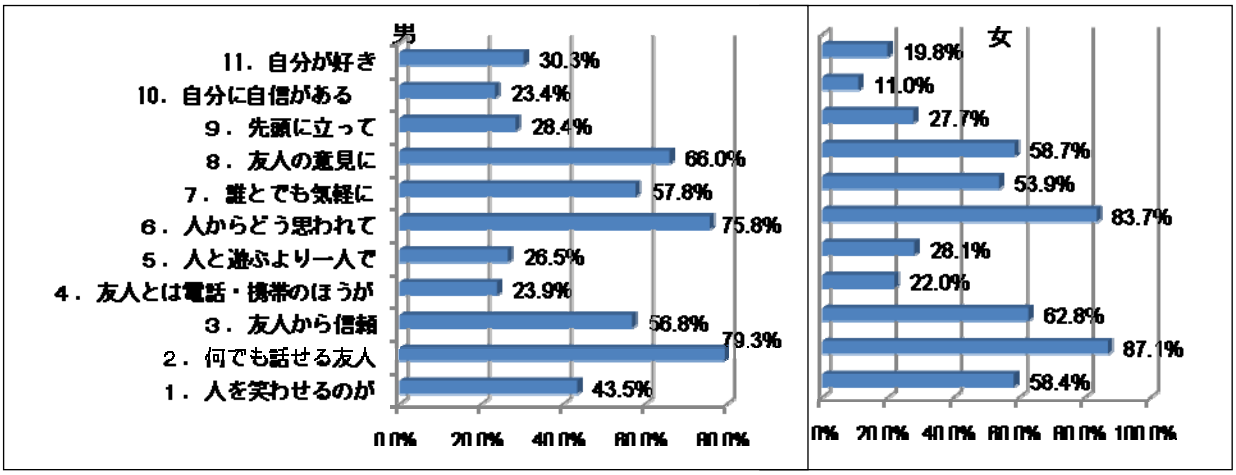
まず、性格についてみてみよう。これについてまとめたのが表７3、図 11 である。

表 73　自分の人柄について　　あてはまる

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．人を笑わせるのが得意である	51.7%	43.5%	58.4%	51.7%	52.9%	50.8%
2．何でも話せる友人がいる	83.6%	79.3%	87.1%	84.5%	83.5%	83.1%
3．友人から信頼されている	60.2%	56.8%	62.8%	64.3%	60.2%	57.6%
4．友人とは電話・携帯のほうが話しやすい	22.8%	23.9%	22.0%	17.8%	20.6%	27.6%
5．人と遊ぶより一人で遊ぶほうが好きである	27.4%	26.5%	28.1%	26.4%	28.9%	26.8%
6．人からどう思われているか気になる	80.1%	75.8%	83.7%	84.0%	81.4%	76.8%
7．誰とでも気軽に付き合える	55.7%	57.8%	53.9%	60.6%	54.3%	53.8%
8．友人の意見に合わせようとする	62.0%	66.0%	58.7%	64.7%	62.3%	60.1%
9．先頭に立ってものごとをするのが好きだ	28.1%	28.4%	27.7%	31.3%	28.1%	26.2%
10．自分に自信がある	16.5%	23.4%	11.0%	19.1%	15.2%	16.0%
11．自分が好きだ	24.5%	30.3%	19.8%	27.5%	21.7%	24.9%

図 11





OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

「何でも話せる友人がいる」に 83.6%が「あてはまる」と答えている。しかしながら、「友人から信頼されている」に、60.2%が「あてはまる」と答えるにとどまっている。自分では、何でも話せると思っていながらも、信頼されているかどうかについては自信がないということであろうか。

「人からどう思われているか気になる」に、80.1%が「あてはまる」と答えている。そして、「友人の意見に合わせようとする」に、62.0%が「あてはまる」と答え、「先頭に立ってものごとをするのが好きだ」に 28.1%、「自分に自信がある」に 16.5%、「自分が好きだ」に 24.5%が「あてはまる」と答えるにとどまっている。

これらの結果から描かれる生徒像としては、自分にあまり自信が無く、友人関係の中で他人から自分がどう思われているのかを気にして、友人に意見を合わせ、友人のあとからついていくような生徒像である。当然、先頭に立ってものごとをするのが好きではなく、誰とでも気軽に付き合えるといった社交性も弱い。ただ、他の調査の結果からいうと、自分に自信があまりないと答えるのが日本人の性格特性のようである。このあたりを留意してデーターを解釈する必要があるだろう。

「何でも話せる友人がいる」に女子の 87.1%が「あてはまる」と答えているのに対し、男子は 79.3%である。「人からどう思われているか気になる」に女子の 83.7%が「あてはまる」と答えているのに対し、男子は 75.8%である。「誰とでも気軽に付き合える」に女子の 53.9%、男子の 57.8%が「あてはまる」と答えている。男子の方が「友人の意見に合わせようとする」割合が高く、男子 66.0%に対し、女子は 58.7%であった。友だち付き合いの質の違いが表れているようである。また、「自分に自信がある」「自分が好きだ」には、男子の方が「あてはまる」と答えている割合が高い。

「自分に自信がある」については、学校分類間で差があるであろうと思っていたが、パーセントからみるとそれほどの差は見受けられなかった。そこで、「自信あり得点」注 27 を使い、複数のカテゴリー間で有意な差があるかどうかを分散分析してみた。「自分が好き」についても同様に処理をした。それをまとめたのが、表 74 である。

表 74　学校分類別・男女別、自信あり得点・自分が好き得点（分散分析）

		普通科Ⅰ		普通科Ⅱ		専門学科		F 値		
		男	女	男	女	男	女	学校分類	性	学校分類*性
自信あり得点	平均	2.85	3.20	2.93	3.32	2.96	3.34	3.585*	98.764***	.079
	（標準偏差）	.849	.762	.757	.721	.832	.819			交互作用なし
好き得点	平均	2.80	3.01	2.91	3.19	2.88	3.21	4.693**	41.054***	.709
	（標準偏差）	.881	.852	.899	.817	.945	.918			交互作用なし

「自分に自信がある」に学校分類間で弱いながらも有意な差がみられた。「自分が好きだ」には学校分類間で有意差がみられた。

注 27；この質問に、1.とてもよくあてはまる、2.ややあてはまる、3.あまりあてはまらない、4. 全くあてはまらない、から一つ選んでいるが、選んだ番号を「自信あり得点」とした。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

携帯電話が普及し、「友人とは電話・携帯のほうが話しやすい」と思っている生徒が案外多いのではと考えていたが、あてはまると答えたのが 22.8%であった。また、「人と遊ぶより一人で遊ぶほうが好きである」に 27.4%が「あてはまる」と答えている。この数字をどう考えればよいであろうか。

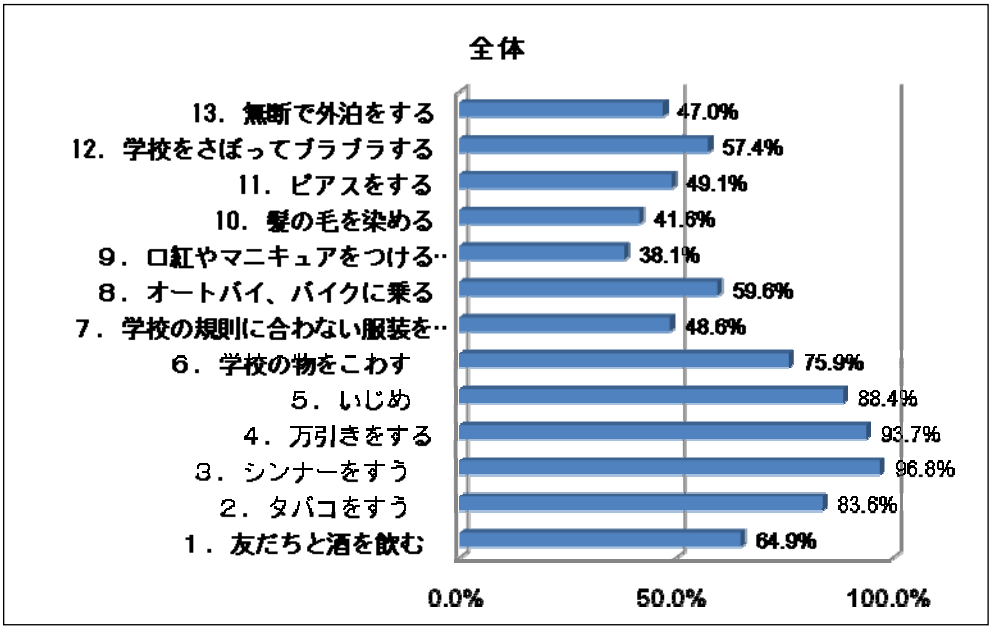
（２）規範意識

高校生としてやってはいけない事について、どう思っているのかたずねた。「やってはいけない」と思うものにいくつでも○をつける、というものである。それをまとめたのが、表 75 ならびに図 12 である。

表 75　高校生として「やってはいけない」と思うもの（○がついた割合）　　はい

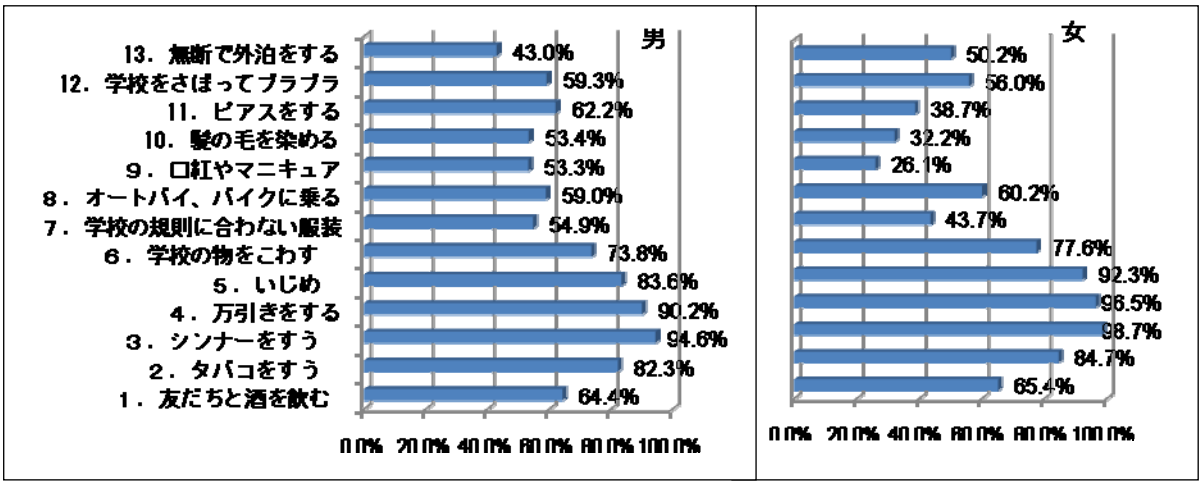
	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
平均○個数 注 28	**8.2**	**8.4**	**8.1**	**9.0**	**8.1**	**7.8**
1．友だちと酒を飲む	64.9%	64.4%	65.4%	73.1%	61.8%	62.2%
2．タバコをすう	83.6%	82.3%	84.7%	90.6%	83.6%	79.2%
3．シンナーをすう	96.8%	94.6%	98.7%	97.7%	97.7%	95.6%
4．万引きをする	93.7%	90.2%	96.5%	97.1%	93.3%	92.0%
5．いじめ	88.4%	83.6%	92.3%	90.8%	87.5%	87.6%
6．学校の物をこわす	75.9%	73.8%	77.6%	80.9%	73.8%	74.4%
7．学校の規則に合わない服装をする	48.6%	54.9%	43.7%	54.6%	44.9%	47.8%
8．オートバイ、バイクに乗る	59.6%	59.0%	60.2%	64.7%	58.9%	57.0%
9．口紅やマニキュアをつける（化粧をする）	38.1%	53.3%	26.1%	38.6%	34.3%	40.8%
10．髪の毛を染める	41.6%	53.4%	32.2%	44.8%	39.0%	41.6%
11．ピアスをする	49.1%	62.2%	38.7%	56.9%	43.9%	48.2%
12．学校をさぼってブラブラする	57.4%	59.3%	56.0%	62.8%	54.6%	56.2%
13．無断で外泊をする	47.0%	43.0%	50.2%	53.2%	44.6%	45.1%

図 12



注 28；平均○個数とは、全 13 項目中○がついた個数の平均を算出したもの

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ



やってはいけないものとして 80%以上の生徒が○をつけた項目は４つであった。一番目が「シンナー」で 96.8%、続いて「万引き」93.7%、三番目が「いじめ」88.4%、四番目が「タバコ」83.6%である。「いじめ」の 88.4%はどう考えたらよい数字であろうか。

男女を比べてみると、男子の方が各項目に「やってはいけない」と思うものとして○をつける割合が高い。ただ、これについては、この項目の内容を考慮しなくてはいけない。化粧、髪、ピアス、服装は女子の方が男子より興味のある項目である。これらの項目に、男子は半数以上がやってはいけないと思っているのに対し、女子はそう思うものとして○をつける割合が低くなっている。そして、合計○個数を引き下げる格好になり、女子の平均○個数が少なくなっているものと思われる。

また、「無断で外泊をする」についても性差が見受けられ、男子で 43.0%の生徒が「高校生としての自分が「やってはいけない」と思うもの」として認識していると答えたにとどまっており、無断外泊への意識の低さがうかがえる。

表 75 の平均○個数を、いろいろなカテゴリー別に算出しまとめたのが表 76 である。

表 76　各カテゴリー別「やってはいけない」と思うもの、平均○個数　　**平均○個数**

全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科	1年	2年	3年	アルバイト経験者	非経験者
8.2	8.4	8.1	9.0	8.1	7.8	9.2	8.1	7.3	6.6	8.8

各カテゴリー間で差があるように見受けられる。そこで、カテゴリー間で有意な差があるかどうか、t 検定もしくは分散分析をした。「規範意識（○の個数）」を従属変数、「性」、「学校分類」、「学年」、「アルバイト経験」を独立変数として行った。この結果をまとめたのが、表 77 である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 77　各カテゴリー別平均○個数の t 検定もしくは分散分析

性別	男	女	t 値	有意確率
○の個数平均	8.40	8.06	1.918	.055
（標準偏差）	4.296	3.575		

学校分類	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科	F 値	有意確率
○の個数平均	9.03	8.12	7.79	13.658	.000
（標準偏差）	3.462	3.708	4.240		

学年	1 年	2 年	3 年	F 値	有意確率
○の個数平均	9.15	8.08	7.35	28.697	.000
（標準偏差）	3.580	3.996	3.96940		

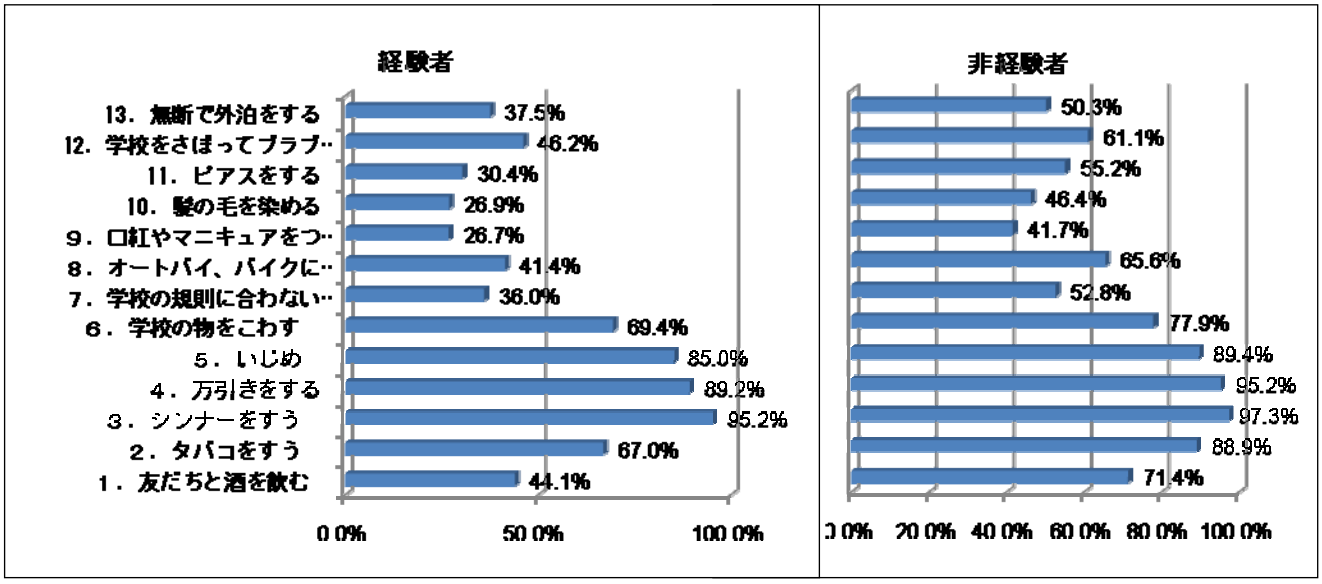
アルバイト経験有無	あり	なし	t 値	有意確率
○の個数平均	7.10	9.01	-9.938	.000
（標準偏差）	3.670	3.485		

○の個数は、男女間では少し有意差があった。学校分類間、学年間、アルバイト経験有無で有意差があった。学年間では、学年が上がるに従って○のつく個数が減る傾向がある。アルバイト経験では、経験有が経験無より、○の個数が少ない傾向がある。アルバイトをすることで、社会をかいま見、この質問の中身を生徒として回答するのではなく大人の感覚で回答しているのではないだろうか。そこで、各項目にアルバイト経験者はどのように答えているのかみてみた。この結果をまとめたのが、表 78 ならびに図 13 である。

表 78　高校生として「やってはいけない」と思うもの（○がついた割合）

	全体	アルバイト経験者	非経験者
1．友だちと酒を飲む	64.9%	44.1%	71.4%
2．タバコをすう	83.6%	67.0%	88.9%
3．シンナーをすう	96.8%	95.2%	97.3%
4．万引きをする	93.7%	89.2%	95.2%
5．いじめ	88.4%	85.0%	89.4%
6．学校の物をこわす	75.9%	69.4%	77.9%
7．学校の規則に合わない服装をする	48.6%	36.0%	52.8%
8．オートバイ、バイクに乗る	59.6%	41.4%	65.6%
9．口紅やマニキュアをつける（化粧をする）	38.1%	26.7%	41.7%
10．髪の毛を染める	41.6%	26.9%	46.4%
11．ピアスをする	49.1%	30.4%	55.2%
12．学校をさぼってブラブラする	57.4%	46.2%	61.1%
13．無断で外泊をする	47.0%	37.5%	50.3%

図 13



OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

この結果をまとめたのが、表 79 である。

表 79　家庭環境との相関

	相関係数
1．親はしつけがきびしい	-.050 *
2．親は教育熱心だ	-.094 **
3．くらしむきは（生活は）豊かだ	-.066 **
4．親は欲しいものはほとんど買ってくれる	.003
5．家には本が多い（マンガ・雑誌・学習参考書は除く）	-.061 **
6．親と将来のことについて話をする	-.108 **
7．父を尊敬している	-.098 **
8．母を尊敬している	-.110 **
9．親の期待を負担に思うときがある	-.028

以上のように、家庭環境が規範意識に関連があるといえよう。それも、負の相関ということから、表 79 の項目に「とてもよくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒ほど○の個数が多いということになる。

（3）マナー

高校生のマナーについて、まとめたのが表 80 である。

表 80　マナー意識　　そう思う

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．公共の場所での会話は周囲を気にするべきだ	88.5%	87.9%	89.1%	92.4%	89.6%	85.5%
2．公共の場所での化粧はつつしむべきだ	72.0%	69.6%	74.0%	77.6%	70.4%	69.7%
3．公共の場所で地べた座りはするべきではない	75.3%	70.1%	79.4%	81.3%	73.1%	73.3%
4．電車の中でお年寄りに座席を譲るべきだ	93.1%	90.8%	95.0%	94.9%	94.1%	91.3%
5．公共の場では携帯での話しはつつしむべきだ	83.2%	82.1%	84.1%	87.3%	83.8%	80.2%
6．近所の人に会ったらあいさつするべきだ	89.9%	87.4%	91.9%	91.2%	92.5%	87.2%
7．友達との待ち合わせの時間は守るべきだ	95.5%	94.5%	96.3%	95.9%	96.4%	94.6%
8．たとえ休日でも出かけるときは身だしなみを整えるべきだ	78.6%	77.9%	79.2%	80.7%	78.5%	77.6%
9．目上の人への言葉づかいは気をつけるべきだ	95.3%	93.6%	96.8%	95.5%	95.4%	95.1%

この中で一番値が高いのが、「友達との待ち合わせの時間は守るべきだ」95.5%、続いて「目上の人への言葉づかいは気をつけるべきだ」95.3%、三番目に「電車の中でお年寄りに座席を譲るべきだ」93.1%である。この結果から彼らは、「友人との関係」「先輩との関係」を大切にしているということがわかる。54 頁、表 73 からもこのことがうかがわれる。

また、「公共の場所での会話は周囲を気にするべきだ」に 88.5%が、「公共の場では携帯での話しはつつしむべきだ」に 83.2%が「そう思う」と答えているが、他方、「公共の場所での化粧はつつしむべきだ」に 72.0%、「公共の場所で地べた座りはするべきではない」に 75.3%が「そう思う」と答えているにとどまっており、周りに対して声の大きさなどについては気にするが、化粧や地べた座りをすることによって自分がどのように思われるの

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

かということにはあまり頓着していないようである。迷惑さえかからなかったらそれでよい、という考え方なのであろうか。

「電車の中でお年寄りに座席を譲るべきだ」に 93.1%、また「近所の人に会ったらあいさつするべきだ」に 89.9%が「そう思う」と答えており、弱者を大切にしようとする気持ちや、近所付き合いの大切さについては小さい頃からしつけられているのがわかる。

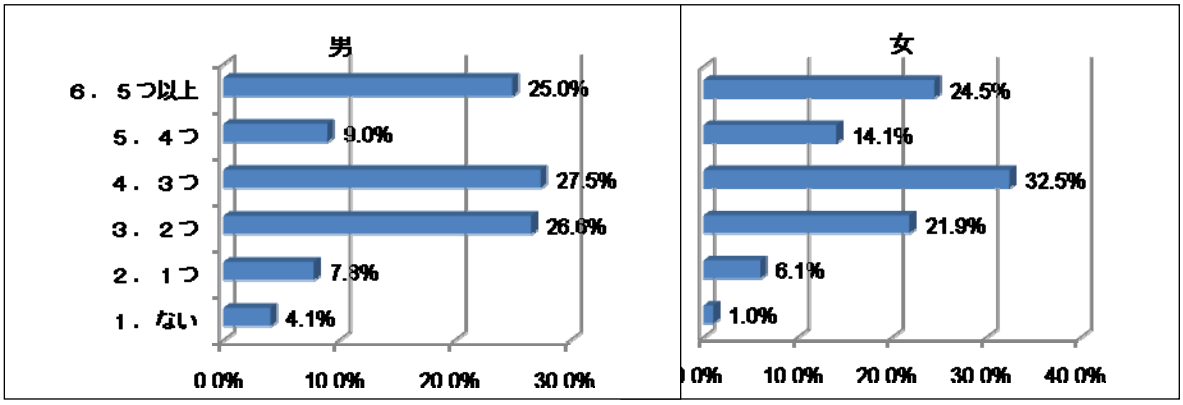
（4）友人関係

まず、普段よくつきあっている友人グループについて、その数、構成人数、特質をたずねた。これをまとめたのが表 81～表 83 ならびに図 14～15 である。

表 81　友人グループの数（学校内・外は問わない。）

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．ない	2.4%	4.1%	1.0%	1.2%	2.6%	3.0%
2．１つ	6.8%	7.8%	6.1%	4.1%	7.0%	8.4%
3．２つ	24.0%	26.6%	21.9%	23.3%	24.3%	24.1%
4．３つ	30.2%	27.5%	32.5%	30.1%	30.8%	29.8%
5．４つ	11.8%	9.0%	14.1%	13.3%	12.5%	10.3%
6．５つ以上	24.8%	25.0%	24.5%	28.0%	22.8%	24.4%

図 14



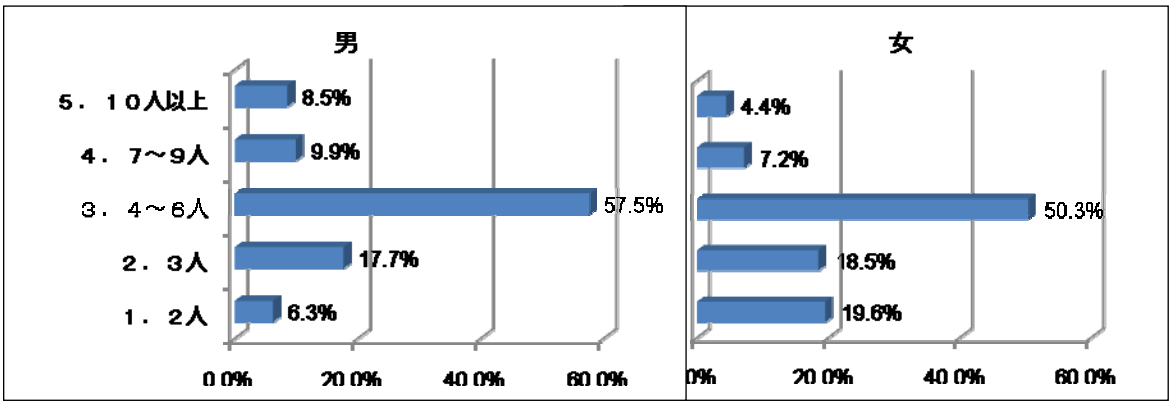
男女とも３つと答えたのが一番多い。ただ、男子で「４つ」「５つ」と答えたのがあわせて 34.0%に対し女子は 38.6%であった。また、２つ以下であると答えたのが男子では 38.5%であるのに対し女子は 29.0%であった。このことより、女子の方が普段よくつきあっている友人のグループ数が多いといえる。

表 82　友人グループのメンバー数

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．２人	13.8%	6.3%	19.6%	12.1%	13.9%	14.7%
2．３人	18.1%	17.7%	18.5%	17.9%	16.7%	19.5%
3．４～６人	53.5%	57.5%	50.3%	53.3%	55.1%	52.4%
4．７～９人	8.4%	9.9%	7.2%	10.0%	8.5%	7.2%
5．１０人以上	6.2%	8.5%	4.4%	6.7%	5.8%	6.3%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

図 15



男女とも４～６人と答えたのが一番多い。２人グループの割合が男女間では差があり、男子が 6.3%に対し、女子は 19.6%であった。男子は３人以下と答えたものがあわせて、24.0%に対し、女子は 38.1%であった。男子は人数の多いグループをつくる傾向があり、７人以上のグループが 18.4%に対し、女子は 11.6%であった。

表 83　友人グループの特徴　　はい

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．現在同じクラスの人が多い	60.1%	59.3%	60.8%	56.0%	57.6%	64.8%
2．現在同じ学年の人が多い	94.7%	93.5%	95.5%	96.9%	95.6%	92.5%
3．現在同じ学校の人が多い	73.4%	72.6%	74.1%	75.1%	73.2%	72.5%
4．現在同じ部の人が多い	44.3%	50.0%	39.9%	46.9%	43.8%	43.0%
5．同じ中学出身の人が多い	49.5%	53.2%	46.7%	46.5%	49.5%	51.5%
6．同性の人のみである	81.2%	77.7%	83.9%	86.1%	82.9%	76.7%
7．同じくらいの成績の人が多い	25.2%	25.6%	25.0%	26.2%	24.3%	25.4%
8．メンバーはいつも決まっている	73.5%	69.5%	76.6%	71.0%	70.9%	77.1%
9．休日一緒に行動することが多い	39.1%	42.6%	36.5%	37.1%	39.9%	39.8%
10．何でも悩みごとを相談しあえる	71.1%	61.4%	78.5%	72.4%	69.7%	71.3%
11．将来ずっと続くグループだと思う	71.5%	64.1%	77.3%	71.4%	72.0%	71.2%

「現在同じ学年の人が多い」と答えている生徒の割合が 94.7%と高い。同じ学校で、「何でも悩みごとを相談しあえる」「将来ずっと続くグループだと思う」と答えているものの、「休日一緒に行動することが多い」とまではいかないようである。また、そのグループに成績はあまり関係がないようである。

男子は女子に比べ「同じ中学出身の人が多い」と答えている割合が大きい。女子は、「同性の人のみである」、「何でも悩みごとを相談しあえる」、「将来ずっと続くグループだと思う」と答える割合が男子に比べ大きい。しかしながら、「休日一緒に行動することが多い」の質問には男子 42.6%が「はい」と答えているのに比べ女子では 36.5%であった。ここでも男女間で友達との距離の取り方と親密度の違いが表れているようである。

高校生は学校で普段友達とどんな話をしているのだろうか。それについてまとめたのが表 84 である。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表 84　友人との会話の内容

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．成績や勉強について	9.1%	11.9%	6.8%	14.0%	9.7%	5.6%
2．部活動について	14.1%	19.9%	9.6%	15.3%	14.2%	13.3%
3．将来の進路について	7.7%	7.5%	7.9%	7.7%	7.8%	7.6%
4．他の友人について	7.6%	8.4%	6.9%	7.0%	7.4%	8.1%
5．芸能界やタレントについて	12.1%	10.1%	13.7%	11.7%	11.6%	12.7%
6．おしゃれやファッションについて	5.8%	4.3%	7.0%	3.0%	6.4%	7.0%
7．社会問題や政治・経済について	0.7%	1.2%	0.3%	0.9%	0.3%	0.8%
8．異性について	12.9%	11.6%	13.9%	11.0%	12.4%	14.5%
9．悩みごとについて	9.9%	4.3%	14.3%	8.6%	10.3%	10.4%
10．その日学校で起こったことについて	15.3%	14.6%	15.8%	17.0%	15.4%	14.1%
11．その他	4.9%	6.2%	3.8%	3.8%	4.4%	5.9%

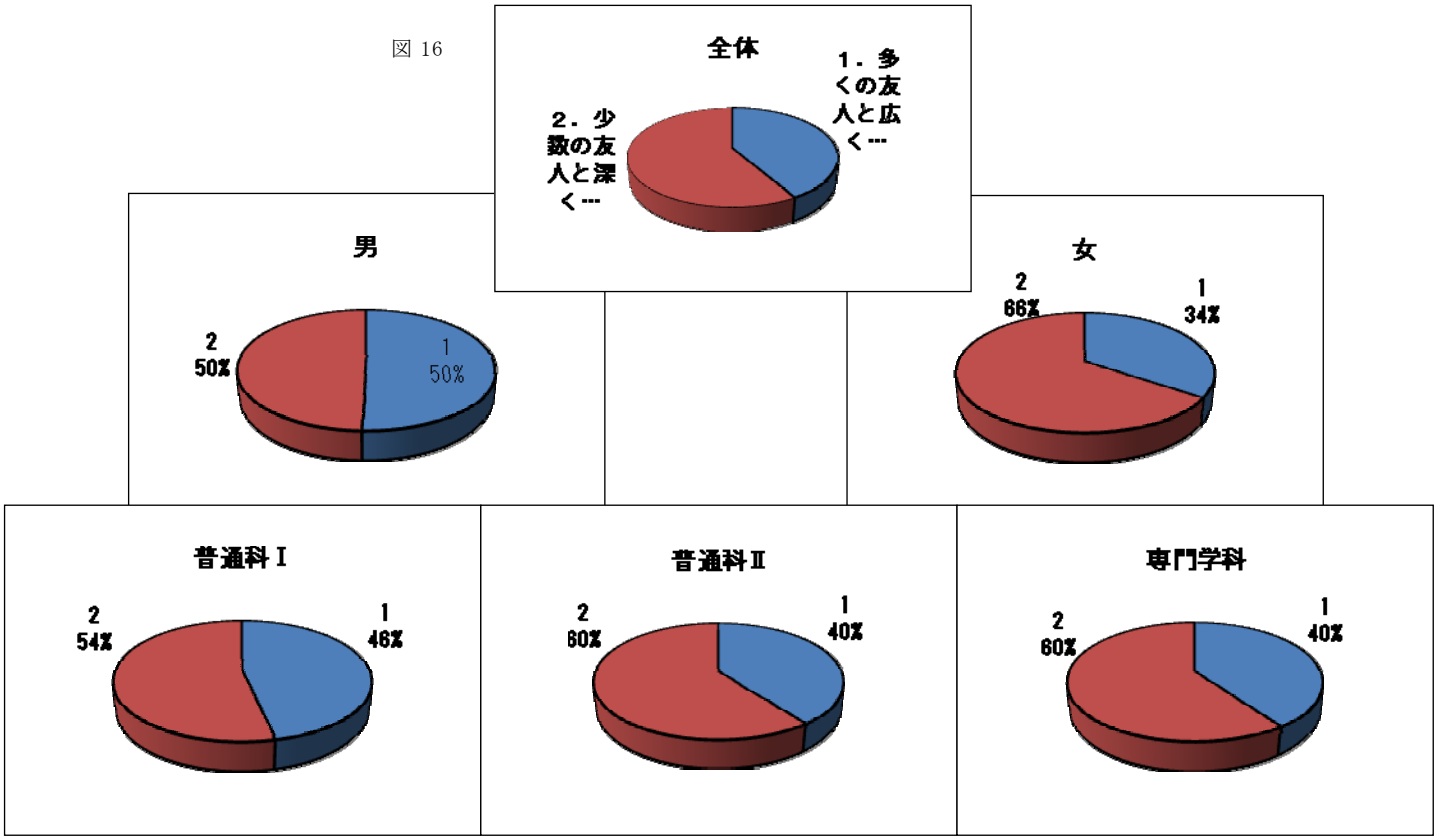
ふだんの会話は、全体でいうと、「その日学校で起こったことについて」、「部活動について」、「異性について」「芸能界やタレントについて」が多い。性差が見受けられ、女子は男子に比べ「悩みごとについて」を話題にすると答える割合が大きい。男子は「部活動について」を一番にあげている。女子の方が男子に比べ、友人との距離の取り方が近い。

彼らの友人関係についてまとめたのが表 85、図 16 である。

表 85　友人関係の特性

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．多くの友人と広くつきあう	41.6%	50.4%	34.4%	46.5%	39.7%	40.1%
2．少数の友人と深くつきあう	58.4%	49.6%	65.6%	53.5%	60.3%	59.9%

図 16



OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

友人関係については、全体の 41.6%が「多くの友人と広くつきあう」と答え、58.4%が「少数の友人と深くつきあう」と答えている。少数の友人と深くつきあうと答える生徒の方が多い。性差また、学校分類別間で差が見られるようである。女子の方が男子に比べ「少数の友人と深くつきあう」と答える生徒の割合が大きい。また、普通科Ⅱ、専門学科の生徒は、普通科Ⅰの生徒に比べやや「少数の友人と深くつきあう」と答える生徒の割合が「多くの友人と広くつきあう」と答えた生徒の割合より大きい。

６．考察

「学校生活は楽しい」に 80.6%、「授業にまじめに参加する」に 80.7%が、「あてはまる」と答えており学校生活についておおむね前向きに取り組んでいる。その反面、全体の 33.9%が「学校をやめたいと思うことがある」と答えるなど、学校生活に対する評価の二極化がうかがえる。学業に対しては「少しでも成績を上げるようにしたい」、「成績がさがると気になる」に「あてはまる」と回答した割合はそれぞれ、53.1%、51.2%にとどまっており、必ずしも積極的でないことがうかがえる。

授業以外の勉強時間「０時間」と答えた割合が、全体では 32.7%であった。小学校、中学校ではこの値が改善されているという報告がある中、高等学校では、少子化にともなう大学全入時代やアルバイト活動への従事などの理由により、勉強離れが進んでいるのではなかろうか。

アルバイトは、高校生の放課後の生活に組み込まれてきている。部活動にとって代わってアルバイトが入ってきているといってもよいのかもしれない。それに伴って、高校生としての既存の規範意識に変化が表れ始めている。高校生と社会人の壁があいまいになっている。アルバイトについては二つの考え方がある。一つは、アルバイトは社会体験として価値があるという考え方である。もう一つは、アルバイトに向かうために「パート・タイム生徒」になってしまい、学校が彼らの生活に占める比率が小さくなることに対する懸念を表す考え方である。また、安易なアルバイト経験はフリーターに結びつくという考え方もある。アルバイトについての功罪は今後よく検証していかなければならない。

携帯電話の所持率等は、全体では 96.8%、男子 95.3%、女子 98.0%であった。携帯電話を持ち始める時期が早いほど、携帯電話を学校へ持ってきている割合が高く、「携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる」と答える割合も高い。より携帯電話に依存しているといえよう。これでは学習に集中できないのではないか。小学校の時期から携帯電話を持つことに関しては、今後保護者とともに検討していかなくてはならない問題であろう。

「何でも話せる友人がいる」に 83.6%が「あてはまる」と答えている。しかしながら、「友人から信頼されている」に、60.2%が「あてはまる」と答えるにとどまっている。自分では、何でも話せると思っていながらも、信頼されているかどうかについては自信がな

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

いということであろうか。「人からどう思われているか気になる」に、80.1%が「あてはまる」と答えている。そして、「友人の意見に合わせようとする」に、62.0%が「あてはまる」と答え、「先頭に立ってものごとをするのが好きだ」に 28.1%、「自分に自信がある」に 16.5%、「自分が好きだ」に 24.5%が「あてはまる」と答えるにとどまっている。

マナー意識をみると、「電車の中でお年寄りに座席を譲るべきだ」に 93.1%、「近所の人に会ったらあいさつするべきだ」に 89.9%、「公共の場では携帯での話しはつつしむべきだ」に 83.2%が、「そう思う」と答えている。おおむね良好であるといえよう。

今回の調査で、我々教師が思っている以上に、「オトナ」としての高校生の姿が浮き彫りになった。高校生と社会人のボーダーラインが溶解しつつあると言ってもよかろう。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

第３章　今後の高校教育への展望

今回のこの調査は、それまで我々教員が抱いていた高校生のイメージを数字で裏付けるものもあればうち破るものもあった。「家庭ではあまり勉強していないだろう」、「アルバイトを隠れてやっている生徒が結構いるのでは・・・」、「携帯電話は彼らの必需品で依存しているのでは・・・」という予想に関しては正確な数値を我々に提示してくれた。

アンケート結果全体から読み取れる香川県の高校生像を、以下のようにまとめた。

(1) 今を大切にしたい

(2) 卒業はしたいが勉強はほどほどでよい

(3) 友達関係にデリケートになっている

(4) 良識のある「大人（おとな）」として規範意識をとらえているのではなく、彼らなりの「オトナ」としてとらえている

また、生徒達の学校に対する意識や放課後の生活が、ますます多様化していることが理解できた。

高校生の姿を刈谷は次のようにまとめている。

学校で学ぶ意味が見つからない。学習への動機づけがはたらかなくなった、といわれる。「豊かな社会」の出現によって、少子化による受験戦争の緩和によって、あるいは学歴により保証されてきた「終身雇用」の崩壊によって、子どもを学習へと動機づけるしくみがはたらかなくなった、というのである。

「ゆとり」と「個性尊重」、「生きる力」の育成をめざす教育改革は、一見すると異論のない理想のようにみえる。中教審によれば、「【生きる力】は、自ら学び、自ら考える力など、個人が主体的・自律的に行動するための基本となる資質や能力をその大切な柱とするもの」である。こうした「生きる力」の育成に異を唱えることはむずかしい。だが、「自ら学び、自ら考える」個人、「主体的・自律的」に行動する資質を備えた個人に、だれもがなれるのか。階層的な視点を欠いた改革は、改革の失敗のしわ寄せが、だれに及ぶのかを見きわめる視点さえもたない。

＜降りる＞ことで自己を肯定する「自己形成のメカニズム」は、ある意味で、こうして追いつめられた若者たちの心理･社会的な防衛機制だということもできるのである。このような変化に目を向けないまま、私たちは自己責任が強調される社会に移行しようとしている。それを後押ししているのは、大衆教育社会のもとで形成された日本的な平等感と教育の理想主義である。教育の理想が社会の実相からかけ離れたまま、理想の教育が実現することを当然の前提として、自己責任社会の編成が進む。さらには、そこにほころびが露見しそうになると、教育基本法の改正や「奉仕活動の義務化」といった教

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

育改革国民会議の提唱のように、「国家」を前面に押しだすかたちで社会の統合を強化する動きも現れる。（苅谷　2001）

学習に対して意欲がわかない生徒が、どんどん高校に入学してきているという事実もまた真である。そういった生徒に対し、何ができ得るのであろうか。

高校は知識だけを与えるところではない。人生 85 年を主体的に生きていく事が自分自身でイメージできる生徒の育成をしなくてはならない。アンケートからは、「今が楽しければそれでよい」といった姿が見受けられると上記した。自分の人生を見通した生活設計、職業選択、進路選択ができているかといえば、どうやらそうではない。

「生きる力」とは、

① 自分という存在を、独立した一個の自由なものであり、いずれは、親の保護から離れて独立していく存在なのだという客観的認識ができること

② 自分の将来を見通して、進むべき進路を決定し、将来設計をたてること。

③ 進むべき進路決定のために自分で情報を巧みに操り調べることができること。

④ 問題解決能力のこと。

高校は、自分は何が好きで、何を学びたいのかを見つけるところであるといえる。小学校、中学校とは違って、いろいろな地域からいろいろな生徒が集まるため、育った環境や考え方が違う青年の集まりとなっている。そのような集団の中で、自分は何を勉強したいのか、何が好きなのか、どのような一生を送るのかを考えあう場であるといえよう。

なぜ勉強をしないのか。答えは案外簡単なのかもしれない。「今、学校で行われている授業に関心がもてないから」。では、どのようにしたらよいのであろうか。何が必要なのか。それを考える時忘れてはいけないのが、「人生 85 年を念頭においた」生き方につながる教育である。生きる力とは、人生を自主的、自律的に生きていく力のことである。そして、自分の生き方を考えるとき必要になってくるのが、仕事に関するものである。文部科学省の「高校生におけるキャリア教育の推進について調査研究協力者会議報告書」でも述べられているとおり、高校現場、とりわけ普通科高校における３年間を見通してのキャリア教育はまだまだである。大学訪問等を行い、当面の選択は行っているが、その先の職業選択をも視野に入れたキャリア教育がとりわけ遅れている。香川県で普通科の高校生全員にインターンシップを導入することは現実的に難しい問題ではあるが、将来の職業についてもう少し具体的に彼ら自身でイメージした上で進学していく大学を決定するようにしなくてはならない。

すでに全国では、この動きは始まっている。３年間を視野に入れ、ロングホームルームと総合的な学習の時間、および教科間で連携をとりながらのキャリア教育がすすんでいる。

先日、香川大学教育学部２年生以上を対象とした授業の中で、「高校時代の意味」を問う機会が得られた。250 名を超える学生から以下のような示唆をもらった。「高校時代は、友

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

達と一緒に何かをやり遂げたり、将来について語り合ったりできる大切な時間である」と。

高校生が学校で学ぶことが楽しいと実感できるような「仕掛け」が必要なのは誰しもわかっている。キーワードは、「体験」「実感」であろう。

次に、「良識ある大人の育成」の必要性について述べたい。アンケートの結果から、高校生と社会人の壁が融解してわかりにくくなっているといえよう。アルバイトを体験することで、自分なりに問題解決をしなくてはいけない場面に出会う回数が植えている。自分で「お金」も稼げるようになっている。親の保護の元、このような状況の中では、背伸びをさせてもらっている「オトナ」にしか過ぎないのであるのだが、「自分は一人前の大人である」と勘違いをする生徒が増えてきているように思われる。このような今日の高校生を、「良識ある大人」にするために学校でも「教育するシステム作り」が必要になってきているのではないだろうか。高校を卒業してすぐに父親、母親になる場合が少なからずある。こういう場面に出会ったとき、高校時代に彼らに「親となるべく心構え」を教える機会があったであろうかと自問自答することがある。本来なら、「モデル」としての自身の親を見習って「良識ある大人」なっていくのであろうが、待っている時間もない。

「よい大人」として羽ばたいていけるように、規範意識、マナーを育むとともに、次世代の健全な父親・母親となるべく教育もあわせて行う必要があろう。

最後に、「友達関係にデリケートになっている」ことについて述べたい。今回のこの調査から、友人関係にデリケートな生徒たちの姿が浮き彫りになった。いい意味で言うならば「友達関係を大切にする」ということばでまとめられるのであるが、私はそのようには受け止めなかった。友人関係に神経質であるように思われた。必要以上に周りの目を気にしている、そのように思われる。これでは疲れるだろうなあ、というのが率直な感想である。“peer-pressure”ということばがあるが、友人関係は時には大きな圧力になるものである。この原因は、一日中彼らが生活する教室にあるらしい。教室という「場」で居心地よく過ごすために彼らは、我々教師が考えている以上に友達との関係にデリケートになっているらしい。「友達関係を考えるとストレスを感じることがある」と特に女子生徒が訴えることがあったが、この気持の裏側にあるものを、今回のアンケートを通して理解できた気がする。「教室」という場で「成績」という一つの評価規準のみで自分を評価し、どんどん自信をなくしていっている。ここで問題なのは、生徒を評価する規準（物差し）の数が少ないことと、その規準（物差し）の種類が偏っていることではないだろうか。我々教師が、生徒を評価する際、規準（物差し）の引き出しをもっともっと多く準備して、生徒にいろいろな機会に○（マル）をつけていく必要性を感じた。

《ある生徒の事例》

母親と死別し、父親は本人を置いて家を出てたまに連絡をとるくらい。兄と姉がいるがそれぞれ自立している。本人は養護施設に預けられている。愛媛県に母方の叔母がおり休

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

みになると叔母の家に帰る。入学した当初より、施設から早く出たいと言い、施設を出るために、１年が修了したら学校をやめ就職すると言っていた。成績はさほど悪くはないが勉強をしないので除々に下がりだす。2年になり、あるコンテストでの入賞をきっかけに、作品作りにまた、学習にも目を向けだした。成績も上がりだし、作品作りにおいてもライバルを見つけ、前向きに取り組みだした。自分に自信が持てるようになってきたのであろうか。３年生になった彼女に久し振りにあったが、顔つきが少し大人びるとともに落着きが感じられた。自信というのは大きい。

進路多様校の生徒たちは、中学校の時から、成績で輪切りをされ、自分の進むべき高校をすでに決められている。他の選択肢もなく、それを受け入れるしか道は残されていないかのごとく。彼らは現実をきちんと見極めている。また、それを受け入れている。と言おうか、受け入れずにはおられないのである。教師が彼らに何か与えられるとすれば、彼らに寄り添い、彼ら自身が自分探しをすることにおいてほんの少し手助けをする事ぐらいである。その過程で彼らには、彼ら自身で自分をみつめ、何者でもないまさしく自分という者を少しでも受け入れ、そして好きになってもらいたいものである。

卒業生との会話の中から紹介したい。「私の高等学校生活で、先生の影響は大きい。自分のことを認めてくれて、分かってくれる先生のおかげで卒業できたのだと思う。途中で学校をやめたいと思ったことは何度もあるが、先生たちの励ましのおかげで卒業できた。」核家族化が進む中で、接する大人の数が少ない今の子どもたち。彼らに接する大人の一人として、彼らが自分の人生を主体的に切り拓いていく手助けをしていきたいと考える。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

おわりに

2008 年 12 月 22 日に文部科学省は、高校の学習指導要領改定案を公表した。進学率が 98%となり生徒層が多様化したことを受け、義務教育の内容を復習する授業を可能とすることを明文化した。また、授業時数の増加で「ゆとり教育」から大きな転換を図った小中学校の新指導要領に比べ、小幅な変化にとどまった。多様化が進む現状を追認し、高校教育の将来像を示すには至らなかった。

98%という高い進学率が今後大きく変わるとは考えにくい。大学全入時代などを背景に、低下が指摘されている学習意欲を高めることも課題だ。指導要領という一つの枠組みにおさめにくくなる中、専修学校や高等専門学校との違い、普通教育と専門教育の在り方など中期的な課題が中教審でも指摘され、文科省は重い宿題を背負っている。（四国新聞、2008 年 12 月 23 日）

今回の調査を行う前に、自分なりに、今の高校生の実態について予想を立てていた。しかし、高校生の生活に対する意識、また放課後の過ごし方は、私が予想していた以上に多様化が進んでいた。そんな彼らを一色単に指導することに無理があることが、改めて明らかになった。特に、学校分類間での意識や行動様式の差については、今後、学校現場での指導に大きな示唆を与えてくれた。これを踏まえた上で、実際の指導にあたっていきたいと思う。

大学院での２年目は思いもよらない大きな財産を私の教員生活に与えてくれた。当初、２年目については、他の現職教員と同じように私も現場に戻って修士論文の完成をめざすものと思っていた。それが、１年目の夏に置籍校の校長より、「２年目も大学院で勉強しなさい。」と告げられた。「まるまる、２年目が修士論文に使える。」このような時に、指導教官の加野先生から、「県下の高校生の意識調査は、最近、誰も行っていない。本来なら、県教育委員会高校教育課がするべきであろうが誰にもそんな時間はない。まるまる２年目が使えるあなたがするべきだ。」と強く指導いただいた。その時には、この調査の持つ意味の大きさなど想像だにできなかった。年末に、この調査に関する記事が四国新聞に大きく取り上げられ、その後、年も押し迫った 12 月末に、高校教育課から、「今回の研究に関して、使いたい部分があるので、是非とも詳しい結果を送ってほしい。」という連絡を受けたとき、改めて、この調査の重みについて思い知らされた。と同時に、この貴重な調査結果をどのように使ったらよいのか、その責任の重さについても再意識せざるを得なくなった。今回の研究結果を、今後、生徒指導、進路指導、教育相談等いろいろな方面で活用できるように、資料の整理、分析にとりかかりたいと思っている。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

謝　　辞

本研究を進めるにあたって、多くの方々に貴重な助言と励ましのことばをいただきました。ここに謹んでお礼を申し上げます。

指導教官の加野先生には、研究に取り組むにあたって、今回のこの調査研究の意義について説いていただきました。調査規模の大きさに驚き、躊躇していた私の背中を、「香川県教育委員会から、まるまる２年という期間をいただいて大学院にやってきている以上、何か役に立つものをしなさい。」と強く押していただいたことは今でも昨日のことのように覚えています。また、調査結果入力にあたっては、研究室をあげてのバックアップ体制をとっていただき、お礼のことばもありません。入力の手伝いをしていただいた、加野研究室の３年生の皆さんにあらためてお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

また、情報発信ということで、中四国教育学会での発表を勧めていただき、11 月末に愛媛大学にて発表をする機会が得られました。加野先生には、お忙しい中、当日おいでていただき本当にありがとうございました。学会での発表など初めてでしたが、大変よい経験となりました。また、12 月初めにこの調査結果が、四国新聞に記事として取り上げられましたことは、大きな驚きとともに喜びでもありました。さらに、香川大学研究紀要に掲載していただけるということで、感謝の気持ちでいっぱいです。

調査の実施に際しましては、貴重な時間を割いて協力してくださった各高等学校の校長先生はじめ先生方、生徒の皆さんに心から感謝いたします。アンケートの質問項目の中には答えにくいもの、また、答えたくないと感じるような個人的なものまで含まれていたにもかかわらず調査に協力していただき、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、２年間の貴重な研修の機会を下さった香川県教育委員会、置籍校、善通寺西高等学校の高田耕治校長先生、また内地留学を勧めていただきました坂出工業高等学校、丸尾寛校長先生に心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

平成２１年１月１３日

中西公子

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

引用・参考文献

1) NHK 放送文化研究所編『NHK 中学生・高校生の生活と意識調査
楽しい今と不確かな未来』　ＮＨＫ出版、2003 年

2) NHK 放送文化研究所編『現代日本人の意識構造[第六版]』　日本放送出版協会、2004 年

3) 戸田忠雄『学校は誰のものか　学習者主権をめざして』　講談社、2007 年

4) 喜入克『高校の現実』　草思社、2007 年

5) 寺脇研『格差時代を生きぬく教育』　ユビキタ・スタジオ、2006 年

6) 寺脇研『学力崩壊の「戦犯」と呼ばれて　さらばゆとり教育』　光文社、2008 年

7) 中央教育審議会答申　第一次答申第一部（三)「生きる力」(1996 年７月)

8) 耳塚寛明『高校の現在』　ＩＤＥ-現代の高等教育　No.489・４月号　ＩＤＥ大学協会、2007 年

9) 耳塚寛明『第４回　学習基本調査報告書（高校生版）　調査の結果からみえること』
Benesse　教育研究開発センター、2007 年

10) NHK「日本の宿題」プロジェクト編『学校の役割は終わったのか』　ＮＨＫ出版、2001 年

11) 苅谷剛彦『階層化日本と教育危機』　有信堂、2001 年

12) 部落開放・人権研究所『排除される若者たち　フリーターと不平等の再生産』　解放出版社、2006 年

13) 佐々木賢『親と教師が少し楽になる本』　北斗出版、2002 年

14) 荻野ゆう子『子どもたちと若者の居場所』萌文社、2006 年

15) 岩木秀夫『ゆとり教育から個性浪費社会へ』　ちくま新書、2004 年

16) 石田浩『後期青年期と階層・労働市場』　教育社会学研究、2005 年

17) 粒来香『高卒無業者の教育社会学的研究(2)
：大都市高校３年生調査(第２次)の分析(進路と教育(2))』　日本教育社会学会第 55 回大会
発表要旨集録、2003 年

18) 本田由紀『トランジションという観点から見たフリーター』　「社会科学研究」東京大学社会科学研究所、2004

19) 内閣府『平成１８年度　国民生活白書』　内閣府国民生活局総務課、2006 年

20) 財団法人日本青少年研究所編『高校生の消費に関する調査
－日本・アメリカ・中国・韓国の比較－』　財団法人日本青少年研究所、2008 年

21) 米川秀樹『現代高校生の規範意識の変容と基底要因に関する研究
－大都市高校生の規範意識調査の分析をもとに－』　日本教育社会学会第 54 回大会
発表要旨集録、2002 年

22) 尾田幸雄『子どもの人間形成と規範意識の確立』　初等教育資料　平成 19 年６月号（No.822）
2007 年

23) 中途退学等対策委員会編『高等学校中途退学問題について』　香川県教育委員会中途退学等対策委員会、2002 年

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

基礎集計表

ならびに

アンケート用紙

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

人数
1926

1. あなたは平日、次のことをどのくらいしますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. テレビを見たり、ラジオを聞いたりする	平均(分)	104.0	99.1	107.8	93.8	105.6	108.8
2. マンガや雑誌を読む		41.0	43.1	39.4	32.0	40.4	47.0
3. 小説や教養書などの本を読む		18.8	17.2	20.2	15.2	19.7	20.4
4. 友だちと携帯や電話で話したり、メールしたりする		74.0	59.4	85.6	59.9	76.0	80.9
5. パソコンや携帯でインターネットをする		58.2	51.3	63.6	47.1	58.1	64.8
6. 勉強をする		35.2	30.6	38.9	63.9	39.9	14.4
7. 新聞を読む		6.3	8.5	4.6	6.5	6.2	6.3

「ほとんどしない」=0　「10分くらい」=10　「30分くらい」=30
「1時間くらい」=60　「2時間くらい」=120　「3時間以上」=180 として平均時間を算出

2. 平日の放課後あなたはおもに何をしますか。あてはまるものを多い順に3つまで選んでください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. まっすぐ家へ帰る	26.1%	25.3%	26.8%	24.8%	25.0%	27.8%
2. 友だちと話をする	17.7%	15.3%	19.7%	16.2%	18.1%	18.4%
3. 友だちと遊びに行く	11.8%	11.8%	11.8%	8.5%	10.8%	14.7%
4. 一人で街をぶらぶらする	2.1%	3.0%	1.4%	1.7%	1.8%	2.6%
5. 何となく学校に残っている	2.9%	2.7%	3.1%	2.4%	3.6%	2.7%
6. 部活動に参加する	30.8%	34.2%	28.1%	35.0%	31.8%	27.3%
7. 委員会活動に参加する	0.7%	1.1%	0.4%	0.7%	0.8%	0.6%
8. アルバイトをする	2.2%	1.3%	2.9%	0.0%	1.9%	3.8%
9. 塾や予備校に行く	4.0%	4.1%	4.0%	9.1%	4.7%	0.3%
10. その他（具体的に　　）	1.7%	1.3%	1.9%	1.6%	1.6%	1.8%

3. あなたは、お小遣(こづか)いを月にいくら家の人からもらっていますか。あてはまる番号に○をつけてください。とくに決まっていない場合でも、おおよその額を選んでください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
平均額（円）	4,047	4,313	3,839	4,406	3,900	3,942
1. ～1,000円ぐらい	4.4%	4.7%	4.1%	3.9%	3.1%	5.6%
2. 2,000円ぐらい	6.7%	6.1%	7.3%	6.1%	6.5%	7.2%
3. 3,000円ぐらい	15.0%	14.7%	15.3%	16.2%	17.0%	12.8%
4. 4,000円ぐらい	5.4%	5.8%	5.0%	6.4%	4.9%	5.1%
5. 5,000円ぐらい	32.4%	34.0%	31.1%	35.5%	32.8%	30.2%
6. 7～8,000円ぐらい	5.1%	4.9%	5.2%	7.0%	4.2%	4.5%
7. 10,000円ぐらい	6.8%	7.7%	6.1%	7.2%	6.7%	6.7%
8. 15,000円ぐらい	1.1%	1.4%	0.9%	1.0%	1.1%	1.2%
9. 20,000円ぐらい	0.8%	0.9%	0.7%	0.4%	1.0%	0.9%
10. 20,000円以上	0.8%	0.9%	0.7%	1.0%	0.2%	1.1%
11. なし	21.6%	18.8%	23.7%	15.4%	22.5%	24.6%

「～1,000円ぐらい」=1000
「2,000円ぐらい　」=2000
「3,000円ぐらい　」=3000
「4,000円ぐらい　」=4000
「5,000円ぐらい　」=5000
「7～8,000円ぐらい」=7500
「10,000円ぐらい」=10000
「15,000円ぐらい」=15000
「20,000円ぐらい」=20000
「20,000円以上」=25000
「なし」=0
として平均金額を算出

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

4. あなたは学校内での部活や同好会に所属していますか。部名、また1週間あたりの活動日数についても答えてくださ

	全体	男	女	普通科	I普通科	II専門学科
1. はい	72.8%	76.9%	69.6%	79.1%	77.0%	66.0%

〈あなたの学校生活についてたずねます。〉
5. 次のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科	I普通科	II専門学科
1. 学校生活は楽しい	そう思う%	80.6%	81.0%	80.2%	85.5%	82.2%	76.4%
2. クラスに親しみを感じる		77.8%	79.7%	76.4%	81.8%	76.7%	76.3%
3. 学校の休み時間は楽しい		84.6%	83.3%	85.7%	86.0%	83.2%	84.9%
4. 気軽に話し合える先生が多い		51.5%	51.7%	51.3%	51.7%	48.0%	53.8%
5. 就職や進学について友人と話すことが多い		49.6%	42.6%	55.2%	55.7%	51.3%	44.6%
6. クラスに気の合う人が多い		73.4%	75.9%	71.3%	79.1%	70.2%	72.3%
7. 校則は厳しい		60.4%	54.9%	64.9%	50.3%	54.5%	70.8%
8. 先生の言うことに納得がいかないことがある		67.0%	65.7%	67.9%	67.2%	64.8%	68.5%
9. 学校をやめたいと思うことがある		33.9%	29.8%	37.1%	26.6%	31.3%	40.1%
10. 進路に役立つ授業が多い		51.3%	51.2%	51.3%	57.4%	41.1%	55.2%
11. 自分の興味、関心にあった授業が多い		38.2%	39.6%	37.1%	38.3%	29.5%	44.6%

6. 次の意見について、あてはまる番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科	I普通科	II専門学科
1. 学校へは勉強をするために来ている	あてはまる%	73.5%	71.5%	75.0%	80.4%	75.6%	67.7%
2. 学校へは友達と話をするために(会うために)来ている		82.1%	76.7%	86.5%	85.9%	80.5%	81.1%
3. 学校へは部活をするために来ている		52.6%	60.0%	46.7%	61.1%	50.7%	48.9%
4. 学校へは他に行くところがないのでとりあえず来ている		23.9%	26.5%	21.8%	18.2%	23.6%	27.7%

7. 校則についてたずねます。それぞれについて、あなたの意見にもっとも近い番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科	I普通科	II専門学科
1. 校則を守るのは高校生として当然である	そう思う%	75.7%	79.9%	72.4%	78.7%	76.4%	73.5%
2. 校則を守るのは先生から悪く見られないためだ		56.6%	56.7%	56.4%	58.1%	56.8%	55.4%
3. 校則を守れば、就職や進学に有利になる		74.9%	72.4%	76.9%	62.8%	73.9%	82.7%
4. 校則をよく守る人はそうでない人よりも尊敬できる		53.9%	55.2%	52.9%	53.3%	51.8%	55.8%
5. 校則は生徒自身の意見を尊重して作られるべきだ		77.8%	75.4%	79.7%	80.3%	74.4%	78.8%

8. あなたは、あなたの学校の校則をどの程度知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

	全体	男	女	普通科	I普通科	II専門学科
1. とてもよく知っている	2.6%	3.1%	2.2%	2.7%	2.1%	2.9%
2. まあまあ知っている	58.4%	53.6%	62.4%	54.8%	56.4%	62.0%
3. あまりよく知らない	36.4%	39.5%	33.9%	39.8%	38.3%	32.9%
4. 全く知らない	2.7%	3.8%	1.6%	2.7%	3.3%	2.2%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

9. あなたは、あなたの学校の校則をどのくらい守っていますか。あてはまる番号に〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. とてもよく守っている	12.1%	14.3%	10.3%	10.4%	13.4%	12.2%
2. まあまあ守っている	73.5%	72.4%	74.4%	74.8%	74.9%	71.7%
3. あまり守っていない	12.8%	11.7%	13.7%	13.3%	10.7%	14.1%
4. 全く守っていない	1.6%	1.5%	1.5%	1.4%	1.0%	2.1%

10.授業についてたずねます。それぞれについて、あなたにあてはまる番号に〇をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 授業はわかりやすい	**あてはまる%**	66.8%	67.1%	66.6%	77.3%	65.3%	61.6%
2. 予習をする		20.2%	16.5%	23.1%	39.7%	19.4%	9.1%
3. 授業にまじめに参加する		80.7%	78.3%	82.7%	85.3%	82.7%	76.5%
4. ノートをきちんととる		91.0%	88.1%	93.3%	93.0%	90.9%	89.8%
5. 授業には満足できる		55.2%	56.8%	53.9%	64.2%	51.9%	52.2%

11.あなたの学校の先生についてたずねます。あなたは、どういう先生が人気があると思いますか。
それぞれについて、あてはまる番号に〇をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 知識の豊富な先生	**そう思う%**	67.2%	67.3%	67.1%	75.3%	62.9%	65.7%
2. ユーモアのある先生		93.0%	92.5%	93.4%	97.5%	93.8%	89.8%
3. きびしい先生		23.7%	23.4%	23.9%	22.8%	20.8%	26.5%
4. えこひいきしない先生		72.0%	68.9%	74.5%	75.6%	76.1%	66.8%
5. 親身になって考えてくれる先生		87.6%	83.9%	90.6%	92.4%	88.1%	84.4%
6. 授業に熱心な先生		64.2%	60.5%	67.1%	73.2%	63.8%	59.0%
7. よく話を聞いてくれる先生		89.5%	85.2%	92.9%	93.7%	89.9%	86.6%

12.あなたは、授業がどのくらいわかりますか。あてはまる番号に〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. ほとんど全部わかる	4.6%	6.6%	2.9%	5.9%	4.2%	4.0%
2. 7割くらいわかる	33.3%	32.8%	33.7%	44.9%	33.6%	26.2%
3. 半分くらいわかる	44.3%	42.0%	46.2%	37.7%	46.6%	46.5%
4. 3割くらいわかる	12.8%	14.0%	11.8%	8.8%	12.2%	15.6%
5. ほとんどわからない	5.0%	4.7%	5.4%	2.7%	3.4%	7.7%

13.あなたの成績は学年・学科内でどのくらいですか。あてはまる番号に〇をつけてください。

	上 5	4	中 3	2	下 1
全体	6.2%	21.7%	36.1%	24.8%	11.1%
男子	7.9%	19.5%	32.9%	25.4%	14.3%
女子	4.7%	23.5%	38.8%	24.4%	8.5%
普通科Ⅰ	3.3%	18.2%	35.7%	28.5%	14.3%
普通科Ⅱ	6.2%	26.0%	39.4%	21.8%	6.5%
専門学科	8.0%	20.5%	33.9%	24.8%	12.7%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

14.あなたは、学校の成績が下がると気になりますか。あてはまる番号に〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. たいへん気になる	29.7%	30.3%	29.1%	37.6%	30.8%	24.2%
2. かなり気になる	21.5%	22.1%	21.1%	25.2%	22.8%	18.5%
3. 少し気になる	36.9%	33.5%	39.7%	26.6%	35.8%	43.7%
4. 気にならない	11.9%	14.1%	10.1%	10.6%	10.6%	13.6%

15.成績について、あなたの考えにもっとも近い番号に〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 少しでも成績を上げるようにしたい	53.1%	51.0%	54.9%	68.0%	59.5%	39.6%
2. 仲間についていけるぐらいにしたい	14.2%	14.3%	14.0%	12.5%	13.7%	15.5%
3. せめて欠点だけはとらないようにしたい	32.0%	33.6%	30.7%	19.1%	26.6%	43.7%
4. 成績のことはどうでもよく、留年するようなことになってもかまわない	0.7%	1.0%	0.4%	0.4%	0.2%	1.2%

16.あなたの授業以外の勉強時間は平均すると平日でおよそどのくらいですか。テスト発表期間中やテスト期間中は除きます。また、塾や予備校、また放課後学校に残って勉強する時間などすべて含みます。
あてはまる番号に〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
平均時間(分)	53.5	49.3	56.9	85.4	61.6	28.5
1. 0時間	32.7%	35.1%	30.8%	9.0%	28.3%	50.1%
2. 30分以内	20.8%	21.5%	20.2%	16.0%	19.9%	24.5%
3. 30分から～1時間	14.2%	13.5%	14.8%	18.0%	14.7%	11.7%
4. 1～1.5時間	10.4%	12.3%	8.9%	17.0%	9.3%	7.3%
5. 1.5～2時間	9.4%	7.4%	11.0%	16.0%	12.5%	3.2%
6. 2～3時間	7.8%	6.2%	9.1%	15.7%	9.4%	1.8%
7. 3～4時間	2.8%	1.7%	3.7%	6.3%	3.1%	0.5%
8. 4～5時間	0.9%	1.2%	0.8%	1.2%	1.8%	0.1%
9. 5～6時間	0.4%	0.3%	0.5%	0.6%	0.5%	0.2%
10. 6時間以上	0.5%	0.7%	0.3%	0.2%	0.5%	0.6%

「0時間」=0
「30分以内」=30
「30分から～1時間」=45
「1～1.5時間」=75
「1.5～2時間」=105
「2～3時間」=150
「3～4時間」=210
「4～5時間」=270
「5～6時間」=330
「6時間以上」=360
として平均時間を算出

17.あなたが現在の学校を選んだ理由は何ですか。あてはまるものを強い順に2つまで選んで下さい。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 家に近いから	14.1%	14.2%	14.0%	15.8%	16.3%	11.4%
2. 親や先生などまわりの人がすすめたから	9.6%	9.2%	9.9%	7.3%	9.6%	11.0%
3. 学費の経費が安いか	2.7%	3.3%	2.2%	2.1%	2.6%	3.0%
4. 自分の学業成績を考えて	33.7%	30.7%	36.1%	36.9%	38.6%	28.0%
5. 自分の才能、適性を考えて	12.0%	11.8%	12.2%	9.3%	10.6%	14.7%
6. 就職に有利だから	7.0%	9.4%	5.1%	1.3%	1.3%	14.7%
7. 大学進学に有利だから	4.9%	4.7%	5.0%	12.1%	3.7%	1.5%
8. 他の学校に合格できなかったから	2.4%	2.9%	2.0%	1.3%	2.1%	3.3%
9. 学校の伝統や評判がよいから	3.2%	3.1%	3.2%	5.6%	2.7%	2.1%
10. 友だちが行くから	2.3%	3.1%	1.6%	2.2%	3.0%	1.9%
11. その他（具体的に　　）	8.2%	7.6%	8.6%	6.2%	9.5%	8.4%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

18.あなたは、はじめから現在の学校・学科を希望していましたか。あてはまる番号1つに〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. はじめから現在の学校・学科を希望していた	45.4%	44.1%	46.5%	54.3%	37.8%	45.8%
2. 現在の学校の別の学科を希望していた	7.8%	8.5%	7.3%	6.4%	5.5%	10.4%
3. 別の学校の現在と同じ学科を希望していた	18.1%	19.0%	17.4%	22.5%	30.3%	6.3%
4. 別の学校の別の学科を希望していた	16.5%	14.4%	18.3%	10.0%	14.8%	21.7%
5. 特に行きたい学校はなく、どの学校でもよかった	10.7%	12.5%	9.0%	6.8%	10.6%	13.0%
6. 本当は高校に行きたくなかった	1.5%	1.5%	1.5%	0.0%	1.0%	2.8%

〈あなたの将来や進路についてたずねます〉
19.あなたは、高校卒業後どのような進路をとりたいですか。あてはまる番号1つに〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 4年制の国・公立大学	32.8%	37.4%	29.1%	68.0%	37.5%	8.3%
2. 4年制の私立大学	15.0%	16.2%	14.0%	18.7%	21.2%	8.1%
3. 短期大学	6.9%	1.8%	11.0%	2.3%	7.3%	9.3%
4. 専修学校・各種学校	20.0%	13.7%	25.2%	8.0%	22.0%	25.7%
5. 就職	22.6%	27.8%	18.5%	2.3%	9.1%	45.0%
6. その他（具体的に　　）	2.7%	3.3%	2.2%	0.8%	2.9%	3.6%

20.あなたの将来の生活にとって、次のものはどの程度重要だと思われますか。それぞれについて、あてはまる番号に　　〇をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 高い収入が得られること	**重要%**	92.6%	94.1%	91.4%	90.4%	94.3%	92.7%
2. 会社の中で高い地位につけること		53.6%	64.6%	44.7%	52.7%	56.2%	52.3%
3. 収入が安定していること		97.9%	97.2%	98.5%	98.8%	97.7%	97.6%
4. 社会や人のためになること		82.3%	80.0%	84.3%	86.0%	82.9%	79.7%
5. 清く正しくくらすこと		79.5%	77.9%	80.9%	84.8%	79.0%	76.7%
6. 自分の家族や家庭生活を大切にすること		96.2%	95.6%	96.6%	97.7%	96.1%	95.3%
7. 自分の思い通りに自由にできること		74.1%	77.6%	71.1%	79.1%	73.0%	71.9%
8. 自分の能力が発揮できること		93.0%	92.1%	93.7%	94.9%	93.2%	91.7%
9. 休日・休暇が多いこと		72.1%	76.6%	68.6%	71.5%	69.2%	74.7%
10. 自分の趣味にあったくらしができること		94.6%	94.1%	95.0%	96.1%	93.0%	94.9%
11. 他人との人間関係を大切にすること		95.1%	93.5%	96.3%	96.5%	94.5%	94.7%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

〈友人についてたずねます。〉
21.あなたは、ふだんよくつきあっている友人グループがいくつありますか。学校内・外は問いません。
あてはまる番号1つに○をつけてください。（あなたと友だちの2人でも、グループとします。）

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. ない	2.4%	4.1%	1.0%	1.2%	2.6%	3.0%
2. 1つ	6.8%	7.8%	6.1%	4.1%	7.0%	8.4%
3. 2つ	24.0%	26.6%	21.9%	23.3%	24.3%	24.1%
4. 3つ	30.2%	27.5%	32.5%	30.1%	30.8%	29.8%
5. 4つ	11.8%	9.0%	14.1%	13.3%	12.5%	10.3%
6. 5つ以上	24.8%	25.0%	24.5%	28.0%	22.8%	24.4%

≪上の質問に2～6と答えた人は回答してください。≫
a.)もっとも仲のよいグループのメンバーはあなたを入れて何人ですか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 2人	13.8%	6.3%	19.6%	12.1%	13.9%	14.7%
2. 3人	18.1%	17.7%	18.5%	17.9%	16.7%	19.5%
3. 4～6人	53.5%	57.5%	50.3%	53.3%	55.1%	52.4%
4. 7～9人	8.4%	9.9%	7.2%	10.0%	8.5%	7.2%
5. 10人以上	6.2%	8.5%	4.4%	6.7%	5.8%	6.3%

b.)もっとも仲のよいグループについて、あてはまるときは1（はい）、
あてはまらないときは2（いいえ）に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 現在同じクラスの人が多い	はい%	60.1%	59.3%	60.8%	56.0%	57.6%	64.8%
2. 現在同じ学年の人が多い		94.7%	93.5%	95.5%	96.9%	95.6%	92.5%
3. 現在同じ学校の人が多い		73.4%	72.6%	74.1%	75.1%	73.2%	72.5%
4. 現在同じ部の人が多い		44.3%	50.0%	39.9%	46.9%	43.8%	43.0%
5. 同じ中学出身の人が多い		49.5%	53.2%	46.7%	46.5%	49.5%	51.5%
6. 同性の人のみである		81.2%	77.7%	83.9%	86.1%	82.9%	76.7%
7. 同じくらいの成績の人が多い		25.2%	25.6%	25.0%	26.2%	24.3%	25.4%
8. メンバーはいつも決まっている		73.5%	69.5%	76.6%	71.0%	70.9%	77.1%
9. 休日一緒に行動することが多い		39.1%	42.6%	36.5%	37.1%	39.9%	39.8%
10. 何でも悩みごとを相談しあえる		71.1%	61.4%	78.5%	72.4%	69.7%	71.3%
11. 将来ずっと続くグループだと思う		71.5%	64.1%	77.3%	71.4%	72.0%	71.2%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

≪ここからはまた全員答えてください。≫
c.)あなたはふだん友人とどんな話をしますか。おもなもの2つに○をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 成績や勉強について	9.1%	11.9%	6.8%	14.0%	9.7%	5.6%
2. 部活動について	14.1%	19.9%	9.6%	15.3%	14.2%	13.3%
3. 将来の進路について	7.7%	7.5%	7.9%	7.7%	7.8%	7.6%
4. 他の友人について	7.6%	8.4%	6.9%	7.0%	7.4%	8.1%
5. 芸能界やタレントについて	12.1%	10.1%	13.7%	11.7%	11.6%	12.7%
6. おしゃれやファッションについて	5.8%	4.3%	7.0%	3.0%	6.4%	7.0%
7. 社会問題や政治・経済について	0.7%	1.2%	0.3%	0.9%	0.3%	0.8%
8. 異性について	12.9%	11.6%	13.9%	11.0%	12.4%	14.5%
9. 悩みごとについて	9.9%	4.3%	14.3%	8.6%	10.3%	10.4%
10. その日学校で起こったことについて	15.3%	14.6%	15.8%	17.0%	15.4%	14.1%
11. その他（　　）	4.9%	6.2%	3.8%	3.8%	4.4%	5.9%

d.)あなたの友人関係は次のどちらに近いと思いますか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 多くの友人と広くつきあう	41.6%	50.4%	34.4%	46.5%	39.7%	40.1%
2. 少数の友人と深くつきあう	58.4%	49.6%	65.6%	53.5%	60.3%	59.9%

22.テレビについてたずねます。
あなたは平日、平均すると1日何時間ぐらいみますか。

「30分以内」=30
「1時間くらい」=60
「1時間30分ぐらい」=90
「2時間くらい」=120
「2時間30分ぐらい」=150
「3時間以上」=180
「それ以上」=210
として平均時間を算出

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
平均時間（分）	110.9	105.8	115.0	96.9	111.8	118.5
1. 30分以内	12.1%	13.9%	10.7%	11.9%	10.0%	13.8%
2. 1時間ぐらい	21.0%	23.5%	18.9%	28.4%	20.1%	17.2%
3. 1時間30分ぐらい	11.9%	11.6%	12.1%	14.6%	13.9%	8.7%
4. 2時間ぐらい	25.5%	24.9%	26.0%	26.7%	27.5%	23.2%
5. 2時間30分ぐらい	7.9%	7.0%	8.6%	8.8%	7.7%	7.5%
6. 3時間ぐらい	13.3%	12.1%	14.2%	7.2%	13.3%	16.9%
7. それ以上	8.4%	7.1%	9.4%	2.3%	7.5%	12.7%

23.携帯電話についてたずねます。あてはまる番号に○をつけてください。
あなたは、あなた自身が専用に使っている携帯電話を持っていますか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 持っている	96.8%	95.3%	98.0%	97.5%	98.7%	95.0%
2. 持っていない	3.2%	4.7%	2.0%	2.5%	1.3%	5.0%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

≪上の質問に、1．持っている　と答えた人のみ回答してください。≫
a．）いつから持っていますか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．小学校の頃から	9.6%	5.5%	12.8%	10.9%	9.4%	8.9%
2．中学校の頃から	40.6%	36.9%	43.6%	37.9%	41.7%	41.4%
3．高校へ入学してから	49.8%	57.5%	43.7%	51.2%	48.8%	49.7%

b．）1日に何時間ぐらい携帯電話を使用していますか。通話、メール、インターネットすべてを含んで回答してください。

「30分以内」=30
「1時間ぐらい」=60
「1時間30分ぐらい」=90
「2時間ぐらい」=120
「2時間30分ぐらい」=150
「3時間以上」=180
「それ以上」=210
として平均時間を算出

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
	116.4	**100.0**	**129.1**	**94.7**	**113.9**	**131.6**
1．30分以内	17.5%	22.9%	13.3%	23.2%	16.5%	14.8%
2．1時間ぐらい	18.2%	23.0%	14.5%	25.7%	19.7%	12.5%
3．1時間30分ぐらい	10.2%	11.6%	9.1%	10.7%	10.9%	9.3%
4．2時間ぐらい	16.7%	15.4%	17.8%	18.3%	17.7%	14.9%
5．2時間30分ぐらい	6.2%	5.7%	6.6%	5.3%	6.1%	6.8%
6．3時間ぐらい	12.8%	10.3%	14.7%	8.6%	13.9%	14.4%
7．それ以上	18.4%	11.1%	24.1%	8.2%	15.2%	27.2%

c．）1ヶ月の使用料金はいくらぐらいですか。

「5,000円ぐらい　」=5000
「5,000円～10,000円」=7500
「10,000円～15,000円」=12500
「15,000円～20,000円」=17500
「20,000円以上」=20000
として平均金額を算出

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
	8,305	**8,092**	**8,462**	**8,014**	**8,289**	**8,504**
1．5,000円以内	14.8%	17.9%	12.3%	17.4%	15.6%	12.4%
2．5,000円～10,000円	68.2%	66.2%	69.8%	69.9%	66.3%	68.7%
3．10,000円～15,000円	11.6%	11.8%	11.5%	7.6%	13.5%	12.7%
4．15,000円～20,000円	3.2%	2.3%	3.9%	2.8%	3.0%	3.8%
5．20,000円以上	2.1%	1.8%	2.4%	2.3%	1.7%	2.4%

d．）使用料金の支払いは誰がしていますか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．親（保護者）	91.2%	92.3%	90.4%	94.5%	93.2%	87.6%
2．自分	5.8%	5.4%	6.1%	3.4%	3.8%	8.9%
3．その他（具体的に　　）	3.0%	2.3%	3.5%	2.1%	3.0%	3.5%

e．）携帯についての意見について、あてはまる番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．携帯電話を学校に持ってきている	**はい%**	89.5%	86.0%	92.3%	94.5%	93.7%	83.5%
2．携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる		43.6%	34.5%	50.7%	33.6%	43.6%	48.6%
3．メールが届いていないかよくチェックする		54.5%	50.4%	57.6%	54.5%	54.8%	54.1%
4．メールにはすぐ返事をかえすようにしている		68.4%	71.6%	66.0%	66.3%	69.0%	69.2%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

f. ）一日に何回ぐらいメールを送信していますか。あてはまる番号に〇をつけてください。
（複数の友達に一斉に送る場合は一回と数えてください。）

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．0～20回ぐらい	58.6%	62.2%	55.8%	65.5%	60.4%	53.0%
2．20～30回ぐらい	15.9%	15.4%	16.4%	15.2%	16.2%	16.2%
3．30～50回ぐらい	12.5%	10.3%	14.2%	11.4%	11.6%	13.9%
4．50～100回ぐらい	8.6%	7.8%	9.2%	6.3%	7.5%	10.9%
5．100回以上	4.4%	4.3%	4.5%	1.7%	4.3%	6.1%

24.塾・習い事等についてたずねます。あてはまるものに〇をつけてください。
あなたは次のものに通っていますか。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．学習塾・予備校に通っている	はい%	20.1%	20.9%	19.5%	41.1%	25.9%	3.4%
2．通信教育をしている		6.1%	4.8%	7.2%	14.3%	5.5%	1.7%
3．家庭教師に習っている		3.0%	3.0%	2.9%	3.9%	3.4%	2.1%
4．習い事をしている		10.7%	5.7%	14.8%	16.2%	11.4%	6.9%

≪上の質問に、ひとつでも「はい」と答えた人は回答してください。≫
a. ）1週間、塾や予備校、習い事にあわせて何日通っていますか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．1日	34.1%	28.4%	37.6%	29.2%	33.6%	51.9%
2．2日	31.3%	31.0%	31.5%	34.7%	30.9%	21.0%
3．3日	19.8%	24.1%	16.8%	21.4%	20.5%	12.3%
4．4日	6.5%	7.3%	5.9%	5.9%	8.2%	3.7%
5．5日以上	8.4%	9.1%	8.2%	8.9%	6.8%	11.1%

b. ）塾や予備校に通っている人にたずねます。それぞれについて、あてはまる数字に〇をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1．塾・予備校の授業はよくわかる	そう思う%	93.9%	95.1%	93.0%	94.6%	93.8%	90.6%
2．塾・予備校の授業はおもしろい		74.9%	75.3%	74.5%	78.1%	69.8%	81.3%
3．塾・予備校のほうが学校よりも勉強にうちこめる		81.5%	85.7%	77.8%	81.1%	80.9%	87.5%
4．塾・予備校のほうが学校よりも質問しやすい		87.8%	90.6%	85.4%	86.1%	88.9%	93.3%
5．塾・予備校の先生と気楽に話せる		87.6%	89.6%	85.8%	87.1%	87.0%	93.8%
6．塾・予備校の先生は尊敬できる		74.9%	76.2%	73.6%	73.5%	73.5%	90.6%
7．塾・予備校では友だちと深くつきあえる		56.6%	67.4%	47.6%	57.7%	54.0%	62.5%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

25.アルバイトについてたずねます。
あなたは、アルバイトをしたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 現在している	10.2%	6.8%	12.9%	0.6%	9.4%	16.5%
2. 夏休みなど、長期の休みの時だけにする	6.5%	5.9%	7.0%	2.3%	5.4%	9.8%
3. 以前したことがあるが現在はしていない	8.9%	9.4%	8.5%	6.8%	7.9%	10.8%
経験あり	25.6%	22.1%	28.3%	9.7%	22.8%	37.2%
4. したことがない	74.4%	77.9%	71.7%	90.3%	77.2%	62.8%

≪上の質問に1. 2. 3と答えた人にたずねます。2. 3. と答えた人は、一番最近にしたアルバイトについて答えてください。≫

a.)どこでしていますか。どのような仕事内容ですか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
コンビニ・ファーストフード	9.5%					
スーパー・食品販売	10.1%					
飲食店	30.0%					
郵便局	8.5%					
遊園地	1.0%					
居酒屋	3.1%					
運送会社・ガソリンスタンド・電機屋	5.2%					
本屋・美容院・病院	1.9%					
農業	0.2%					
ホテル・結婚式場・宴会場	1.7%					
塾・家庭教師	1.2%					
記入なし・秘密	27.7%					
接客	60.8%					
製造	10.8%					
裏方	26.5%					
○付け・指導	1.9%					

b.)アルバイトをしているのはなぜですか。強い順に2つまで選んでください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. こづかい(携帯電話代も含む)をかせぐため	53.9%	52.7%	54.6%	53.0%	51.7%	55.0%
2. やってみたい仕事だったから	5.5%	6.3%	5.0%	7.0%	6.8%	4.7%
3. 実社会に触れたかったから	12.2%	15.4%	10.5%	19.0%	15.0%	10.0%
4. 友だちに誘われたから	5.0%	5.4%	4.8%	7.0%	6.2%	4.1%
5. 家計を助けるため	13.4%	11.7%	14.4%	11.0%	11.0%	14.8%
6. その他(具体的に　　)	10.1%	8.6%	10.7%	3.0%	9.3%	11.5%

c.)初めてアルバイトをしたのはいつ頃ですか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 高校入学以前	14.6%	20.9%	10.9%	34.3%	13.6%	12.3%
2. 高校1年生	64.1%	59.0%	67.2%	57.1%	60.2%	67.1%
3. 高校2年生	18.2%	17.3%	18.8%	8.6%	23.7%	16.9%
4. 高校3年生	3.0%	2.9%	3.1%	0.0%	2.5%	3.7%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

d.)週に何日ぐらいしていますか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 1日	6.1%	6.1%	6.2%	15.6%	3.4%	6.2%
2. 2日	23.7%	22.9%	24.3%	25.0%	27.6%	21.6%
3. 3～4日	40.8%	35.9%	43.2%	37.5%	41.4%	41.0%
4. 5～6日	25.3%	30.5%	22.6%	15.6%	24.1%	27.3%
5. 月に1～2日	4.0%	4.6%	3.7%	6.3%	3.4%	4.0%

e.)アルバイト収入は月にいくらぐらいですか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 1万円未満	8.6%	8.4%	8.7%	31.3%	8.7%	5.3%
2. 1万～3万円	36.1%	29.8%	39.7%	34.4%	36.5%	36.1%
3. 3万～5万円	28.3%	26.7%	28.9%	21.9%	32.2%	27.3%
4. 5万～8万円	19.5%	22.9%	17.8%	12.5%	18.3%	21.1%
5. 8万円以上	7.5%	12.2%	5.0%	0.0%	4.3%	10.1%

26.あなたはだれと一緒にくらしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 父	84.0%	84.1%	83.9%	84.5%	86.6%	81.5%
2. 母	95.4%	94.7%	95.9%	97.1%	96.1%	93.7%
3. 祖父	22.3%	21.5%	22.9%	18.1%	25.1%	22.6%
4. 祖母	32.1%	33.5%	31.1%	27.2%	35.4%	32.6%
5. 兄	20.9%	20.9%	20.9%	16.3%	20.4%	24.2%
6. 姉	22.0%	20.7%	23.0%	17.5%	23.5%	23.5%
7. 弟	29.9%	29.5%	30.1%	29.3%	28.2%	31.6%
8. 妹	26.8%	26.6%	27.0%	27.0%	27.6%	26.0%
9. その他	6.5%	6.6%	6.4%	5.8%	6.2%	7.2%
平均人	**3.3**	**3.3**	**3.3**	**3.2**	**3.5**	**3.2**

27.あなたの家のことについてたずねます。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 親はしつけがきびしい	**あてはまる%**	49.1%	46.3%	51.4%	47.6%	49.6%	49.6%
2. 親は教育熱心だ		35.9%	36.7%	35.2%	42.3%	37.7%	30.3%
3. くらしむきは(生活は)豊かだ		68.6%	71.5%	66.3%	70.6%	69.8%	66.4%
4. 親は欲しいものはほとんど買ってくれる		27.5%	24.5%	29.8%	32.7%	28.1%	23.7%
5. 家には本が多い(マンガ・雑誌・学習参考書は除く)		44.9%	48.6%	42.0%	51.5%	43.4%	41.8%
6. 親と将来のことについて話をする		67.0%	64.8%	68.6%	72.8%	66.0%	64.0%
7. 父を尊敬している		56.9%	59.5%	54.8%	62.8%	55.9%	53.9%
8. 母を尊敬している		71.4%	65.1%	76.4%	76.4%	67.7%	71.1%
9. 親の期待を負担に思うときがある		42.8%	43.3%	42.4%	45.8%	44.1%	39.7%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

28.あなた自身についてたずねます。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 人を笑わせるのが得意である	**あてはまる%**	51.7%	43.5%	58.4%	51.7%	52.9%	50.8%
2. 何でも話せる友人がいる		83.6%	79.3%	87.1%	84.5%	83.5%	83.1%
3. 友人から信頼されている		60.2%	56.8%	62.8%	64.3%	60.2%	57.6%
4. 友人とは電話・携帯のほうが話しやすい		22.8%	23.9%	22.0%	17.8%	20.6%	27.6%
5. 人と遊ぶより一人で遊ぶほうが好きである		27.4%	26.5%	28.1%	26.4%	28.9%	26.8%
6. 人からどう思われているか気になる		80.1%	75.8%	83.7%	84.0%	81.4%	76.8%
7. 誰とでも気軽に付き合える		55.7%	57.8%	53.9%	60.6%	54.3%	53.8%
8. 友人の意見に合わせようとする		62.0%	66.0%	58.7%	64.7%	62.3%	60.1%
9. 先頭に立ってものごとをするのが好きだ		28.1%	28.4%	27.7%	31.3%	28.1%	26.2%
10. 自分に自信がある		16.5%	23.4%	11.0%	19.1%	15.2%	16.0%
11. 自分が好きだ		24.5%	30.3%	19.8%	27.5%	21.7%	24.9%

29.次のそれぞれについて、あなたの気持ちに一番近いものの番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 公共の場所での会話は周囲を気にするべきだ	**そう思う%**	88.5%	87.9%	89.1%	92.4%	89.6%	85.5%
2. 公共の場所での化粧はつつしむべきだ		72.0%	69.6%	74.0%	77.6%	70.4%	69.7%
3. 公共の場所で地べた座りはするべきではない		75.3%	70.1%	79.4%	81.3%	73.1%	73.3%
4. 電車の中でお年寄りに座席を譲るべきだ		93.1%	90.8%	95.0%	94.9%	94.1%	91.3%
5. 公共の場では携帯での話しはつつしむべきだ		83.2%	82.1%	84.1%	87.3%	83.8%	80.2%
6. 近所の人に会ったらあいさつするべきだ		89.9%	87.4%	91.9%	91.2%	92.5%	87.2%
7. 友達との待ち合わせの時間は守るべきだ		95.5%	94.5%	96.3%	95.9%	96.4%	94.6%
8. たとえ休日でも出かけるときは身だしなみを整えるべきだ		78.6%	77.9%	79.2%	80.7%	78.5%	77.6%
9. 目上の人への言葉づかいは気をつけるべきだ		95.3%	93.6%	96.8%	95.5%	95.4%	95.1%

30.この中に、高校生としての自分が「やってはいけない」と思うものがあれば、いくつでも番号に○をつけてください。

		全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
	平均○個数	**8.2**	**8.4**	**8.1**	**9.0**	**8.1**	**7.8**
1. 友だちと酒を飲む	**はい%**	64.9%	64.4%	65.4%	73.1%	61.8%	62.2%
2. タバコをすう		83.6%	82.3%	84.7%	90.6%	83.6%	79.2%
3. シンナーをすう		96.8%	94.6%	98.7%	97.7%	97.7%	95.6%
4. 万引きをする		93.7%	90.2%	96.5%	97.1%	93.3%	92.0%
5. いじめ		88.4%	83.6%	92.3%	90.8%	87.5%	87.6%
6. 学校の物をこわす		75.9%	73.8%	77.6%	80.9%	73.8%	74.4%
7. 学校の規則に合わない服装をする		48.6%	54.9%	43.7%	54.6%	44.9%	47.8%
8. オートバイ、バイクに乗る		59.6%	59.0%	60.2%	64.7%	58.9%	57.0%
9. 口紅やマニキュアをつける（化粧をする）		38.1%	53.3%	26.1%	38.6%	34.3%	40.8%
10. 髪の毛を染める		41.6%	53.4%	32.2%	44.8%	39.0%	41.6%
11. ピアスをする		49.1%	62.2%	38.7%	56.9%	43.9%	48.2%
12. 学校をさぼってブラブラする		57.4%	59.3%	56.0%	62.8%	54.6%	56.2%
13. 無断で外泊をする		47.0%	43.0%	50.2%	53.2%	44.6%	45.1%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

31.あなたははやく大人(おとな)になりたいと思いますか。それともそうは思いませんか。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. そう思う	30.9%	29.1%	32.4%	28.7%	30.8%	32.2%
2. そうは思わない	35.6%	37.9%	33.7%	37.8%	35.1%	34.7%
3. どちらともいえない、わからない	33.5%	33.1%	33.9%	33.5%	34.1%	33.2%

≪上の質問に1. そう思う と答えた人にたずねます。≫
あなたが早く大人になりたいと思うのは、どんな理由からでしょうか。この中から、あなたの気持ちに一番近いものの番号1つに〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 勉強しなくてよいから	13.9%	12.7%	14.8%	11.7%	12.8%	15.8%
2. 好きな遊びが何でもやれるから	11.4%	13.5%	9.8%	9.4%	11.7%	12.1%
3. やりたい仕事に早くつきたいから	27.1%	27.4%	26.8%	30.5%	27.9%	24.7%
4. 早く一人前に扱ってほしいから	7.0%	7.2%	6.9%	7.8%	9.5%	4.9%
5. 父や母に楽をさせたいから	14.6%	16.5%	13.2%	14.8%	11.7%	16.6%
6. 欲しいものが自由に買えるから	11.2%	10.5%	11.7%	12.5%	8.4%	12.6%
7. その他	14.8%	12.2%	16.7%	13.3%	17.9%	13.4%

≪上の質問に2. そうは思わない と答えた人にたずねます。≫
あなたが早く大人になりたいと思わないのは、どんな理由からでしょうか。この中から、あなたの気持ちに一番近いものの番号1つに〇をつけてください。

	全体	男	女	普通科Ⅰ	普通科Ⅱ	専門学科
1. 大人になると、働かなくてはいけないから	8.3%	9.8%	7.0%	8.3%	7.7%	8.8%
2. 子どもでいるほうが楽だから	31.2%	31.7%	30.5%	33.9%	32.2%	28.7%
3. 大人になっても、特にやりたいこともないし、夢もないから	7.4%	9.5%	5.5%	5.6%	8.2%	8.1%
4. 大人になって、仕事や家のことをちゃんとやっていける自信がないから	14.2%	10.8%	17.4%	12.8%	15.9%	14.0%
5. まわりの大人をみていると、ずるい人や自分勝手な人が多いから	11.8%	13.0%	10.8%	11.1%	8.2%	15.1%
6. 大人になることが何となく不安だから	18.9%	16.2%	21.5%	18.9%	20.7%	17.6%
7. その他	8.0%	8.9%	7.3%	9.4%	7.2%	7.7%

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

2008 年 6 月

高校生の意識と行動に関する調査

香川大学大学院　教育学研究科　院生　中西公子
（香川県立善通寺西高等学校　教諭）
指導教員　　教授　加野芳正

調査ご協力へのお願い

この調査は、高校生の皆さんが日頃どのような生活をし、どのようなことを考えて学校生活を送っているのかをお聞きし、高校教育のあり方を考える参考にしようとするものです。

皆さんに記入していただいたあと、すぐにコンピューターに入力し、結果はすべてパーセントを計算するなど統計的に処理しますので、皆さんの回答が誰かに知られるようなことは決してありません。

答えは、特に指示のないかぎり、あてはまる番号に○をつけてください。

それでは、ありのまま、思うままを正確に答えてください。

あなたの学科名・学年を［　　］に書いてください。

［　　］科　　［　　］年

あなたの性別は？

１．男	２．女

この調査についての問合せ先
香川大学教育学部教育社会学研究室
〒760-8521　　高松市幸町 1-1
Tel　　087-832-1531（加野研究室）
E-Mail　kanotti@ed.kagawa-u.ac.jp

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

1．あなたは平日、次のことをどのくらいしますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	ほとんどしない	10分くらい	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間以上
1．テレビを見たり、ラジオを聞いたりする・・・・・・	1	2	3	4	5	6
2．マンガや雑誌を読む・・・・・	1	2	3	4	5	6
3．小説や教養書などの本を読む・・・・・	1	2	3	4	5	6
4．友だちと携帯や電話で話したり、メールしたりする・・・・・・	1	2	3	4	5	6
5．パソコンや携帯でインターネットをする・・・・	1	2	3	4	5	6
6．勉強をする・・・・・・	1	2	3	4	5	6
7．新聞を読む・・・・・・	1	2	3	4	5	6

2．平日の放課後あなたはおもに何をしますか。あてはまるものを多い順に3つまで選んでください。

1．まっすぐ家へ帰る
2．友だちと話をする
3．友だちと遊びに行く
4．一人で街をぶらぶらする
5．何となく学校に残っている
6．部活動に参加する
7．委員会活動に参加する
8．アルバイトをする
9．塾や予備校に行く
10．その他（具体的に　　）

第　1　位	
第　2　位	
第　3　位	

3．あなたは、お小遣(こづか)いを月にいくら家の人からもらっていますか。あてはまる番号に○をつけてください。
とくに決まっていない場合でも、おおよその額を選んでください。

1．～1,000円ぐらい
2．2,000円ぐらい
3．3,000円ぐらい
4．4,000円ぐらい
5．5,000円ぐらい
6．7～8,000円ぐらい
7．10,000円ぐらい
8．15,000円ぐらい
9．20,000円ぐらい
10．20,000円以上
11．なし

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

4. あなたは学校内での部活や同好会に所属していますか。部名、また1週間あたりの活動日数についても答えてください。

1．はい

2．いいえ

	部・同好会名	1週間あたりの活動日数
1．運動部		日
2．文化部		日
3．同好会		日

〈あなたの学校生活についてたずねます。〉

5. 次のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1．学校生活は楽しい	・・・・・・・1	2	3	4
2．クラスに親しみを感じる	・・・・・・・1	2	3	4
3．学校の休み時間は楽しい	・・・・・・・1	2	3	4
4．気軽に話し合える先生が多い	・・・・・・・1	2	3	4
5．就職や進学について友人と話すことが多い	・・・・・・・1	2	3	4
6．クラスに気の合う人が多い	・・・・・・・1	2	3	4
7．校則は厳しい	・・・・・・・1	2	3	4
8．先生の言うことに納得がいかないことがある	・・・1	2	3	4
9．学校をやめたいと思うことがある	・・・・・・・1	2	3	4
10．進路に役立つ授業が多い	・・・・・・・1	2	3	4
11．自分の興味、関心にあった授業が多い	・・・・・・1	2	3	4

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

6. 次の意見について、あてはまる番号に○をつけてください。

	とてもよく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
1．学校へは勉強をするために来ている ・・・・・・	1	2	3	4
2．学校へは友達と話をするために（会うために）来ている	1	2	3	4
3．学校へは部活をするために来ている ・・・・・・	1	2	3	4
4．学校へは他に行くところがないのでとりあえず来ている	1	2	3	4

7. 校則についてたずねます。それぞれについて、あなたの意見にもっとも近い番号に○をつけてください。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1．校則を守るのは高校生として当然である ・・・・	1	2	3	4
2．校則を守るのは先生から悪く見られないためだ・・・・	1	2	3	4
3．校則を守れば、就職や進学に有利になる ・・・・	1	2	3	4
4．校則をよく守る人はそうでない人よりも尊敬できる ・	1	2	3	4
5．校則は生徒自身の意見を尊重して作られるべきだ・・・	1	2	3	4

8. あなたは、あなたの学校の校則をどの程度知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1．とてもよく知っている
2．まあまあ知っている
3．あまりよく知らない
4．全く知らない

9. あなたは、あなたの学校の校則をどのくらい守っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1．とてもよく守っている
2．まあまあ守っている
3．あまり守っていない
4．全く守っていない

10.授業についてたずねます。それぞれについて、あなたにあてはまる番号に○をつけてください。

	とてもよく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
1．授業はわかりやすい ・・・・・・	1	2	3	4
2．予習をする ・・・・・・	1	2	3	4
3．授業にまじめに参加する ・・・・・・	1	2	3	4

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

４．ノートをきちんととる	・・・・・・１	２	３	４
５．授業には満足できる	・・・・・・１	２	３	４

11.あなたの学校の先生についてたずねます。あなたは、どういう先生が人気があると思いますか。それぞれについて、あてはまる番号に〇をつけてください。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
１．知識の豊富な先生	・・・・１	２	３	４
２．ユーモアのある先生	・・・・１	２	３	４
３．きびしい先生	・・・・１	２	３	４
４．えこひいきしない先生	・・・・１	２	３	４
５．親身になって考えてくれる先生	・・・・１	２	３	４
６．授業に熱心な先生	・・・・１	２	３	４
７．よく話を聞いてくれる先生	・・・・１	２	３	４

12.あなたは、授業がどのくらいわかりますか。あてはまる番号に〇をつけてください。

１．ほとんど全部わかる
２．７割くらいわかる
３．半分くらいわかる
４．３割くらいわかる
５．ほとんどわからない

13.あなたの成績は学年・学科内でどのくらいですか。あてはまる番号に〇をつけてください。

上　　中　　下
５――――４――――３――――２――――１

14.あなたは、学校の成績が下がると気になりますか。あてはまる番号に〇をつけてください。

１．たいへん気になる
２．かなり気になる
３．少し気になる
４．気にならない

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

15.成績について、あなたの考えにもっとも近い番号に〇をつけてください。

１．少しでも成績を上げるようにしたい
２．仲間についていけるぐらいにしたい
３．せめて欠点だけはとらないようにしたい
４．成績のことはどうでもよく、留年するようなことになってもかまわない

16.あなたの授業以外の勉強時間は平均すると平日でおよそどのくらいですか。テスト発表期間中やテスト期間中は除きます。また、塾や予備校、また放課後学校に残って勉強する時間などすべて含みます。あてはまる番号に〇をつけてください。

１．０時間
２．３０分以内
３．３０分から～１時間
４．１～1.5 時間
５．1.5～２時間
６．２～３時間
７．３～４時間
８．４～５時間
９．５～６時間
10．６時間以上

17.あなたが現在の学校を選んだ理由は何ですか。あてはまるものを強い順に2つまで選んで下さい。

１．家に近いから
２．親や先生などまわりの人がすすめたから
３．学費の経費が安いから
４．自分の学業成績を考えて
５．自分の才能、適性を考えて
６．就職に有利だから
７．大学進学に有利だから
８．他の学校に合格できなかったから
９．学校の伝統や評判がよいから
10．友だちが行くから
11．その他（具体的に　　）

第　1　位	
第　2　位	

18.あなたは、はじめから現在の学校・学科を希望していましたか。あてはまる番号1つに〇をつけてください。

１．はじめから現在の学校・学科を希望していた
２．現在の学校の別の学科を希望していた
３．別の学校の現在と同じ学科を希望していた
４．別の学校の別の学科を希望していた
５．特に行きたい学校はなく、どの学校でもよかった
６．本当は高校に行きたくなかった

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

〈あなたの将来や進路についてたずねます〉

19.あなたは、高校卒業後どのような進路をとりたいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

１．４年制の国・公立大学
２．４年制の私立大学
３．短期大学
４．専修学校・各種学校
５．就職
６．その他（具体的に　　）

20.あなたの将来の生活にとって、次のものはどの程度重要だと思われますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても重要	やや重要	あまり重要でない	全く重要でない
１．高い収入が得られること	・・・・・・1	2	3	4
２．会社の中で高い地位につけること	・・・・・・1	2	3	4
３．収入が安定していること	・・・・・・1	2	3	4
４．社会や人のためになること	・・・・・・1	2	3	4
５．清く正しくくらすこと	・・・・・・1	2	3	4
６．自分の家族や家庭生活を大切にすること	・・・1	2	3	4
７．自分の思い通りに自由にできること	・・・・・1	2	3	4
８．自分の能力が発揮できること	・・・・・・1	2	3	4
９．休日・休暇が多いこと	・・・・・・1	2	3	4
10．自分の趣味にあったくらしができること	・・・1	2	3	4
11．他人との人間関係を大切にすること	・・・・・1	2	3	4

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

〈友人についてたずねます。〉

21.あなたは、ふだんよくつきあっている友人グループがいくつありますか。学校内・外は問いません。あてはまる番号1つに○をつけてください。（あなたと友だちの2人でも、グループとします。）

１．ない
２．１つ
３．２つ
４．３つ
５．４つ
６．５つ以上

≪上の質問に2～6と答えた人は回答してください。≫

a.)もっとも仲のよいグループのメンバーはあなたを入れて何人ですか。

１．２人
２．３人
３．４～６人
４．７～９人
５．１０人以上

b.)もっとも仲のよいグループについて、あてはまるときは1（はい）、あてはまらないときは2（いいえ）に○をつけてください。

		１．はい	２．いいえ
１．現在同じクラスの人が多い	・・・・・	1	2
２．現在同じ学年の人が多い	・・・・・	1	2
３．現在同じ学校の人が多い	・・・・・	1	2
４．現在同じ部の人が多い	・・・・・	1	2
５．同じ中学出身の人が多い	・・・・・	1	2
６．同性の人のみである	・・・・・	1	2
７．同じくらいの成績の人が多い	・・・・・	1	2
８．メンバーはいつも決まっている	・・・・・	1	2
９．休日一緒に行動することが多い	・・・・・	1	2
10. 何でも悩みごとを相談しあえる	・・・・・	1	2
11. 将来ずっと続くグループだと思う	・・・・・	1	2

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

≪ここからはまた全員答えてください。≫

c.)あなたはふだん友人とどんな話をしますか。おもなもの2つに〇をつけてください。

１．成績や勉強について
２．部活動について
３．将来の進路について
４．他の友人について
５．芸能界やタレントについて
６．おしゃれやファッションについて
７．社会問題や政治・経済について
８．異性について
９．悩みごとについて
10. その日学校で起こったことについて
11. その他（　　）

d.)あなたの友人関係は次のどちらに近いと思いますか。

１．多くの友人と広くつきあう
２．少数の友人と深くつきあう

22.テレビについてたずねます。
あなたは平日、平均すると1日何時間ぐらいみますか。

１．３０分以内
２．１時間ぐらい
３．１時間３０分ぐらい
４．２時間ぐらい
５．２時間３０分ぐらい
６．３時間ぐらい
７．それ以上

23.携帯電話についてたずねます。あてはまる番号に〇をつけてください。
あなたは、あなた自身が専用に使っている携帯電話を持っていますか。

１．持っている
２．持っていない

≪上の質問に、1. 持っている　と答えた人のみ回答してください。≫

a.)いつから持っていますか。

１．小学校の頃から
２．中学校の頃から
３．高校へ入学してから

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

b. ）1日に何時間ぐらい携帯電話を使用していますか。通話、メール、インターネットすべてを含んで回答してください。

１．３０分以内
２．１時間ぐらい
３．１時間３０分ぐらい
４．２時間ぐらい
５．２時間３０分ぐらい
６．３時間ぐらい
７．それ以上

c. ）1ヶ月の使用料金はいくらぐらいですか。

１．5,000 円以内
２．5,000 円～10,000 円
３．10,000 円～15,000 円
４．15,000 円～20,000 円
５．20,000 円以上

d. ）使用料金の支払いは誰がしていますか。

１．親（保護者）
２．自分
３．その他（具体的に　　）

e. ）携帯についての意見について、あてはまる番号に○をつけてください。

		１．はい	２．いいえ
１．携帯電話を学校に持ってきている	・・・	1	2
２．携帯電話を家に忘れると取りに帰りたくなる	・・・	1	2
３．メールが届いていないかよくチェックする	・・・	1	2
４．メールにはすぐ返事をかえすようにしている	・・・	1	2

f. ）一日に何回ぐらいメールを送信していますか。あてはまる番号に○をつけてください。（複数の友達に一斉に送る場合は一回と数えてください。）

１．０～２０回ぐらい
２．２０～３０回ぐらい
３．３０～５０回ぐらい
４．５０～１００回ぐらい
５．１００回以上

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

24.塾・習い事等についてたずねます。あてはまるものに○をつけてください。
あなたは次のものに通っていますか。

1．学習塾・予備校に通っている　・・・・・・はい　いいえ

2．通信教育をしている　・・・・・・はい　いいえ

3．家庭教師に習っている　・・・・・・はい　いいえ

4．習い事をしている　・・・・・・はい　いいえ

↓

何を習っていますか？（　　）

≪上の質問に、ひとつでも「はい」と答えた人は回答してください。≫

a.）1週間、塾や予備校、習い事にあわせて何日通っていますか。

1．１日
2．２日
3．３日
4．４日
5．５日以上

b.）塾や予備校に通っている人にたずねます。それぞれについて、あてはまる数字に○をつけてください。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1．塾・予備校の授業はよくわかる	1	2	3	4
2．塾・予備校の授業はおもしろい	1	2	3	4
3．塾・予備校のほうが学校よりも勉強にうちこめる	1	2	3	4
4．塾・予備校のほうが学校よりも質問しやすい	1	2	3	4
5．塾・予備校の先生と気楽に話せる	1	2	3	4
6．塾・予備校の先生は尊敬できる	1	2	3	4
7．塾・予備校では友だちと深くつきあえる	1	2	3	4

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

25.アルバイトについてたずねます。

あなたは、アルバイトをしたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

１．現在している
２．夏休みなど、長期の休みの時だけにする
３．以前したことがあるが現在はしていない
４．したことがない

≪上の質問に1．2．3と答えた人にたずねます。2．3．と答えた人は、一番最近にしたアルバイトについて答えてください。≫

a.）どこでしていますか。どのような仕事内容ですか。

どこで（例：うどん屋、コンビニ）	内容（例：接客、販売）

b.）アルバイトをしているのはなぜですか。強い順に2つまで選んでください。

１．こづかい（携帯電話代も含む）をかせぐため
２．やってみたい仕事だったから
３．実社会に触れたかったから
４．友だちに誘われたから
５．家計を助けるため
６．その他（具体的に　　）

第　1　位	
第　2　位	

c.）初めてアルバイトをしたのはいつ頃ですか。

１．高校入学以前
２．高校１年生
３．高校２年生
４．高校３年生

d.）週に何日ぐらいしていますか。

１．１日
２．２日
３．３～４日
４．５～６日
５．月に１～２日

e.）アルバイト収入は月にいくらぐらいですか。

１．１万円未満
２．１万～３万円
３．３万～５万円
４．５万～８万円
５．８万円以上

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

26.あなたはだれと一緒にくらしていますか。あてはまる番号すべてに〇をつけてください。

１．父	５．兄	９．その他
２．母	６．姉	
３．祖父	７．弟	
４．祖母	８．妹	

27.あなたの家のことについてたずねます。それぞれについて、あてはまる番号に〇をつけてください。

	とてもよく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
１．親はしつけがきびしい	・・・・・・1	2	3	4
２．親は教育熱心だ	・・・・・・1	2	3	4
３．くらしむきは（生活は）豊かだ	・・・・・・1	2	3	4
４．親は欲しいものはほとんど買ってくれる	・・・1	2	3	4
５．家には本が多い（マンガ・雑誌・学習参考書は除く）	・・・・・・1	2	3	4
６．親と将来のことについて話をする	・・・・・・1	2	3	4
７．父を尊敬している	・・・・・・1	2	3	4
８．母を尊敬している	・・・・・・1	2	3	4
９．親の期待を負担に思うときがある	・・・・・・1	2	3	4

28.あなた自身についてたずねます。それぞれについて、あてはまる番号に〇をつけてください。

	とてもよく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
１．人を笑わせるのが得意である	・・・・・・1	2	3	4
２．何でも話せる友人がいる	・・・・・・1	2	3	4
３．友人から信頼されている	・・・・・・1	2	3	4
４．友人とは電話・携帯のほうが話しやすい	・・・1	2	3	4
５．人と遊ぶより一人で遊ぶほうが好きである	・・1	2	3	4

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

６．人からどう思われているか気になる・・・・・	１	２	３	４
７．誰とでも気軽に付き合える　・・・・・・・	１	２	３	４
８．友人の意見に合わせようとする・・・・・・・	１	２	３	４
９．先頭に立ってものごとをするのが好きだ・・・	１	２	３	４
10．自分に自信がある　・・・・・・・	１	２	３	４
11．自分が好きだ　・・・・・・・	１	２	３	４

29.次のそれぞれについて、あなたの気持ちに一番近いものの番号に〇をつけてください。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
１．公共の場所での会話は周囲を気にするべきだ・・・・	１	２	３	４
２．公共の場所での化粧はつつしむべきだ　・・・・・・	１	２	３	４
３．公共の場所で地べた座りはするべきではない・・・・	１	２	３	４
４．電車の中でお年寄りに座席を譲るべきだ・・・・・・	１	２	３	４
５．公共の場では携帯での話しはつつしむべきだ・・・・	１	２	３	４
６．近所の人に会ったらあいさつするべきだ・・・・・・	１	２	３	４
７．友達との待ち合わせの時間は守るべきだ・・・・・・	１	２	３	４
８．たとえ休日でも出かけるときは身だしなみを整えるべきだ　・	１	２	３	４
９．目上の人への言葉づかいは気をつけるべきだ　・・・・	１	２	３	４

30.この中に、高校生としての自分が「やってはいけない」と思うものがあれば、いくつでも番号に〇をつけてください。

１．友だちと酒を飲む
２．タバコをすう
３．シンナーをすう
４．万引きをする
５．いじめ
６．学校の物をこわす
７．学校の規則に合わない服装をする
８．オートバイ、バイクに乗る
９．口紅やマニキュアをつける（化粧をする）
10．髪の毛を染める
11．ピアスをする
12．学校をさぼってブラブラする
13．無断で外泊をする

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

31.あなたははやく大人(おとな)になりたいと思いますか。それともそうは思いませんか。

１．そう思う　　２．そうは思わない　　３．どちらともいえない、わからない

≪上の質問に1. そう思う と答えた人にたずねます。≫
あなたが早く大人になりたいと思うのは、どんな理由からでしょうか。この中から、あなたの気持ちに一番近いものの番号 1 つに〇をつけてください。

１．勉強しなくてよいから
２．好きな遊びが何でもやれるから
３．やりたい仕事に早くつきたいから
４．早く一人前に扱ってほしいから
５．父や母に楽をさせたいから
６．欲しいものが自由に買えるから
７．その他

≪上の質問に2. そうは思わない と答えた人にたずねます。≫
あなたが早く大人になりたいと思わないのは、どんな理由からでしょうか。この中から、あなたの気持ちに一番近いものの番号 1 つに〇をつけてください。

１．大人になると、働かなくてはいけないから
２．子どもでいるほうが楽だから
３．大人になっても、特にやりたいこともないし、夢もないから
４．大人になって、仕事や家のことをちゃんとやっていける自信がないから
５．まわりの大人をみていると、ずるい人や自分勝手な人が多いから
６．大人になることが何となく不安だから
７．その他

32.今考えていることや、思っていることがあったら自由に書いてください。

１．社会について	２．学校について	３．家族について	４．自分について

ご協力ありがとうございました。